首都圏災害史年表幕末・明治編(暫定版、2021年8月)

【解題】

茨城:宮間純一 群馬:鈴木智行 栃木:伊藤陽平

山梨:高野宏峰

全体統合・補正:土田宏成・参考とした文献のタイトルは、最右列に掲載した。

・一学がそとした人間のグライドがは、表現がに特徴もした。 ・作成作業中に新型コロナウイルス(COVID-19)の感染が拡大し、国公立や大学付属の図書館の利用が制限され、作業が予定どおり進まなくなった。いまだ作業途中であるが、災害史研究上や防災上に資するところが多いと考え、暫定版として公表することとした。 今後、大正・昭和編の作成を進めるとともに、幕末・明治編も改訂していく予定である。 ・本年表はJSPS科研費18K00971の研究成果の一部である。

年 (西	月日	(旧暦)	月日	都府県名	災害の種類	災害名など	被災地域	被害の概要	出典
1854	12 2	3 安政元	11 4	神奈川	地震	相模·伊豆大震	神奈川県	安政元年十一月四、五日は震域の広い地震で、本地方一帯もまた民家倒潰、海嘯襲来の害を受けた。	『神奈川県史概説下巻』
1854		安政元		埼玉		安政地震	埼玉県内	朝4つ時に地震があり、県内の被害は軽徴だが、東海や西日本では津波を伴う大地震となる。	『新編埼玉県史』通史4
1855		安政元		神奈川	火災		橘樹樹郡下星川村	16棟焼失	『横浜近代史総合年表』
1855		4 安政元	12 28			安政元年12月28日大火	神田、日本橋	神田大町より出火し、約120町焼失	『東京市史稿 変災編 第4』
1855		安政2	2 12	神奈川		東海道大地震			『横浜近代史総合年表』
1855	4 1	3 安政2	3 2			安政2年3月2日大火	日本橋、浅草	小網町1丁目より出火、約68町焼失	『東京市史稿 変災編 第4』
1855	7 1	7 安政2	6 4	埼玉	洪水		鷲宮町、幸手領	大雨で幸手領の耕地が一円冠水。	『杉戸町史』
1855	9 7			群馬	洪水			松原雄船難破、行方不明3、死者6(山田郡) 橋落、下久屋河原押し流される(糸之瀬村) 渡良瀬川西谷田村で破堤(色楽水書記)	『群馬県気象災害史』
	10 6	安政2	8 26	群馬	豪雨			暴風雨(薄根村)	『群馬県気象災害史』
1855	10	安政2	9	山梨	洪水			差出水門破壞	『山梨県の気象』
1855	11 1	安政2	10 2	神奈川	地震	安政江戸地震	寒川町	ペリー来航四か月前の嘉永六年二月二日, 小田原周辺に大地震が襲い、死傷者が八00名ほど出たほか, 小田原城も崩壊した(『県史』別 編3年表)。つづいて安政二年(1855) 十月二日夜、江戸直下を震滅とするいわゆる「安政の大地震」が発生した。 これら一連の地震災害は、一之宮村寄場組合に直接的な被害をもたらしたものではなかったが、この地震による混乱に乗じた不穏な動き を警戒するため、同年十月十二日、関東取締出役よりその見廻り強化の励行が通速されている(『町史』9史料171)。また取締りと並行して、 諸物価や職人手間貴が便乗値上げをしないようにとの指示も出している。これは、災害による江戸での物価上昇を抑制するために、江戸近郊の物価統制を意図したものであろう。	『寒川町史6 通史編 原始・古代・中世・ 近世』
1855	11 1	安政2	10 2	神奈川	地震	安政江戸地震	綾瀬市	安政二年一〇月二日夜一〇時、マグニチュード六・九の地震が江戸を中心に起こった。三浦半島では大津陣屋の土蔵・石垣が崩れ、所々の御台場の破損もひどかった。「浜浅葉日記」には、上宮田陣屋が大方潰れ、即死六人とある。	『逗子市史 通史編 古代・中世・近世・近世・近世・近日・ 近現代編』近世編第六章第三節『凶災と
1855	11 1	安政2	10 2	神奈川	地震	安政江戸地震	藤沢市	この江戸大地震は藤沢地域にも影響を及ぼし幾人かの死者と相当数の家屋の被害をもたらした。『藤沢沿革寿』によれば、藤沢宿の被害について、「十月二日、江戸復大二震ヒ、当所マタ漠家無数、死者一人アリ」と述べている。・・ところ、『麻沢宿が消資案無数」というほどの被害を出しているのに対し、近隣の小塚村の場合はきわめて対照的である。同村が領主役所からの問い合わせ(「市史」第二巻・災害三といすして差し出した震災に関する報告書(『市史』第二巻・災害三人)は、家屋の本倒・半倒・大破・死人・牛馬死亡・道路損等が同村では一切ないったと述べており、藤沢宿の場合と比べて奇異な感を与えている。町場に家屋の倒壊が多数出たのは、建物の構造によるものであったのであろうか、この点ははっきりしない。いずれにしても、近隣村々の場合は、町場ほど大きな被害は出なかったようである。ただ、当時小塚村・片瀬村などの鎌倉郡諸村が属していた彦根藩預り所では、三浦とある障屋が大破するという出来事があった。同藩役場では、このため支配村々に触れを回し、領内の大工、木挽、家根師、左官屋全員に対し陣屋の復旧工事に従事するよう厳命を下している(『市史』第二巻・災害三六、三八)。	『藤沢市史 第五巻 通史編』
1855	11 1	安政2	10 2	神奈川	地震	安政江戸地震			『横浜近代史総合年表』
1855	11 1	安政2	10 2	埼玉		安政江戸地震	埼玉県内	県域南部・東部の被害大きい。地割れや激しい液化現象(クイックサンド)見られる。特に幸手領の被害が大きい。	『新編埼玉県史』通史4、別編3自然
		安政2		千葉		安政江戸地震	千葉県	10月2日関東大地震あり、房総の地も亦民家倒潰し人畜の死傷少からず。 10月初旬大地震起り振動甚だ激し。地裂けて家屋、土蔵等倒壊し人畜に危害を及ぼせり。爾後数日間昼夜引続き激動あり。人心恂々皆竹 林に危難を避けたりといふ。	『千葉県気象災害史』
		安政2		東京		安政江戸地震	江戸市中全域	江戸市中の死者数1万人前後。大名屋敷は、266家のうち116家で死者が発生。特に、大名小路(現在の丸の内辺り)にあった55家のほぼ全てが何らかの被害。旗本・御家人の死傷者数は不明。建物の被害は全体の約80%と推定。町人地の家屋は1万4000余軒が倒壊(特に深川で大きな)独立。	報告書』、『東京市史稿 変災編 第1』
1855	11 1	安政2	10 2	神奈川	地震	安政江戸地震	神奈川県	安政二年十月二日には江戸では火災を伴い、潰家一万四千三百十六戸、死者一万五千を出し、慶安二年、元禄十六年の地震と併称して江 戸時代の三大地震という。	『神奈川県史概説下巻』

		1		Inches:	L		Lucione		
		安政2			地震	安政江戸地震	神奈川県	この日江戸にはこまかな雨が時々降ったが、夜に入って止んだ(『武江年表』)。大地が鳴動したのは午後十時頃のことである。高座郡柳島村(茅ヶ崎市)の名主藤間氏は、その時にわかに大風が吹いてくるような音がした。と書いている(「大地震風聞書上)―『資料編』10近世(7)182)。これは大地が揺れる音である。藤間氏は大地の鳴動にぴっくりしたが、翌日になって点検すると土蔵の一部にひび割れが入った程度で、外に被害はなかった。しかし、柳島村は根模川の河口だらき渡の恐れがあり不安に駆られた。結局達波はこなかった。やがて各地の被害状況についての噂が入ってきた。一之宮村(寒川町)の入沢氏では土蔵の壁がくずれた、厚木や藤沢はひどいらしい、小田原は大したことはないらしい、といったことである。・・・この地震による被害の範囲は、東海道は川崎・神奈川、中山道は浦和・大宮、日光街道は場合谷・大門、水戸街道は松戸・小金、甲州道中は布田・府中あたりまでだという噂を割して、「江戸十里四方の大地震近年積なる変事なり、」と彼は記した。この噂のように、川崎・神奈川の被害はかなりひどかったらしい。翌三年四月、神奈川宿の間屋・午寄は代官あてに修復費拝信願を提出したが、それには「去る卯震災」につき、当宿両本陣ならびに旅籍屋とも儀、銘々家作大破におよび候・・・」とある(『資料編』10近世(7)184)。川崎でも同様だったのであろう。総じて地震による被害は江戸に近い県東ぼよびとかった。藤沢地域では御預所役所の陣屋が大破したので大工・木挽・家根屋・左官等が動員されている(『藤沢市史』第二巻)。このように、部分的には大きな被害があったが、県内の大勢としては被害村が小さかったか、全なかったといってよいようである。十月中旬幕府は名所管を通して被害状況を調査させた。それに対する鎌倉郡小塚守(藤沢市)の報告が残っているが、それによると建物(含土蔵)の全演・半演・大破寺はなく、道橋の損壊もない。また死人や牛馬死亡もなかった。総じて、取り立てるほどの被害はなかったらである。「藤沢市史』第二巻)。相模原地域でも「地震の道からはずれたか、建築構造・家屋の教室等の影響から、大した被害もなかったらしく、そういう記録も見当らない」という(座間美都治「安政の地震と相模原」一同『相模原の歴史と文化』所収)。	
1855 1856	11 11 6	<u>安政</u> 安政3	10 2 5	<u>茨城県</u> 神奈川	地震 その他	安政江戸地震 干ばつ	寒川町 寒川町	水戸藩江戸小石川邸で戸田忠太夫(忠敞)、藤田東湖が圧死。 安政三年は天候不順が続き、寒川町域の村むらにとってすこぶる不安定な年であった。五月以降は雨が降らず旱魃となった。	『茨城県史年表』 『寒川町史6 通史編 原始・古代・中世・
1856	8	安政3	8	東京	洪水		多摩川下流左岸	多摩川大洪水。満水で、下流左岸・猪方・和泉堤切断され、一円に水害。	近世』 『多摩川誌』(世田谷区の用水と河川) (羽田史誌)
1856	8	安政3	8	神奈川	暴風		藤沢市	安政三年(1856)の場合は、関東一円に及ぶ大水害であった。同年八月に発生したこの大風水害について、円行村の記録(『市史』第二巻、災害四二。これは、領主役所に差し出された被害届)は、「稀なる大風雨、ことに塩風にて田畑共存外の連作に御座帳」と述べ、さらに、同村農民の居宅四戸が倒域したと報告している。また、同年10月の小塚村の配録(『市史』事を、災害四四。これは、代年百五金納に関する願書)は、八月の大風と高波とによって、海辺の同村では多くの漁船や家屋が破損占しくは流失したこと、また、高波や塩風の害によって同年の米作に不熟米や穂枯れが夏大に発生し、収穫米のほとんどが「疲米、将米または白粉」であったと、その窮状を述べ、「銘々夫食(食料のこと)にもさしつかへ候ごとを理由に、年貢米を悪米相場をもって金納に代えてほしいと訴えている。	『藤沢市史 第五巻 通史編』
1856	8	安政3	8	千葉	洪水		手賀沼周辺	洪水。	『手賀沼周辺の水害』
1856	9 23	安政3	8 25	神奈川	豪雨		箱根・小田原・大磯	早旦より液雨濛々として地をひたし 黄昏に至り風巽に変り 粛然として吹き募り其夜戌刻より弥益烈敷強雨車軸を流すが如く 亥刻過るころ はひに至り風雨いよいよ彩敷 黒雲中に舞下り黒白も分ぬ中より電光四方へほとばしり 奔雷段々と鳴りたき樹木を飛し砂石を巻あげ(中 略)街道は箱根 小田原 大磯 平塚此辺は海さへ近き処なれば 是又破損の道橋家居沢山に見えたるなり(戸塚郷土史,武江年表,東京 市中路)	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部
1856	9 23	安政3	8 25	5 神奈川	暴風		神奈川県	この台風はハ月ニ十五日午後十時頃から吹きはじめ、翌自早朝まで吹き荒れたもので、その被害も大きかった。 高座郡渕野辺村(相模原市)では、百四十軒のうち八軒が「皆潰家」、十五軒が「大破損した。つまり十六パーセントが大被害を受けた。この外、小屋・物道の類が多く潰れ、寺社も被害を受けた。径我人も出たほどである(座間美都治「安政の地震と相模原」)一同「相模原の歴史と文化』所収)。高座郡上和田村(大和市)では、ハ十六軒のうち「居宅潰家」=九、同「半潰」=十八、つまり三一パーセントが大被害を受けた。この外、「小屋半潰」=五であり、ハ十六軒のうち四十四軒が何らかの被害を受けたのである(『大和市史』4)。増上寺領権樹郡小倉村(川崎市幸区)は十五、六軒程度の小さい村だが、ここでは六軒の居宅が「皆潰」になった。その外、物置=三、肥家=九が同様の被害を受けた。この村では被害を受けた者十軒、中には居宅・物置・肥家のいずれも皆潰」になった者がいる(深瀬昭一編『川崎領小倉 世紀の被害を受けた。この村では被害を受けた者十軒、中には居宅・物置・肥家のいずれも皆潰」になった者がいる(深瀬昭一編『川崎領小倉 を報告している。作物の吹倒れもひどかったようである(『藤沢市史』第二巻)。円行村は海辺の村ではないが、ここでも塩害がひどかったのである。三浦郡秋谷村(横須賀市)ではば「本側」の本屋が十六軒、そのうち四軒が高波にさらわれて流失した。また九反七畝余の田畑が「波欠荒」「たなった「任州三浦郡秋谷村(横須賀市)ではず本側の本屋が十六軒、そのうち四軒が高波にさらわれて流失した。また九反七畝余の田畑が「波欠荒」「たなった「任利三浦郡秋谷村(黄海賀)マ書」中巻)。	
1856	9 23	安政3	8 25	神奈川	暴風		大磯町	安政三年(1856)八月、大暴風で高麗寺神楽堂が全壊した。また、境内の松一三三本(一尺五寸から八尺廻りく四五センチメートル〜ニ・六メートルン)・杉、七本(一尺五寸から五尺廻りく四五センチメートル〜・・五メートルン)が中折れや倒木となる。末寺楊谷寺も、一丈(三メートル)廻りの松が倒れて本堂が全壊した。十月両寺とも東叡山へ倒木利用願いを出し、その木を利用して十一月本堂再建が始まった。	『大磯町史6 通史編 古代・中世・近世』 第三章第四節六『災害と普請』
1856	9 23	安政3	8 25	神奈川	暴風		綾瀬市	安政三年八月二五日の暴風に田越橋が大破して渡橋不能になり以後渡船となった。 小坪村では一八〇軒の民家が高波に呑まれ、漁船も敷機流された。この時漁師・同新肴場から見舞金として五〇両頂戴し、別に無利息で 百両拝借した。又、別に縄船・同も五四両を拝借している。池子村は御林の松・杉三尺廻り以上の大木が一〇二本も倒れ、潰家屋二二軒も あった。その内全壌三軒に英勝寺から米一俵ずつの教米が下された。この暴風の、三浦・鎌倉両郡での倒壊家屋一二〇六、波船七九一、死 者十六人と同年九月の毛利家文書に記されている。	『逗子市史 通史編 古代・中世・近世・近現代編』近世編第六章第三節『凶災と村人』
1856	9 23	安政3	8 25	神奈川	暴風		横須賀市	安政三年八月二五日の夜に大風が吹き、この地域に大きな被害をもたらした。秋谷村における被害の状況調査については何種類が残されており、細部では若干の食い違いがあるものの、おおよそ本家(母屋)の全壊、流失が三三軒、同じく地域が五軒(半壊と大破の違いの程度は不明)、物産・馬屋の全壊、流失が三十年、群蔵の大成が一軒、橋の流失が三十年、間のた人な彼が上野、格の流失が二九艘(うち整知五艘、小魚船二六艘、地引網用の船一艘)、水車の被害二件であった。耕地は田畑九反七畝ほどが「波欠荒」(高波による崩落)の被害を蒙っている(村耕地の約一・五別に相当)。馬は一頭が流失した。人的被害こそ免れたものの、高潮による田畑の塩害や多数の流船流失といった生産手段に関する被害は計り知れないほどに大きなダメージを与えたはずであり、住居を飛んた人々も多数いた。秋谷村の村役人は当時の長州藩預所役所に対して、百姓四軒分の御教い願いを提出している(当初は一九軒分の願いを提出しようと準備したが、領主側の基準に合わなかったのだろうか、うち一五軒分は提出していない)。	『新横須賀市史 通史編 近現代』第七章第二節『三浦半島西側の村一秋谷村 若命家文書を中心に一』
				神奈川	暴風雨		橘樹郡青木町	崩壊	『横浜近代史総合年表』
		安政3		群馬	洪水			大雨、橋払(糸之瀬、利南、薄根村)	『群馬県気象災害史』
		安政3		埼玉	暴風		埼玉県内	南寄りの大風により家屋等が倒壊。騎西町域では泥水が出る。	『新編埼玉県史』通史4、『越谷市史』通 史上、『岩槻市史』通史編、『杉戸町史』 『鷲宮町史』『騎西町史』通史編
1856	9 23	安政3 安政3	8 25	手葉 東京	暴風 暴風	安政3年大風災	千葉県北東部(香取郡) 江戸市中全域	橋が半壊する。前年の地震よりも広範囲の地域が被害を受け、約10万人の死者を出したといわれる。	<u>『千葉県気象災害史』</u> 『東京市史稿 変災編 第2』
1856 1856	9 23	安政3 安政3	8 25	東京 神奈川	暴風暴風	安政3年の大風災	江戸、神奈川、南多摩郡ほか 寒川町	強風により連光寺村・関戸村・寺方村など被害、江戸や神奈川で高潮や火災発生。谷保村40軒潰、府中六所宮社木過半折れ。 ハ月には一変して大風雨が村むらを襲った。この時は「田方の義大強風御座、保えば、一同倒れ如何に相成り候や相分り申さず、畑方義も栗作吹き潰れ、蕎麦・大根等な話的なも切れ。「何取り上29早116)という有様で、田畑はもとり住居の多くは倒壊または破損し、人びとは太損害を被った。この時の村むらの被害調査は、治安の観点からか寄場組合を単位として実施されており、寄場組合あての報告書が多く残っていった。この時の村むらの被害調査は、治安の観点からか寄場組合を単位として実施されており、寄場組合あての報告書が多く残っていった。	『特別展 災害と多摩』 『寒川町史6 通史編 原始・古代・中世・ 近世』
1856	10 6	安政3	9 8	神奈川	高潮		橘樹郡生麦村	38FT	『横浜近代史総合年表』
11856 T	11 4	安政3	10 7	神奈川	地震				『横浜近代史総合年表』

1856	11 la	安西で	10 17	埼玉	地震		不明		『新編埼玉県史』別編4自然
1856	11 4	安政3 安政3	10 /	千葉	洪水		千葉県	関東大水あり。	『千葉県気象災害中』 『千葉県気象災害中』
1857	4 25	安政4	4 12	神奈川	火災	戸塚宿矢部町大火	鎌倉郡矢部町	13/3/2/10/70	『千葉県気象災害史』 『横浜近代史総合年表』
	5 23	安政4	5 1	群馬	洪水			大水橋払(糸之瀬、利南村)	『群馬県気象災害史』
1857		rto The A		- *	8.8		マ共同	利根川大川村仙石台の下にて破堤15間(邑楽水害記)	『千葉県気象災害史』
1857	6 14	安政4	5 23	千葉	暴風		千葉県	5月23日下総国銚子辺大風。 5月23日大暴風鄭来家屋の倒壊せるもの数多く世人之を己年の荒れと称す。	十葉県気家災告史
								5月25日入泰風袋不豕屋の団域とももの数多く世入之を口中の元れと作り。	
1857	7 8	安政4			洪水				『横浜近代史総合年表』
1857	7 9	安政4	閏5 18	神奈川	洪水		平塚市	安政四年(1857)閏五月十八日,再び満水によって南金目村地内柳堤(片岡村持場)一八〇間(三二四m)が決壊,同時に大堤鼻二〇間(三六m)・同所腹三五間(六三m)が欠け、流失した。したがって前年決壊筒所の修覆工事が、実際に行われたか疑問が残る。しかし、同年七月	『平塚市史9 通史編 古代・中世・近世』
								/ ハm)・iniffige 五面(ハニm)が入げ、流失した。したかつく削中決壊固折の修復上争が、美味に行われたが疑問が残る。しかし、同年七月 にはまず御堤切所の築立工事が開始された。	第二編第三章第六節三『村々の普請と 水争い』
									· · · =
1857	7 19	安政4	閏5 28	神奈川	豪雨		詳細不明	江戸風雨 損害あり(東京市史稿, 時風録)	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部
1857	7	安政4	6	神奈川	その他	堤防決壊	大磯町	安政四年(1857)六月、字上河原の堤防が決壊し、田畑砂入となった。同年十一月、年貢・荒地開発資金・飯米にも差し支えた領民ニー名	『大磯町史6 通史編 古代·中世·近世』
								が、高麗寺を通して東叡山御料物金の拝借を願い出る。十二月、金五十両を年利七分五厘、五か年割済の条件で、四二名が拝借した(『町 史』1近世131~133)。この人数について、四年前の嘉永七年高麗寺村人帳(『町史』1近世56)によれば、五四軒ほどなので、村の約八割の	第三章第四節六『災害と普請』
								文』は正さいではあったの人気について、は中間の場所では中間健康で行入機が開いませばほのによれば、正は平はとないで、行い制入制の者が拝借したことになる。また、被災者の内一〇名は、三年間年貢を分除されている。	
1857	7	安政4	6	千葉	洪水		千葉県北東部(香取郡)	6月利根川出水。	『千葉県気象災害史』、『香取郡誌』
1857 1857	8	安政4 安政4	7	埼玉 千葉	洪水		藍宮町	大雨で利根川が出水。 大雨洪水、中峠村市領堤破壊(翌年修復)、手賀沼の新田に水害。	『鷲宮町史』通史編中巻 『手賀沼周辺の水害』
	1 9		,	神奈川	豪雨		手賀沼周辺 詳細不明	大国ボバ・中町1川原連吸線と主手修及・丁良石の利田に小言。 夜大風雨也 所々損も有之候由(斉藤月等日記)	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部
		安政5		東京	火事	安政5年2月10日大火	日本橋	按針町、長浜町より出火、約85町焼失	『東京市史稿 変災編 第4』
		安政5		栃木	洪水		大久保村		『近代足利市史』第一巻、824-827頁
			~						
1050	8	sta att-c	19	46 × 111	7 O /th	-1 =土法仁	**************************************		『神本川月中海中紀25世(2)』
1858	0	安政5	'	神奈川	その他	コレラ大流行	神奈川県	相武の地にコレフか流行しばしのだのはこの年ので月中旬からである。この恋るへさ流行病は近畿地方より忌患に果へ進み、三河・遠江・駿 河のあたりはことにひどかったという。それより伊豆を侵し、相武に入った(「コレラ流行風間書上」=『資料編』10近世(7)189)。	∥↑♥示川宗文理文稿3近世(Z///
								高座郡一之宮村組合ニナハか村が九月十一日に出役に出した書上(『資料編』10近世(7)190)によると、二十八か村中二十か村にはコロリ	
								による死者はいなかった。死者は外の八か村で三十六人(男二十一・女十五)出た。最もひどかったのは下寺尾村(茅ヶ崎市)であって十三	
								人(男九・女四)も出ている。藤沢宿荘厳寺過去帳には、天明以来の簡単な災害記録がある(『藤沢市史』第二巻)。そこには安政五年のコロ	
								リについて次のような記述がある。「七月下旬より関東筋変病流行致し数万人死す,それにつき白旗大明神八月中旬より九月二十八日ま	
								で、御仮屋下遷座昼夜信心、その加護により当宿格別の変病人もこれなく候、右後代のため記し置くもの也」。これだと藤沢宿には一人も死	
								者が出なかったことになるが、一方「藤沢沿革考』には「死する者百四十九人、俗にコロリと称す」とある。前掲一之宮組合の記事からおして、 『沿革考』の方が信頼できそうである。	
		1							
1858 1858	8	安政5 安政5	7	東京山梨	洪水		多摩川中流部左岸	多摩川大洪水で、中流部左岸、大神村堤決壊 エアの経営いた。	『多摩川誌』(昭島市史) 『大月市史』通史編
1858	8	安政5	7	山梨	洪水 疫病		強瀬村ほか	天保の飢饉以来の大きな災害。 畑作は皆無同様、田地も平年の3、4分にとどまる。 水害と同じ7月からコレラが流行、8月にかけて「病気引受候者村の7、8分」となり、家内中死に絶えたところもあった。 強瀬村の10月時点の死	大月市史 通史編 大月市史 通史編
1000	Ĭ	1~~~	ľ		~ "		JAMES 13 10470	者は17名におよんだ。	177717232224
1858	9 4	安政5		埼玉	豪雨		熊谷市域	上中条村の水越堤が押し出される。	『騎西町史』通史編
1858	9 4	安政5	7 27	栃木	洪水	豪雨による	大久保村		『近代足利市史』第一巻、824-827頁
			~						
1858	0 5	安政5	7 28	群馬	洪水			渡良瀬川矢場堰引入口附近堤防破壕30余間原宿被害大(山田郡)	『群馬県気象災害史』
1.000	ٽ اٽ	1~~~		ar my	700			橋払、下久屋河原押し流される(糸之瀬村)	
								畑2町、1.6反川欠(薄根村)	
1858	9	安政5	8	神奈川	その他	コレラの流行	綾瀬市	幕末の事件の中で人々を恐怖させたものの一つにコレラの流行があった。この病気が大流行したのは安政五年のことで、特に江戸での被害	『綾瀬市史6 通史編 中世·近世』第四
								が多かった。幸いなことに市域を含む高座郡内では、コレラがそれほど流行した様子はないが、これまで見たこともない病気の流行は人々に 激しい恐怖心を抱かせたようである。	章第四節四『コレラの流行と治療法』
1858	9	安政5	8	神奈川	その他	コレラ大流行	神奈川県	滅しい記述中心を把かせたようとの念。 藤沢近辺にコレラが波及してきたのは、同年八月以降のことであったと考えられる。藤沢宿坂戸町荘厳寺の「過去帳」は、「今年七月下旬よ	『藤沢市史 第五巻 通史編』
1.000	۱ .	1~~~	ľ	173671	(0)	- D 777///LT3	TT JK / T JK	り、関東筋、変病(コレラ)流行いたし、数万人死す、それにつき白旗大明神、八月中旬より九月廿八日まで、御仮屋下遷座、昼夜信心す、そ	THE MEANING
								の加護により、 当宿格別の変病人もこれなく候」(『市史』第二巻・災害ニ三)と述べ、コレラの波及を恐れる宿場の様子を伝えている。いっぽ	
								う, 再三引用する 沿革考』は, 右「過去帳」の「当宿格別の変病人もこれなく候」という記述とは対照的に, 「莎腸病発行シ, 死スル者百四十	
								九人、俗ニコロリト称ス」と述べている。ただし、この場合の死者の範囲が宿場に相当するものが、藤沢宿近隣一帯を含めたものであるのか は、人、の智利ないは、または、また、また、アカリーは、アカリ	
								は、この記録からははっきりしない。ただ、一四九人という数字が確かなものであったとすれば、荘厳寺過去帳の記述に照らしてみて、それは、 藤沢宿近陽一帯の場合と考えるのが廻当であるう。	
1858	9	安政5	8	山梨	その他	疫病	古川戸村、曽雌村	7月下旬より8月下旬にかけて郡内でコレラが流行、古川戸村では65人の発病者の内45人が死亡、20人程が全快。曽雌村では245人の発病	『都留市史』通史編
								者のうち21人が死亡、205人が全快、19人が罹病中。	Ger to an Change Light?
1858		安政5	9	千葉	洪水	安政5年11月15日大火	手賀沼周辺 神田 日本橋	利根川出水、手質沼水害甚し。	『手賀沼周辺の水害』
1858	12 19	安政5	11 15	神奈川	火事 その他	- 安政5年11月15日大火 堤防決壊	神田、日本橋 大磯町	神田相生町北の若林屋敷より出火、259町、武家屋敷80余り焼失 安政五年(1858)、堤防が決壊し砂入・沼入となる。明治五年(1872)まで、川欠・堤敷は三反六畝八歩、水害後畑に変換した田地は三反一畝	『東京市史稿 変災編 第4』 『大磯町史6 通史編 古代・中世・近世』
1000		240		177水川	COLIE	タニドリ (人名)	> xxxxxxx	及以五牛(1000),延即加水破垃砂穴;四八乙体3。奶油五牛(1012)まじ,川人;延敖は二及八畝八少,小百夜加口支挟已广田地は二及一畝 一二歩となった(町史川近世(49)。	第三章第四節六『災害と普請』
	- 1		ı I	1	1	1	千葉県北東部(香取郡)	利根川出水。	『千葉県気象災害史』、『香取郡誌』
1950	-	± juhr s		工並	洪 水			17778/1144/15	
1858 1858		安政5		千葉 千葉	洪水 異風				『千葉県気象災害中』
1858 1859	1 11	安政5 安政5 安政5	12 8	千葉 千葉 埼玉	基風 地震		千葉県 岩槻	大颶あり。 居城の櫓や多門等が破損	『千葉県気象災害史』 『新編埼玉県史』別編4自然
1858 1859 1859	3 26	安政5	2 22	千葉 埼玉 東京	基風 地震 火事	安政6年2月22日大火	千葉県	大鵬あり。 居城の櫓や多門等が破損 青山穏田芸州候下屋敷内と松平江州候屋敷内から出火、神社3か所、寺院50余か所、町家は35町が焼失	『千葉県気象災害史』 『新編埼玉県史』別編4自然 『東京市史稿 変災編 第4』
1858 1859 1859 1859	3 26 7 22	安政5 安政6 安政6	2 22 6 23	千葉 埼玉 東京 群馬	基風 地震 火事 洪水	安政6年2月22日大火	千葉県 岩槻	大腿あり。 居城の櫓や多門等が破損 青山穏田芸州候下屋敷内と松平江州候屋敷内から出火、神社3か所、寺院50余か所、町家は35町が焼失 利根川佐貫村川俣にて100間破堤、埋没家屋2棟、浸水10日(邑楽郡)	『千葉県気象災害史』 『新編埼玉県史』別編4自然 『東京市史稿 変災編 第4』 『群馬県気象災害史』
1858 1859 1859 1859 1859	3 26 7 22 8 19	安政5 安政6 安政6 安政6	2 22 6 23 7 21	千葉 埼玉 東京 群馬 群馬	基風 地震 火事 洪水 洪水	安政6年2月22日大火	千葉県 岩槻 干駄ヶ谷、目白台、雑司ヶ谷村	大鵬あり。 居城の権や多門等が破損 青山樋田芸州侯下屋敷内と松平江州侯屋敷内から出火、神社3か所、寺院50余か所、町家は35町が焼失 利根川佐貫村川俣にて100間破堤、埋没家屋3棟、浸水10日(邑楽都) 利根川佑島村梅原にて128間破堤住客11戸流	『千葉県気象災害史』 『新編埼玉県史』別編4自然 『東京市史稿変災編 第4』 『群馬県気象災害史』 『群馬県気象災害史』
1858 1859 1859 1859 1859	3 26 7 22 8 19	安政5 安政6 安政6	2 22 6 23 7 21	千葉 埼玉 東京 群馬	基風 地震 火事 洪水	安政6年2月22日大火	千葉県 岩槻	大鵬あり。 居城の櫓や多門等が破損 青山穏田芸州候下屋敷内と松平江州候屋敷内から出火、神社3か所、寺院50余か所、町家は35町が焼失 利根川佐貫村川俣にて100間破堤、埋災家屋2棟、浸水10日(邑楽郡) 利根川塘島村楠原にて125間破堤住家11戸流出 7月24日から25日の暴風雨により多摩川大洪水。羽村堰破壊され玉川上水停止。中流部左岸44戸流失。下流部左岸和泉村堤500間など切	[千葉県気象災害史』 「新編埼玉県史』別編4自然 『東京市史稿 変災編 第4』 『群馬県気象災害史』 『群馬県気象災害史』 『群馬県気象災害史』 『登摩川誌』(多摩川)で6資料編 東急環
1858 1859 1859 1859 1859	3 26 7 22 8 19	安政5 安政6 安政6 安政6	2 22 6 23 7 21	千葉 埼玉 東京 群馬 群馬	基風 地震 火事 洪水 洪水	安政6年2月22日大火	千葉県 岩槻 干駄ヶ谷、目白台、雑司ヶ谷村	大鵬あり。 	『千葉県気象災害史』 『新編埼玉県史』別編4自然 『東京市史稿変災編 第4』 『群馬県気象災害史』 『群馬県気象災害史』
1858 1859 1859 1859 1859 1859	3 26 7 22 8 19 8 22 8 23	安政5 安政6 安政6 安政6 安政6 安政6	2 22 6 23 7 21 7 24 7 25	千 埼 東 群 東 神 奈 川	基風 地震 火事 洪水 洪水 洪水	安政6年2月22日大火	王葉県 岩蝦 干駄ヶ谷、目白台、雑司ヶ谷村 多摩川中流部左岸・下流部左岸 詳細不明	大闘あり。 居城の僧や多門等が破損 青山穏田芸州候下屋敷内と松平江州候屋敷内から出火、神社3か所、寺院50余か所、町家は35町が焼失 利根川佐貫村川俣にて100間破堤、埋災家屋2棟、浸水10日(邑楽郡) 利根川佐貫村川俣にて102間破堤仕家11戸流出 7月24日から25日の暴風雨により多摩川大洪水、羽村堰破壊され玉川上水停止。中流部左岸44戸流失。下流部左岸和泉村堤500間など切 断。流失戸数(福島村25戸、中神村15戸、宮沢村4戸)。 朝より大風雨 家屋墙屏を損し 樹木を折 所々出水あり 近在も又出水あり堤を削し田圃も傷ふ(武江年表,嘉永明治年間録、東京市史	千葉県気象災害史 「新編埼玉県史』別編4自然 東京市史稿 変災編 第4』 『群馬県気象災害史』 『群馬県気象災害史』 『背馬県気象災害史』 『彦峰川誌』(多摩川)『6資料編 東急環境浄化財団)(昭島市史)(世田谷区の用水と河川) 「神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部
1858 1859 1859 1859 1859 1859	3 26 7 22 8 19 8 22 8 23	安政5 安政6 安政6 安政6 安政6	2 22 6 23 7 21 7 24 7 25	千 <u>埼東群</u> 群東 東京馬馬京	基風 地震 火事 洪水 洪水 洪水	安政6年2月22日大火	王葉県 岩槻 干駄ケ谷、目白台、雑司ケ谷村 多摩川中流部左岸・下流部左岸	大鵬あり。 居城の権や多門等が破損 青山穏田芸州候下屋敷内と松平江州候屋敷内から出火、神社3か所、寺院50余か所、町家は35町が焼失 利根川佐貴村川俣にて100間破堤、埋没家屋3棟。 利根川佐島村楠原にて125間破堤住寮11戸流出 7月24日から25日の暴風雨により多摩川大洙水。羽村堰破壊され玉川上水停止。中流部左岸44戸流失。下流部左岸和泉村堤500間など切 断。流失戸数(福島村25戸、中神村15戸、宮沢村4戸)。 朝より大風雨、家屋墙屏を損し、樹木を折、所々出水あり、近在も又出水あり堤を前し田圃も傷ふく武江年表、嘉永明治年間録、東京市史 「前代未聞」の大洪水と言われたのは安政六年(1859)七月の洪水で、社家明窓寺の過去帳の余白には「川上所々の堤が切れて東側の河	『千葉県気象災害史』 「新編埼玉県史』別編4自然 『東京市史稿 変災編 第4』 『群馬県気象災害史』 『群馬県気象災害史』 『野馬県気象災害史』 『多摩川誌』(多摩川76資料編 東急環境浄化財団) (昭島市史) (世田谷区の用水と河川大と河川) (昭島市史) (世田谷区の用水と河川)
1858 1859 1859 1859 1859 1859	3 26 7 22 8 19 8 22 8 23	安政5 安政6 安政6 安政6 安政6 安政6	2 22 6 23 7 21 7 24 7 25	千 埼 東 群 東 神 奈 川	基風 地震 火事 洪水 洪水 洪水	安政6年2月22日大火	王葉県 岩蝦 干駄ヶ谷、目白台、雑司ヶ谷村 多摩川中流部左岸・下流部左岸 詳細不明	大鵬あり。 	千葉県気象災害史 「新編埼玉県史』別編4自然 東京市史稿 変災編 第4』 『群馬県気象災害史』 『群馬県気象災害史』 『背馬県気象災害史』 『彦峰川誌』(多摩川)『6資料編 東急環境浄化財団)(昭島市史)(世田谷区の用水と河川) 「神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部
1858 1859 1859 1859 1859 1859	3 26 7 22 8 19 8 22 8 23	安政5 安政6 安政6 安政6 安政6 安政6	2 22 6 23 7 21 7 24 7 25	千 埼 東 群 東 神 奈 川	基風 地震 火事 洪水 洪水 洪水	安政6年2月22日大火	王葉県 岩蝦 干駄ヶ谷、目白台、雑司ヶ谷村 多摩川中流部左岸・下流部左岸 詳細不明	大鵬あり。 大鵬あり。 上城の億や多門等が破損 一直、	千葉県気象災害史 「新編埼玉県史』別編4自然 東京市史稿 変災編 第4』 『群馬県気象災害史』 『群馬県気象災害史』 『背馬県気象災害史』 『彦峰川誌』(多摩川)『6資料編 東急環境浄化財団)(昭島市史)(世田谷区の用水と河川) 「神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部
1858 1859 1859 1859 1859 1859	3 26 7 22 8 19 8 22 8 23	安政5 安政6 安政6 安政6 安政6 安政6	2 22 6 23 7 21 7 24 7 25	千 埼 東 群 東 神 奈 川	基風 地震 火事 洪水 洪水 洪水	安政6年2月22日大火	王葉県 岩蝦 干駄ヶ谷、目白台、雑司ヶ谷村 多摩川中流部左岸・下流部左岸 詳細不明	大鵬あり。 	千葉県気象災害史 「新編埼玉県史』別編4自然 東京市史稿 変災編 第4』 『群馬県気象災害史』 『群馬県気象災害史』 『背馬県気象災害史』 『彦峰川誌』(多摩川)『6資料編 東急環境浄化財団)(昭島市史)(世田谷区の用水と河川) 「神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部

日本の 1 日 1	1859		3 安政6		5 神奈川	豪雨		藤沢市	安政六年(1859)の大水害は、三年の場合を上回る大きな被害を藤地域にもたらしている。小塚村の記録によると、農民たちは、領主役所より夫食、種籾、農具代の貸し付けを受けるほどの窮状におかれたことが知られる。	
1909 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1859 1859	8 2	3 <u>安政6</u> 3 安政6	7 2				鶴見川など	利根川瀬川井村西南堤塘15間破堤。川俣・梅原両村の間104間破潰、この被害数10か村家屋36戸流出、溺死2名(邑楽郡) 例なき大出水、沼須、糸井河原流される(糸之瀬村) 暴風雨、70年来のもの(薄根村)	『横浜近代史総合年表』 『群馬県気象災害史』
1909 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1859	8 2	3 安政6	7 2	5 埼玉	洪水		荒川•綾瀬川流域	連日の大雨で堤が切れ、流域一帯が浸水。	『岩槻市史』通史編、『越谷市史』通史
1959 1 7 200 7 7 200 7 1 200 7	1859	8 2	3 安政6	7 2	5 千葉	洪水		千葉県北西部	7月25日大風雨あり。確定棒破壊し当地方一帯泥濫す。人畜の被害多し。	『千葉県気象災害史』
「京都 「京		8 2	3 安政6				豪雨による	大久保村		『近代足利市史』第一巻、824-827頁
100 10		7		7		洪水		<u>手質沿周辺</u> 多摩川中流部		『多摩川誌』(昭島市史)(世田谷区の用
1999 1999 1997 1997 1997 1998 1997 1998 1998 1999	1859	8	安政6	8	千葉	洪水		手賀沼周辺	手賀沼田畑冠水。	『手賀沼周辺の水害』
一個		9 8	安政6	8 1	2 千葉	暴風		千葉県北西部	8月12日に至り亦大風雨あり。 	『千葉県気象災害史』
1950 19 19 19 19 19 19 19 1		9 9	安政6	9		洪水			「楠派四、木之	『併馬県丸家災舌史』 『山梨県の気象』
日初 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	1860	1 3	安政6	12 1	1 神奈川	火災			外国人商館焼失	『横浜近代史総合年表』
大名、大郎、河田区では、下入屋 株・野口 大名、大田、河田区では、下入屋 株・野口 大名、大田、河田区では、下入屋 株・野口 大名、大田、河田区では、下入屋 株・野口 大名、大田、河田区では、下入屋 株・野口 大名 大田 田田 田田 田田 田田 田田 田田	1859		安政年間	3 2	5 千葉	火事		木更津	助け、黒煙天に漲り、其景況物凄く、村民死力を尽して消防に従事したるも、当時は消防器具の完備せざりしため、遂に八幡町、寺町、山手	『千葉県気象災害史』
1950 9 7月光 7 2 神悪川 参照 神経不明 甘田田山山山北東南 新日山上村 安田山田山山北大東南 野田本野 甘田田山山山北東南 第日山上村 安田山田山山山北東南 神田田山田山山田山田山田山田山田山田山田山田山田山田山田田田田田田田田田田	1860	6 2	8 万延元	5 1	0 群馬	洪水			大水、大雨、沼須にて26棟、下久屋1棟、栄町12棟大破、砥石前殿、諏訪宮名木、地蔵庵升形木戸倒れる(利南村) 奥田の耕地3町9反流出(薄根村)	『群馬県気象災害史』
1950 9 7月光 7 2 神悪川 参照 神経不明 甘田田山山山北東南 新日山上村 安田山田山山北大東南 野田本野 甘田田山山山北東南 第日山上村 安田山田山山山北東南 神田田山田山山田山田山田山田山田山田山田山田山田山田山田田田田田田田田田田	1860	6 2	9 万延元	5 1	1 神奈川					『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部
1500 12 万田元 12 12 12 12 12 12 12 1	1860	9 8	万延元	9 9	神奈川					『横浜近代史総合年表』
1980 19 12 万泉元 17 放玉 洪水 羽星 料理側の製物が緩急 羽音の大きな 羽音の大きな	1860	9 9	力処元	2	4 伊余川	家雨		詳細不明	IT 日より雨 T凹 日朝より北天風雨 終日止より 家屋を損し場場を倒し樹木を折り 海上には復敬漂湯の船多かりしど関ゆ 使に入りて ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	仲余川県災告誌(日然災告) 年表 部
1980 12 万美元		9 1:	2 万延元	7 2		洪水		羽生	利根川の堤防が破堤。	
1980 3 7 久元 1 10 神野川 大党 横浜所が東後を全表 10 神野川 大党 横浜所が東後を全表 10 神野川 大党 10 神野川 大党 10 神野川 大学 10 神野川		10	万延元	9				1. 7. /0+4	大風雨、郡内出水あり	『山梨県の気象』
1980 3 7 久元 1 10 神野川 大党 横浜所が東後を全表 10 神野川 大党 横浜所が東後を全表 10 神野川 大党 10 神野川 大党 10 神野川 大学 10 神野川		12	万延元	11				大久保村 吹上町域	場が付わて悪地に被宝	近代定利市史 第一巻、824-82/貝
1980 1 7 人 久元 1 2 沙玉 小田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田		2 1		1 1	0 神奈川	火災				
1881 1 7	1861	3	文久元	2	埼玉	火事		所沢	60戸焼失。	『所沢市史』通史編下
1882 1 × 2人元 対称 対本 対本 対本 対本 対本 対本 対本		11 7	文久元	10 5				詳細不明		『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部
1862 1 文久2 1 当五 火車 所収 所収 の戸廃失 所収 の戸廃失 所収 の戸廃失 所収 の戸廃失 所収 の戸廃失 所収 の		+	文久元	\vdash				+ 賃 沿 周 辺	手質光の新田に水害。 当业水 (海祖社)	
1882 1 7 次久2 19 物末 無風 大久6柱		1	文久2	1				所沢	(水水)(香味豆) 67 戸焼失。	『所沢市史』通史編下
1862 7 12 文名2 16 16 振木 楽雨 大久保村 近代見前市里第一巻。224-827頁 1862 8 10 文名2 7 25 振木 黒木 大久保村 近代見前市里第一巻。224-827頁 1862 9 10 文名2 8 20 文名2 7 25 振木 黒木 大久保村 近代見前市里第一巻。224-827頁 近代見前市里第一巻。224-827頁 近代見前市里第一巻。224-827頁 近代見前市里第一巻。224-827頁 近代見前市里第一巻。224-827頁 近代見前市里第一巻。224-827頁 近代見前市里第一巻。224-827頁 近代見前市里第一巻。224-827頁 1862 7 2 次名2 東京 京木 大久保村 近代見前市里第一巻。224-827頁 1862 7 2 次名2 東京 京木 東京 京本 東京 京本 京本 東京 京本		4 1	7 文久2	3 1	9 栃木	暴風		大久保村		『近代足利市史』第一巻、824-827頁
1862 19 文久2 7 24 樹木 纂風		5 7	文久2	4 9	神奈川					『横浜近代史総合年表』
1862 16 次久 7 25 樹木 洪水 大久保村 「近代見利中見湯一巻、224-227頁 近代見利中見湯一巻、224-227頁 近半期間間(多味川下夜月橋 東急度 東海にが出) (印場用きた) (田島中之) (田島中立) (田島中立		7 1:	2 文久2	6 1		景 雨		大久保村		近代足利市史 第一巻、824-827貝
1862 16 文久2 8 23 振水								大久保村		
1862 10 文久2 9 山梨 洪水 多摩川下流部左岸 多摩川下流部左岸 多摩川洪水で、下流部左岸 多摩川洪水で、下流部左岸 多摩川洪水で、下流部左岸 多摩川洪水で、下流部左岸 多摩川洪水で、下流形左岸 多摩川洪水で、下流形左岸 初泉村16間洪堤 東京 洪水 東京 北上 北上 北上 北上 北上 北上 北上 北	1862	9 1	6 文久2	8 2	3 栃木	洪水		大久保村		『近代足利市史』第一巻、824-827頁
50g 文久2 東京 洪水 毎度川底(世田谷区の用水と河川) 50g 11 11 12 12 13 14 15 15 15 15 15 15 15		10	文久2 文久2	9				多摩川下流部左岸	笛吹川増水、差出水門破れて下流村民水害を被る、郡内地方、河口湖氾濫 多摩川洪水で、下流部左岸、和泉村160間決壊。	『多摩川誌』(多摩川'76資料編 東急環 境浄化財団)(昭島市史)(世田谷区の用
1863 3 3 文久3 5 28 票馬 洪水 決乗 大久保村 押点用作用を発き、224-227頁 円面接害・1.9反(富士見村) 押点用作用を発き、224-227頁 円面接害・1.9反(富士見村) 押点用作用を発き、224-227頁 円面接害・1.9反(富士見村) 押点用作用を発き、224-227頁 円面接害・1.9反(富士見村) 押点用作用を発き、224-227頁 円面接害・1.9反(富士見村) 押点用作用を発き、224-227頁 円面接害・1.9反(富士見村) 押点用作用を発き、224-227頁 回面接事・1.9反(富士見村) 押点用作用を発き、224-227頁 回面接事・1.9反(富士見村) 押点用作用を発き、224-227頁 回面接事・1.9反(富士見村) 押点用作用を発き、224-227頁 回面接事・1.9反(富士見村) 押点用作用を発き、224-227頁 回面接事・1.9反(富士見村) 押点用作用を発き、224-227頁 回面接事・1.9 平面接事・1.9 平面接事・2.9回 回面接事・2.9回 回面接事・2								the transfer of the transfer o		『多摩川誌』(世田谷区の用水と河川)
1863 7 13 文久3 5 28 群馬 洪水 標本川大火 標本川大火 標本川大火 標本 上野 大大 大大 大大 大大 大大 大大 大大		2 2		1 1				笛吹川下流、河口湖	選吹川増水し、ト流水香。河口湖氾濫し2丈余の深さの切れ所を生す。	山梨県水害史
1863 6 文久3 5 栃木 木 木 木 木 木 木 木 木		7 1						222M11	桐生川6尺余大出水、田畑流出山崩あり(山田郡) 田畑被害1.9反(富士見村)	『群馬県気象災害史』
1863 1 2 1 2 文 2 3 1 1 2 2 文 3 1 1 2 2 文 3 1 1 2 2 文 3 1 1 2 2 文 3 1 1 2 2 文 3 1 1 2 2 文 3 1 1 2 2 文 3 1 1 2 2 文 3 1 1 2 2 文 3 1 1 2 2 文 3 1 1 2 2 文 3 1 1 2 2 文 3 1 1 2 2 文 3 1 1 2 2 文 3 1 1 2 2 文 3 1 1 2 2 文 3 1 1 2 2 文 3 1 1 2 2 文 3 2 3		6	文久3	5			干害			『近代足利市史』第一巻、824-827頁
1863 12 12 文久3 10 20 神奈川 火災 福齢部・ 大田 保護・日本管・日本管・日本管・日本管・日本管・日本管・日本管・日本管・日本管・日本管		9	文久3	8		洪水			多摩川洪水で下流左岸、和泉村55間決壊。	『多摩川誌』(世田谷区の用水と河川)
1863 12 12 2 2 2 2 3 11 12 2 2 2 2 3 11 15 2 2 2 3 11 15 2 2 3 11 15 2 2 3 11 15 2 2 3 11 15 3 2 3 11 3 2 3 11 3 3 4 3 1 3 4 3 3 3 4 3 3 3 4 3 3		11 2								
1863 12 19 文久3 11 9 群馬 臺雲 雪沢降る(糸之瀬村) 日移島・大変の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期な 「近代足利市史』第一巻、966~968頁 「近代足利・財際・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・	1863	12 1:	2 文久3	11 2	神奈川					『横浜近代史総合年表』
ため、火災が拡大	1863	12 1	9 文久3	11 9	群馬	豪雪			雪3尺降る(糸之瀬村)	『群馬県気象災害史』
1864 2 23 元治元 1 16 神奈川 火災 横浜 リアルマンド・ジュニア商会 横浜近代史絵合 年表』 第4月 19 元治元 1 16 神奈川 火災 横浜 リアルマンド・ジュニア商会 横浜近代史絵合 年表』 第4月 1864 19 元治元 7 18 埼玉 洪水 埼玉県東部 7~8月に連続して張鳳両となり、堤が連続して決壊。 『吹上町史』「鷲宮町史』 「吹上町史』「鷲宮町史』 「吹上町中』「鷲宮町史』 「吹上町中』「鷲宮町史』 「吹上町中』「鷲宮町史』 「吹上町中』「鷲宮町史』 「吹上町中』「鷲宮町史』 「吹上町中』「鷲宮町史』 「吹上町中』「鷲宮町史』 「吹上町中』「鷲宮町史』 「吹上町中』「鷲宮町中』 「吹上町中』「鷲宮町中』 「吹上町中』「鷲宮町中』 「吹上町中』「鷲宮町中』 「吹上町中』「鷲宮町中』 「吹上町中』「『東海町中』 「吹上町中』「『東海町中』 「水海町中』 「水海町中』 「水海町中』 「本海町中』 「本海町中』 「東海町中』 「東海町中」 「東海町」 「東									ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期な	
1864 19 元治元 3 14 東京 火事 元治元年3月14日大火 日本橋 瀬戸物町付近で出火、約59町焼失 『東京市史稿変災編 第4』 1864 8 19 元治元 7 18 埼玉 洪水 埼玉県東部 7~8月に連続して製塩両となり、堤が連続して決壊。 「神奈川県災害店町史』 1864 9 8 元治元 8 8 神奈川		1 2	<u> 文久3</u>	11 2	3 神奈川		神奈川大火			順决近代史総合年表
1864 8 19 元治元 7 18 埼玉 洪水 埼玉県東部 7~8月に連続して景風雨となり、堤が連続して決壊。 『吹上町史川鷲宮町史』 「吹上町史川鷲宮町史』 「吹上町史川鷲宮町史』 「吹上町史川鷲宮町史』 「吹上町東川護宮町史』 「吹上町東川護宮町史』 「吹上町東川護宮町東』 「吹上町東川東湾宮町東』 「吹上町東川東湾宮町東」 「吹上町東川東湾宮町東」 「吹上町東川東湾宮町東」 「吹上町東川東湾宮町東」 「吹上町東川東湾宮町東」 「吹上町東川東湾町東」 「吹上町東川東京町東」 「吹上町東川東河東」 「吹上町東川東湾町」 「吹上町東川東湾町東」 「吹上町東川東湾町東」 「吹上町東」 「小町東」 「小田東」 「田田東」 「小田東」東西」 「小田東」 「田東東」 「小田東」 「田東」 「小田東」		4 1	<u>3 ルルルル</u> 9 元治元	3 1	○ 作宗川 4 東京	火事	元治元年3月14日大火			『東京市中稿 変災編 第4』
1864 9 8 元治元 8 8 神奈川 暴風 詳細不明 八日夜より南よりの風強まり翌日昼前北西に変る 屋上塀場大破するところもあった(武江年表, 日本貿易新聞) 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表 部 「おおった。日本貿易新聞) 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表 部 大田水・橋皆落(糸之瀬・利南村) 『群馬県気象災害史』 「群馬県気象災害史』 「おおった。日本貿易新聞) 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表 部 「おいった。日本貿易新聞) 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表 部 「おいった。日本貿易新聞) 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表 部 「「おいった。日本貿易新聞) 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表 部 「「おいった。日本貿易新聞) 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表 部 「「「おいった。日本貿易新聞) 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表 部 「「「「「「「「「「「「「「「」」」」」 「「「「「」」」」 「「「「「」」」」 「「「「」」」 「「「「」」」 「「「「」」」 「「「「」」」 「「「「」」」 「「「「」」」 「「「「」」」 「「「「」」」 「「「「」」」 「「「「」」」 「「「「」」」 「「「「」」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「」」 「「「」」 「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「」」 「「」」 「「」」 「」」 「「」」 「」」 「「」」 「」」 「「」」 「」」 「「」」 「」」 「「」」 「」」 「「」」 「」」 「「」」 「」」 「「」」 「」」 「「」」 「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「」」 「「」」 「」」 「「」」 「」」 「「」」 「」」 「「」」 「」 「」」 「」」 「」」 「」 「」」 「」 「」」 「」	1864	8 1	9 元治元	7 1	8 埼玉			埼玉県東部	7~8月に連続して暴風雨となり、堤が連続して決壊。	『吹上町史』『鷲宮町史』
渡良瀬川西谷田村離船渡下にて60間破堤、1戸流出(邑楽郡) 畑0.6反欠(薄根村) 1864 9 9 元治元 8 9 埼玉 洪水 幸手領 領内の権現堂川が溢水。 『幸手市史J通史編Ⅰ	1864	9 8	元治元	8 8	神奈川	暴風			八日夜より南よりの風強まり翌日昼前北西に変る 屋上塀墻大破するところもあった(武江年表,日本貿易新聞)	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部
1864 9 元治元 8 9 埼玉 洪水 幸手領 領内の権現堂川が溢水。 『幸手市史』通史編 I 1864 9 元治元 8 9 板本 洪水 豪雨、暴風併発 大久保村 近代足利市史』第一巻、824-827頁	1864	9 9	元治元	8 9	群馬	洪水			渡良瀬川西谷田村離船渡下にて60間破堤、1戸流出(邑楽郡)	群馬県気象災害史
1864 9 1元治元 8 9 極本 洪水 豪雨、暴風併発 大久保村 近代足利市史』第一巻、824-827頁		9 9	元治元	8 9		洪水		幸手領	領内の権現堂川が溢水。	『幸手市史』通史編Ⅰ
	1864	9 9	一元治元	8 9	栃木	洪水	豪雨、暴風併発	大久保村		『近代足利市史』第一巻、824-827頁

1864 9 元治元 8	東京	洪水		多摩川下流左岸	多摩川洪水で下流左岸、和泉村堤160間決壊し、一円に冠水する。	『多摩川誌』(世田谷区の用水と河川)
1864 10 8 元治元 9 8 1865 5 慶應元 5	神奈川 千葉	暴風雨 洪水		横浜 手賀沼周辺	一	『横浜近代史総合年表』 『手賀沼周辺の水害』
1865 6 12 慶応元 5 18	群馬	洪水			大満水時久保川にて2名溺死(薄根村)	『群馬県気象災害史』
1865 6	東京神奈川	洪水		多摩川下流左岸 深川	多摩川出水し、下流左岸倍方村大堤1町20間にわたり大決壊。田畑には土砂が押し入る 夜 風雨烈しく明方弥強く 深川辺高潮漲りて低き所床の上へ五尺許り水乗る近在村々洪水溢濫す 溺死者多し(武江年表)	『多摩川誌』(世田谷区の用水と河川) 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部
1865 8 6 慶応元 6 15	東京	洪水	慶応元年風水災	本所、深川	本所地域が浸水被害を受け、深川に高潮発生、溺死者多数	『東京市史稿 変災編 第2』
1865 9 慶應元 8	<u>千葉</u> 埼玉	洪水		手賀沼周辺 騎西町	大室村冠水。 大雨で烟等が浸水。	『手賀沼周辺の水害』 『騎西町史』通史編
1866 9 14 慶応2 8 6	神奈川	豪雨		大川	六日朝 七日終日大雨 夜に入大風雨にて大川出水(武江年表)	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部 『群馬県気象災害史』
1866 9 14 慶応2 8 6	群馬	暴風			辰巳風、沿須にて21棟、栄町5棟倒壊、大破27、新町5(利南村) 暴風雨(薄根村)	
1866 9 15 慶応2 8 7 1866 10 慶応2 9	東京 山梨	洪水			8月7日より8日の台風で多摩川出水、下河原地区浸水。 洪水。	『特別展 災害と多摩』 『山梨県の気象』
1866 11 26 慶応2 10 20	神奈川	火事	横浜豚屋火事	神奈川県	慶応二年十月二十日関内末広町豚屋より出火し,今の横浜公園にあった港崎(みよざき)遊郭と居留地一円を焼いた豚屋火事。	『神奈川県史概説下巻』
1866 11 26 慶応2 10 20 1866 12 16 慶応2 11 10		火災 火事	豚屋火事·関内大火 慶応二年11月10日大火	横浜 油田	元乗物町より出火、153町焼失、焼死怪我人多し	『横浜近代史総合年表』 『東京市史稿 変災編 第4』
1866 慶應2	千葉	洪水		手賀沼周辺	手賀沼水害。	『手賀沼周辺の水害』
1867 10 9 慶応3 9 12 1868 1 31 慶応4 1 7	神奈川神奈川	火災	戸塚宿矢部町大火	<u>鎌倉郡矢部町</u> 橘樹郡神奈川町	1200戸焼失	『横浜近代史総合年表』 『横浜近代史総合年表』
1868 6 25 慶応4 5 6	埼玉	豪雨		幸手領	大雨で水田や麦畑が水没。	『横浜近代史総合年表』 『幸手市史』通史編 I
1868 6 25 慶応4 5 8 1868 6 慶応4 5	<u>千葉</u> 千葉	洪水 洪水		千葉県北東部(香取郡) 手賀沼周辺	栗山川出水、田圃を害す。水量8尺余。 5月頃から霖雨続き、9月利根川出水、手賀沼満水。	『千葉県気象災害史』 『手賀沼周辺の水害』
1868 8 慶応4 7	千葉	洪水		千葉県北東部(香取郡)	7月より8月に至るの間霖雨沿岸を浸し被害少からず。水量9尺余。	『千葉県気象災害史』
1868 9 4 慶応4 7 18	神奈川	洪水		平塚市	慶応四年(1868)七月十八日は「稀成」洪水で、北金目村持場大堤三か所が根洗いされ大破に及んだ。このため北金目始め、水下二七か所の田畑・家居まで水湛の状態になった。水が引いたあと、村方より多数人足が出て懸命に水防作業を実施したが、一向に欠離れ所は復旧しなかった。とりあえず急水留だけでも大政奉還された新政府に出願しようとしたが、「御多端之御時節」の折延び延びになっていた。	『平塚市史9 通史編 古代・中世・近世』 第二編第三章第六節三『村々の普請と 水争い』
	東京	洪水		多摩川中流	大雨。和泉村堤315間決壞。	『多摩川誌』(狛江市水害史)
1868 9 5 慶応4 7 19	埼玉	洪水		埼玉県東部	各地で破堤・出水。	『吹上町史』『吉見町史』『幸手市史』通史 編1『鷲宮町史』『騎西町史』通史編
1868 9 9 慶応4 7 23	群馬	洪水			利根川楠島村楠原下屋敷にて145間破堤し家屋5棟流出(邑楽郡) 連日の豪雨のため山崩地滑り起こり、大峯沢大洪水となる、道路橋梁破壊、死傷者十数名、家屋流出13戸、耕地流出(新治村) 田1反川久(薄根村)	『群馬県気象災害史』
					渡良瀬川海老瀬村にて45間破堤(邑楽郡)	
1868 9 慶応4 7	神奈川	洪水		茅ヶ崎市	東征軍が江戸へ向かったあと、世情が騒然としているとき洪水に見舞われた。近代まれな洪水と配録されているほどで、田端村(寒川町)から萩園村へかけ、堤防三〇〇間(約五四〇メートル)の諸所が決壊して下流域一帯は濁水に覆われた。柳島村では床上浸水が続出する状態であって、農作物が全滅したのはいうまでもない。	『茅ヶ崎市史5概説編』『近代の幕明け』 一3『政治と農村指導』
					菊池小兵衛が萩園村名主となったのは、その翌年である。したがって洪水によって大打撃を受けたあとの村政を引継いだ。かれの治績を 讃える記銭の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川漲溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑ヲ荒廃シテ惨憺タルモノ アリ」と記されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないときにあっては、国また県費によって堤防工事を施工する ことは不可能であった	
1868 10 11 慶応4 8 26	千葉	暴風	海難	銚子沖	讃える記録の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川漲溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑ヲ荒廃シテ惨憺タルモノ	『千葉県気象災害史』
1868 10 11 慶応4 8 26 1868 明治元	千葉 茨城県	暴風洪水	海難	銚子沖 茨城県	讃える記録の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川漲溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑ヲ荒廃シテ惨憺タルモノアリ」と記されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないときにあっては、国また県費によって堤防工事を施工することは不可能であった。	『総和町史』通史編 近代・現代、『水海
1868 明治元 1868 明治元	茨城県 栃木	洪水	海難	茨城県	讃える記録の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川泓溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑ヲ荒廃シテ惨憺タルモノアリ」と配されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないときにあっては、国また県費によって堤防工事を施工することは不可能であった。 8月26二里幕府の軍艦三ヶ保丸暴風雨に遭い下総国銚子黒生浦の暗礁に触れて沈没す。死者十数人。 夏に大洪水、利根川流域で被害	『総和町史』通史編 近代・現代、『水海 道市史』下巻 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁
1868 明治元 1868 明治元 1868 明治元	茨城県 栃木 栃木	洪水 洪水 洪水	海難	茨城県 下羽田村	讃える記録の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川漲溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑予荒廃シ庁惨憺タルモノアリ」と記されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないときにあっては、国また県費によって堤防工事を施工することは不可能であった。 8月26二里幕府の軍艦三ヶ俣丸暴風雨に遭い下総国銚子黒生浦の暗礁に触れて沈没す。死者十数人。 夏に大洪水、利根川流域で被害 渡良瀬川の堤防決壊	『総和町史』通史編 近代・現代、『水海 道市史』下巻 「近代足利市史』第一巻、1459-1462頁 『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245
1868 明治元	茨城県 栃木 栃木 千葉	洪水 洪水 洪水 洪水 暴風	海難	茨城県	讃える記録の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川泓溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑ヲ荒廃シテ惨憺タルモノアリ」と配されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないときにあっては、国また県費によって堤防工事を施工することは不可能であった。 8月26二里幕府の軍艦三ヶ保丸暴風雨に遭い下総国銚子黒生浦の暗礁に触れて沈没す。死者十数人。 夏に大洪水、利根川流域で被害	『総和町史』通史編 近代・現代、『水海 道市史』下巻 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁 『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245 『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245 『千葉県気象災害史』
1868 明治元	茨 城県 栃木 栃木 <u>栃木菜</u> 栃木	洪水 洪水 洪水 洪水 暴風 地震		茨城県 下羽田村 高橋村	讃える記録の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川漲溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑ヲ荒廃シテ惨憺タルモノ アリ」と記されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないときにあっては、国また県費によって堤防工事を施工する ことは不可能であった。 8月26二里幕府の軍艦三ヶ保丸暴風雨に遭い下総国銚子黒生浦の暗礁に触れて沈没す。死者十数人。 夏に大洪水、利根川流域で被害 渡良瀬川の堤防決壊 旗川の堤防決壊	『総和町史』通史編 近代・現代、『水海 道市史』下巻 『近代足和市史』第一巻、1459-1462頁 『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245 『在野市史』(佐野市、1979年)、244-245 『千葉県気象災害史』 『真岡市史』(眞岡市、1988年)、42頁
1868 明治元	茨 栃木木 栃木木 栃 千木木木 栃 千木木木	洪水 洪水 洪水 洪水 暴風 地震 火事	海難	茨城県 下羽田村 高橋村 勝浦冲	讃える記録の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川漲溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑予荒廃シ庁惨憺タルモノアリ」と記されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないときにあっては、国また県費によって堤防工事を施工することは不可能であった。 8月26二里幕府の軍艦三ヶ俣丸暴風雨に遭い下総国銚子黒生浦の暗礁に触れて沈没す。死者十数人。 夏に大洪水、利根川流域で被害 渡良瀬川の堤防決壊 施川の堤防決壊 施川の堤防決壊 正月3日熊本藩御用船上総国夷隅郡川津村南東端華立巌にて大風雨に遇いて沈没死者百数十人也。	「総和町史」通史編 近代・現代、『水海 道市史』下巻 『近代足和市史』第一巻、1459-1462頁 『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245 『仕野市史』(佐野市、1979年)、244-245 『千葉県気象災害史』 『真岡市史』(真岡市、1988年)、42頁 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412
1868 明治元	茨 栃 木木木	洪水 洪水 洪水 洪水 黒虚 変 火事 火事		茨城県 下羽田村 高橋村 勝浦沖 千葉県北東部(香取郡)	讃える記録の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川漲溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑ヲ荒廃シ庁惨憺タルモノアリ」と記されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないときにあっては、国また県費によって堤防工事を施工することは不可能であった。 8月26二里幕府の軍艦三ヶ保丸暴風雨に遭い下総国銚子黒生浦の暗礁に触れて沈没す。死者十数人。 夏に大洪水、利根川流域で被害 遊良瀬川の堤防決壊 旗川の堤防決壊 旗川の堤防決壊 正月3日熊本潘御用船上総国夷隅郡川津村南東端華立巖にて大風雨に遇いて沈没死者百数十人也。 夏雨量殊に多く禾穀登らず。	「総和町史」通史編 近代・現代、『水海 遠市史」下巻 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁 『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245 「千葉県気象災害史』 『真岡市史』(真岡市、1988年)、42頁 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『干葉県気象災害史』
1868	茨 栃栃 新子栃 栃 千神子	洪水 洪水 洪水 洪水 暴震 地東事 火 火 多 の 他 、 大 の 、 大 、 大 、 大 、 大 、 大 の 大 の 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 、 、 、 、	海難	茨城県 下羽田村 高橋村 勝浦冲	讃える記録の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川漲溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑予荒廃シ庁惨憺タルモノアリ」と記されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないときにあっては、国また県費によって堤防工事を施工することは不可能であった。 8月26二里幕府の軍艦三ヶ俣丸暴風雨に遭い下総国銚子黒生浦の暗礁に触れて沈没す。死者十数人。 夏に大洪水、利根川流域で被害 渡良瀬川の堤防決壊 施川の堤防決壊 施川の堤防決壊 正月3日熊本藩御用船上総国夷隅郡川津村南東端華立巌にて大風雨に遇いて沈没死者百数十人也。	「総和町史」通史編 近代・現代、『水海 道市史」下巻 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁 『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245 『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245 『千葉東気象災害史』 『真岡市史』(真岡市、1988年)、42頁 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『日光市史』「巻(日光市、1979年)、412 『千葉県気象災害史』 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部 『千寶沼周辺の水害』
1868 明治元	茨 栃栃 新子栃 栃 千神子	洪水 洪水 洪水 選風 地震 火事 火子の他 豪雨	海難	茨城県 下羽田村 高橋村 勝浦沖	讃える記録の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川漲溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑予荒廃シ庁惨憺タルモノアリ」と記されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないときにあっては、国また県費によって堤防工事を施工することは不可能であった。 8月26二里幕府の軍艦三ヶ俣丸暴風雨に遭い下総国銚子黒生浦の暗礁に触れて沈没す。死者十数人。 夏に大洪水、利根川流域で被害 渡良瀬川の堤防決壊 進川の堤防決壊 進川の堤防決壊 正月3日熊本藩御用船上総国夷隅郡川津村南東端華立巌にて大風雨に遇いて沈没死者百数十人也。 夏雨量殊に多く禾穀登らず。 十三日朝五半時頃より大風雨にて家屋破損多し(武江年表) 烈風雨、利根川・手質沼出水。 新川出来る(山田郡)	「総和町史」通史編 近代・現代、『水海 道市史』下巻 『近代足和市史』第一巻、1459-1462頁 『佐野市史』佐野市、1979年)、244-245 『任野市史』佐野市、1979年)、244-245 『千葉県気象災害史』 『真岡市史』(真岡市、1988年)、42頁 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『千葉県気象災害史』 『神奈川県父書誌(自然災害》』年表1部
1868 明治元	茨 栃栃斯王栃栃斯王神王神 城 木木木葉末木木木葉奈葉奈 県	洪水 洪水水 洪水水 黒水水 黒悪 地震事 火事 その他 豪水 暴風雨	海難	茨城県 下羽田村 高橋村 勝浦沖	讃える記録の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川漲溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑予荒廃シ庁惨億タルモノアリ」と記されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないときにあっては、国また県費によって堤防工事を施工することは不可能であった。 8月26 三 幕府の軍艦三ケ保丸暴風雨に遭い下総国銚子黒生浦の暗礁に触れて沈没す。死者十数人。 夏に大洪水、利根川流域で被害 渡良瀬川の堤防決壊 旗川の堤防決壊 正月3日熊本藩御用船上総国夷隅郡川津村南東端華立巖にて大風雨に遇いて沈没死者百数十人也。 夏雨量殊に多く禾穀登らず。 十三日朝五半時頃より大風雨にて家屋破損多し(武江年表)	「総和町史」通史編 近代・現代、『水海 道市史」下巻 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁 『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245 『千葉県気象災害史』 『日本市史』下巻(日光市、1979年)、412 『千葉県気象災害史』 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『千葉県気象災害史』 『神奈川県災害誌自然災害』。「本妻、日東、できた。」 「神奈川県災害誌自然災害」。「年妻、日東、「神奈川県災害誌自然災害」。
1868 明治元	茨 栃栃斯王栃栃斯王神王神 城 木木木葉末木木木葉奈葉奈 県	洪水 洪水水 洪水水 黒水水 黒悪 地震事 火事 その他 豪水 暴風雨	海難	茨城県 下羽田村 高橋村 勝浦沖	讃える記録の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川漲溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑予荒廃シ庁惨億タルモノアリ」と配されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないときにあっては、国また県費によって堤防工事を施工することは不可能であった。 8月26二里幕府の軍艦三ケ保丸暴風雨に遭い下総国銚子黒生浦の暗礁に触れて沈没す。死者十数人。 夏に大洪水、利根川流域で被害 - 遠良瀬川の堤防決壊 -	「総和町史」通史編 近代・現代、『水海道市史」下巻 道市史」下巻 「近代足利市史』第一巻、1459-1462頁 「佐野市史」(佐野市、1979年)、244-245 「千葉県気象災害史」 「再岡市史』(東町市、1988年)、42頁 「再地市史』下巻(日光市、1979年)、412 「日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 「千葉県気象災害史」 「神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部 「再賀沼周辺の水害』 「横浜近代史総合年表』 『群馬県気象災害史』
1868	茨 栃木木木葉 県 県	洪水 洪水 洪水 洪水 美星 基地火事 下 2 5 5 5 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7	海難	茨城県 下羽田村 高種村 勝浦沖 千葉県北東部(香取郡) 詳細不明 丰智沼周辺	讃える記録の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川漲溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑予荒廃シ庁惨憺タルモノアリ」と記されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないときにあっては、国また県費によって堤防工事を施工することは不可能であった。 8月26二里幕府の軍艦三ヶ保丸暴風雨に遭い下総国銭子黒生浦の暗礁に触れて沈没す。死者十数人。 夏に大洪水、利根川流域で被害 渡良瀬川の堤防決壊 遠川の堤防決壊 並川の堤防決壊 正月3日熊本藩御用船上総国夷隅郡川津村南東端華立巖にて大風雨に遇いて沈没死者百数十人也。 夏雨量殊に多く未穀登らず。 十三日朝五半時頃より大風雨にて家屋破損多し(武江年表) 烈風雨、利根川・手賀沼出水。 新川出来る(山田郡) 大出水、糸之瀬村) 大出水、糸之瀬村, 天明より84年目の大水(利南村) 波良瀬川西谷田村除川にて165間破堤、同西谷田村西岡新田にて100間破堤、同海老瀬村沖伊谷田にて56間破堤(邑楽郡)	「総和町史」通史編 近代・現代、『水海 道市史」下巻 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁 『佐野市史』佐野市、1979年)、244-245 『千葉県気象災害史』 『田光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『千葉県気象災害史』 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『千葉県気象災害史』 「神奈川県災害誌自然災害』年表1部 『手選別通辺の水害』 『横浜近代史総合年表』 『群馬県気象災害史』
1868	茨 栃 木木	洪水 洪水水 洪洪水水 黑震 地火火车 可雨 大工 大工 大工 大工 大工 大工 大工 大工 大工 大工 大工 大工 大工	海難	茨城県 下羽田村 高橋村 勝浦沖 千葉県北東部(香取郡) 詳細不明 手賀沼周辺 荒川・江戸川流域	讃える記録の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川漲溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑予荒廃シ庁惨憺タルモノアリ」と記されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないときにあっては、国また県費によって堤防工事を施工することは不可能であった。 8月26二里幕府の軍艦三ケ保丸暴風雨に遭い下総国銚子黒生浦の暗礁に触れて沈没す。死者十数人。 夏に大洪水、利根川流域で被害 渡良瀬川の堤防決壊 雄川の堤防決壊 並川の堤防決壊 正月3日熊本藩御用船上総国夷隅郡川津村南東端華立巌にて大風雨に遇いて沈没死者百数十人也。 夏雨量殊に多く天穀登らず。 十三日朝五半時頃より大風雨にて家屋破損多し(武江年表) 烈風雨、利根川・手賀沿出水。 新川出来る(山田郡) 大出水(糸之瀬村) 大出水(糸之瀬村) 大出水、沼須横町水押、天明より84年目の大水(利南村) 渡良瀬川西谷田村除川にて165間破堤、同西谷田村西岡新田にて100間破堤、同海老瀬村沖伊谷田にて56間破堤(邑楽郡) 大雨で各河川から出水。	「総和町史」通史編 近代・現代、『水海 道市史」下巻 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁 『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245 『代野市史』(佐野市、1979年)、244-245 『千葉県気象災害史』 『日光市史』下巻、日光市、1979年)、412 『日光市史』下巻、日光市、1979年)、412 『日光市史』下巻、日光市、1979年)、412 『日光市史』下巻、日光市、1979年)、412 『日光市史』「一巻、日光市、1979年)、412 『日光市史』「一巻、日光市、1979年)、412 『中奈川県災害誌(自然災害)』年表1部 『青賀沼周辺の木書』 『横浜近代史総合年表』 『群馬県気象災害史』 『『群馬県気象災害史』 『吹上町史』『三郷市史』通史編『『幸手 市史』通史編』(近現代・小山市、な 『千葉県気象災害史』
1868	茨 栃木木木葉 県 県	洪水 洪水 洪水 洪水 美星 基地火事 下 2 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三	海難	茨城県 下羽田村 高橋村 勝浦沖 千葉県北東部(香取郡) 詳細不明 手賀沼周辺 荒川・江戸川流域	讃える記録の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川漲溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑予荒廃シ庁惨憺タルモノアリ」と記されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないときにあっては、国また県費によって堤防工事を施工することは不可能であった。 8月26二里幕府の軍艦三ケ保丸暴風雨に遭い下総国銚子黒生浦の暗礁に触れて沈没す。死者十数人。 夏に大洪水、利根川流域で被害 渡良瀬川の堤防決壊 雄川の堤防決壊 並川の堤防決壊 正月3日熊本藩御用船上総国夷隅郡川津村南東端華立巌にて大風雨に遇いて沈没死者百数十人也。 夏雨量殊に多く天穀登らず。 十三日朝五半時頃より大風雨にて家屋破損多し(武江年表) 烈風雨、利根川・手賀沿出水。 新川出来る(山田郡) 大出水(糸之瀬村) 大出水(糸之瀬村) 大出水、沼須横町水押、天明より84年目の大水(利南村) 渡良瀬川西谷田村除川にて165間破堤、同西谷田村西岡新田にて100間破堤、同海老瀬村沖伊谷田にて56間破堤(邑楽郡) 大雨で各河川から出水。	「総和町史」通史編 近代・現代、『水海 道市史」下巻 「近代足利市史』第一巻、1459-1462頁 「佐野市史」(佐野市、1979年)、244-245 「千葉県気象災害史」 「真岡市史』(真岡市、1988年)、42頁 「日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 「日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 「千葉県気象災害史」 「神奈川県災害誌(自然災害)』「神奈川県災害誌(自然災害)』「神奈川県災害誌(自然で)」「年表1部 「青賀周辺の水害」 「横浜近代史総合年表」 「群馬県気象災害史』 「昨馬県気象災害史』 「中東川東災害法(自然災害)』「中東川東災害法(日本)、195年 「平葉県気象災害史』 「小山市史』通史編工近現代(小山市、1987年)、495-497頁 「小山市史」通史編工近現代(小山市、1987年)、495-497頁
1868	茨 栃板 木木木 葉木木木 美奈葉奈馬 玉 葉木 木 板 板 木木木 葉木木木 美奈葉奈馬 玉 葉木 木 木 栃 木	洪水 洪水 洪水 洪水 北 基 里 地 火 上 至 西 雨 大 水 水 水 大 天 の 他 り 他 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り	海難	茨城県 下羽田村 高橋村 勝浦沖 千葉県北東部(香取郡) 詳細不明 手賀沼周辺 荒川・江戸川流域	讃える記録の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川漲溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑予荒廃シ庁惨憺タルモノアリ」と記されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないときにあっては、国また県費によって堤防工事を施工することは不可能であった。 8月26二里幕府の軍艦三ケ保丸暴風雨に遭い下総国銚子黒生浦の暗礁に触れて沈没す。死者十数人。 夏に大洪水、利根川流域で被害 渡良瀬川の堤防決壊 雄川の堤防決壊 並川の堤防決壊 正月3日熊本藩御用船上総国夷隅郡川津村南東端華立巌にて大風雨に遇いて沈没死者百数十人也。 夏雨量殊に多く天穀登らず。 十三日朝五半時頃より大風雨にて家屋破損多し(武江年表) 烈風雨、利根川・手賀沿出水。 新川出来る(山田郡) 大出水(糸之瀬村) 大出水(糸之瀬村) 大出水、沼須横町水押、天明より84年目の大水(利南村) 渡良瀬川西谷田村除川にて165間破堤、同西谷田村西岡新田にて100間破堤、同海老瀬村沖伊谷田にて56間破堤(邑楽郡) 大雨で各河川から出水。	「総和町史」通史編 近代・現代、『水海 道市史」下巻 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁 『佐野市史』佐野市、1979年)、244-245 『千葉県気象災害史』 『田光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『千葉県気象災害史』 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『千葉県気象災害史』 『神奈川県災害誌自然災害』』年表1部 『千葉県気象災害史』 「神奈川県災害誌自然災害』』年表1部 『千葉県気象災害史』 『神疾川代史総合年表』 『群馬県気象災害史』 『神疾が民事と総合年表』 『神川・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田
1868	茨 栃板 木木 東	洪水 洪水 洪水 吳國慶 地火火七 夏瀬水 洪 洪 城 東 東 大 七 夏瀬水 洪 大 大 大 の 行 地 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	 不作	茨城県 下羽田村 高橋村 勝浦沖 千葉県北東部(香取郡) 詳細不明 手賀沼周辺 荒川・江戸川流域 千葉県北西部 下羽田村	讃える記録の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川漲溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑予荒廃シ戸惨僧タルモノアリ」と記されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないときにあっては、国また県費によって堤防工事を施工することは不可能であった。 8月26二里幕府の軍艦三ケ俣丸暴風雨に遭い下総国銚子黒生浦の暗礁に触れて沈没す。死者十数人。 夏に大洪水、利根川流域で被害 渡良瀬川の堤防決壊 進川の堤防決壊 進川の堤防決壊 正月3日熊本藩御用船上総国夷隅郡川津村南東端華立巌にて大風雨に遇いて沈没死者百数十人也。 夏雨量殊に多く禾穀登らず。 十三日朝五半時頃より大風雨にて家屋破損多し(武江年表) 烈風雨、利根川・手賀出水。 新川出来る(山田郡) 大出水、沿須横町水押、天明より84年目の大水(利南村) 茂良瀬川西谷田村修川にて165間破堤、同西谷田村西岡新田にて100間破堤、同海老瀬村沖伊谷田にて56間破堤(邑楽郡) 大雨で各河川から出水。 9月20日利根川出水し当地方に水害あり。	「総和申史」通史編 近代・現代、『水海 道市史」下巻 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁 『佐野市史』、佐野市、1979年)、244-245 『八葉東気象災害史』 『四十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二
1868	茨 栃 木木 葉	洪水 洪水 洪水 洪水 北 基 里 地 火 上 至 西 雨 大 水 水 水 大 天 の 他 り 他 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り	海難 不作 神田相生町20火災 京橋区元数寄屋町2丁	茨城県 下羽田村 高橋村 勝浦沖 千葉県北東部(香取郡) 詳細不明 手賀沼周辺 荒川・江戸川流域 千葉県北西部	讃える記録の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川漲溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑予荒廃シ庁惨憺タルモノアリ」と記されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないときにあっては、国また県費によって堤防工事を施工することは不可能であった。 8月26三里幕府の軍艦三ケ俣丸暴風雨に遭い下総国銚子黒生浦の暗礁に触れて沈没す。死者十数人。 夏に大洪水、利根川流域で被害 渡良瀬川の堤防決壊 雄川の堤防決壊 正月3日熊本藩御用船上総国夷隅郡川津村南東端華立巖にて大風雨に遇いて沈没死者百数十人也。 夏雨量殊に多く天穀登らず。 十三日朝五半時頃より大風雨にて家屋破損多し(武江年表) 烈風雨、利根川・手賀沿出水。 新川出来る(山田郡) 大出水(糸之瀬村) 大出水(糸之瀬村) 大出水、沼須横町水押、天明より84年目の大水(利南村) 渡良瀬川西谷田村除川にて165間破堤、同西谷田村西岡新田にで100間破堤、同海老瀬村沖伊谷田にで56間破堤(邑楽郡) 大雨で各河川から出水。 9月20日利根川出水し当地方に水害あり。	「総和町史」通史編 近代・現代、『水海 道市史」下巻 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁 『佐野市史』佐野市、1979年)、244-245 『千葉県気象災害史』 『田光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『千葉県気象災害史』 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『千葉県気象災害史』 『神奈川県災害誌自然災害』』年表1部 『千葉県気象災害史』 「神奈川県災害誌自然災害』』年表1部 『千葉県気象災害史』 『神疾川代史総合年表』 『群馬県気象災害史』 『神疾が民事と総合年表』 『神川・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田
1868	茨 栃 木木 葉	洪水 洪水 洪水 洪水 洪水 洪水 大 大 大 大 大 大 大 の 他 大 の 他 大 の 他 大 大 の 他 大 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	海難 不作 神田相生町20火災	茨城県 下羽田村 高種村 勝浦沖 千葉県北東部(香取郡) 詳細不明 丰智沼周辺 荒川・江戸川流域 千葉県北西部 下羽田村 // 神田相生町	讃える記録の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川漲溢シテ堤防予決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑予荒廃シ庁惨憺タルモノアリ」と記されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないときにあっては、国また県費によって堤防工事を施工することは不可能であった。 8月26二里幕府の軍艦三ケ保丸暴風雨に遭い下総国銚子黒生浦の暗礁に触れて沈没す。死者十数人。 夏に大洪水、利根川流域で被害 - 遠良瀬川の堤防決壊 -	「総和町史」通史編 近代・現代、『水海 道市史」下巻 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁 『佐野市史』佐野市、1979年)、244-245 『千葉県気象災害史』 『自岡市史』度岡市、1988年)、42頁 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『干葉県気象災害史』 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部 『手賀沼周辺の水害』 『横浜近代史総合年表』 『群馬県気象災害史』 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部 『千葉県気象災害史』 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部 『千葉県気象災害史』 『神奈川県災害は「自然では、1979年、412 『平東県の東郷で、な 『千葉県気象災害史』 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁 『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁 『東京の河版百年の歩み』
1868	茨 栃 栃 木木 - 東東 栃 栃 栃 栃 - 大木 - 東東 栃 栃 - 大木 - 大東東 - ボ - ボ - ボ - ボ - ボ - ボ - ボ - ボ - ボ -	洪水 洪水 洪水 洪水 大水 大水 大水 大水 大水 大水 大水 大水 大水 大水 大水 大水 大水	海難 不作 神田相生町20火災 京橋区元教寄屋町2丁 目火災	茨城県 下羽田村 高橋村 勝浦沖 千葉県北東部(香取郡) 詳細不明 手賀沼周辺 荒川・江戸川流域 千葉県北西部 下羽田村 神田相生町 京橋区元数寄屋町	讃える記録の一節に、「先年頻二洪水アリ、相模川漲溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル萩園ハ其ノ人畜を害シ田畑予荒廃シ戸惨僧タルモノアリ」と記されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないときにあっては、国また県費によって堤防工事を施工することは不可能であった。 8月26二里幕府の軍艦三ケ俣丸暴風雨に遭い下総国銚子黒生浦の暗礁に触れて沈没す。死者十数人。 夏に大洪水、利根川流域で被害 渡良瀬川の堤防決壊 進川の堤防決壊 進川の堤防決壊 正月3日熊本藩御用船上総国夷隅郡川津村南東端華立巌にて大風雨に遇いて沈没死者百数十人也。 夏雨量殊に多く未穀登らず。 十三日朝五半時頃より大風雨にて家屋破損多し(武江年表) 烈風雨、利根川・手賀沿出水。 新川出来る(山田郡) 大出水(糸之瀬村) 大出水(糸之瀬村) 大出水、沼須横町水押、天明より84年目の大水(利南村) 渡良瀬川の谷田村除川にて165間破堤、同西谷田村西岡新田にて100間破堤、同海老瀬村沖伊谷田にて56間破堤(邑楽郡) 大雨で各河川から出水。 9月20日利根川出水し当地方に水害あり。 遼良瀬川の堤防決壊 塗面業より出火、死者1名、全焼1,100戸 米屋より出火、死者2名、全焼3,402戸	「総和町史」通史編 近代・現代、『水海 遺市史」下巻 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁 『佐野市史』佐野市、1979年)、244-245 『千葉県気象災害史』 『自州市史』下巻(日光市、1979年)、412 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412 『干葉県気象災害史』 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部 『手質沼周辺の水害』 『韓浜近代史総合年表』 『群馬県気象災害史』 『中二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十

1870 18 19 19 19 19 19 19 19		DD ://-								
1870 4 明治2 7 京城橋 文章 古田市 野田野小田北、東和町江子 延鹿、加田市 1870 18 18 現在 18 東京 18 18 東京 18 東京	0 3 19					火事		草加宿	夕刻に発生した火災が北風にあおられ延焼。	『埼玉県行政史』1、『草加市史』通史編
1970 8 14 明治21 4 月末 大学 加速町 20 FM 全張 20 FM 全部 20 FM 全 20 FM 全部 20 FM 全 20 FM 20		明治	3 2					横見郡	大風雨で堤が切れ出水、暴風で家財や食料が流される。	『吉見町史』
1870 8 15 明治 7 19 個馬 現本		明治	3 3	١. ا	<u>茨城県</u>					『石岡市史』下巻
1870 8 15 明治3 7 19 群馬 洪水) 5 4	明治	3 4						[30尸か全焼。 フェトウルン 監禁的に十五式吹け を地で出来	<u>『羽生市史』下巻</u> 『吹上町史』『北埼玉郡史』『栗橋市史』
新国のから、自川井野川池彦、元者1(長野村) 新国のから、自川井野川池彦、元者1(長野村) 新国のから、自川井野川池彦、元者1(長野村) 新田川・大田村子自にて200回後後、同酒各田村勢川にて250 1970 1972 7 実施	7 8 14	明洁、	3 /	18	琦玉	洪水		埼玉県東部	/月上旬から断続的に入州が降り、谷地で田水。	『吹上町史』『北埼玉郡史』『朱橋市史』 『三郷市史』通史編『、『久喜市栗橋町
新国のから、自川井野川池彦、元者1(長野村) 新国のから、自川井野川池彦、元者1(長野村) 新国のから、自川井野川池彦、元者1(長野村) 新田川・大田村子自にて200回後後、同酒各田村勢川にて250 1970 1972 7 実施										リニが中央』通史機工、『大音中未稿画史』通史編 下など。
新国のから、自川井野川池彦、元者1(長野村) 新国のから、自川井野川池彦、元者1(長野村) 新国のから、自川井野川池彦、元者1(長野村) 新田川・七田町・石田での間破産、同酒各田村勢川にて250 18 18 28 28 28 28 28 28) 8 15	明治:	3 7	19	群匡	进水			大風 大水 沼須橋流出(糸之瀬村)	『群馬県気象災害史』
新田川・子江田中川・舎田・「中舎田・「七の間線線、同音の目標が振った」。	ا ا ا	7772	* <i>′</i>	'"	AT MY	////				
日本語 日本									利根川、千江田村斗合田にて240間破堤、渡良瀬川海老瀬村仲伊谷田にて68間破堤、同西谷田村除川にて250間破堤、同西谷田村西岡新	
1870 8 明治3 7 天曜 洪水 中和田川遠域 三田田川遠域 三田田川道域 三田田川										
1870 8 明治3 一年 東水木 千宝 海水 千宝 海水 八月中旬美東。17日中旬美東。17月中旬美東。17月中旬美東。17月中旬美東。17月中旬美東。17月中旬美東。17月中旬美東。17月中旬美東。17日中旬美東。17月中旬美東。17月中旬美東。17月中旬美東。17月中旬美東。17月中旬美東。17月中旬美東。17月中旬美東。17日中旬美東。17月中旬美東。17月中旬美東。17日中旬美東。17日中旬美東。17日中旬美東。17日中旬美東。17日中旬東、17日中旬東。17日中旬東。17日中旬東。17日中旬東。17日中旬東。17日中旬東。17日中旬東。17日中旬東、17日中旬東。17日中旬東、17日中旬東。17日中旬東。17日中旬東。17日中旬東、17日中旬東、17日中旬東、17日中旬、17日中旬東。17日中旬東。	8 (明治	3 8		茨城県	洪水		古河市	渡良瀬川の堤防が決壊し、古河城の城内へ水は入る	『古河市史』通史編
1870 10 12 1833 12 17 2 2 2 2 2 2 2 2 2	8 (明治	3 7		茨城県	洪水		中利根川流域	暴風雨と洪水、家屋の流失・浸水123軒	『取手市史』通史編Ⅲ
1970 19 7 1933 8 均工 接風		明治	3 7			洪水		手賀沼周辺	7月中旬豪雨、21日未明布佐堤防決壞、手賀沼大洪水、湖北村堤防決壞。	『手賀沼周辺の水害』
1870 10 2 別念3 8 巻巻川 黒黒田 機済田町 1168円曜 1168円曜 1169日曜	, ,	明治:	3 8	8	埼玉			鴻巣宿	午後10時頃雷雨と竜巻が発生。	『埼玉県行政史』1
1970 10 19月25 10 19月25 10 12 19月25 10 10 19月25 10 10 19月25 10 10 19月25 10 10 19月25 10 19月2										『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部
1870 10 12 明治3 18 2 18 2 18 2 1 18 1 18 1 12 1 18 1 18 18										『横浜近代史総合年表』
1870 12 別念 18 千葉 洪水 千葉 洪水 千葉 北水 北水 北水 北水 北水 北水 北水 北								手賀沼周辺		『手賀沼周辺の水害』
1870 10 20 別治2 10 5 樹木 火事			3 9	18	群馬			- # III III # 1/2/15 (1)	大鳳、橋流出(糸之瀬村)	『群馬県気象災害史』
1871 2 11 明治3 12 2 東京		明治	3 9	18	十某	洪水		十葉県北部(利根川)	9月 8日利根川田水めり。沿岸を浸し被告少からす。	『千葉県気象災害史』
1870		明治、	3 10	00	- 物本		口土板区类次型10点。	D + 15 G ## /pm;	VERVIUM	『真岡市史』(真岡市、1988年)、42頁
1870	1 2 111	明治	3 12				日本間区難波町19火火	日本简色難波町	木屋より口欠、主焼 180戸、焼矢面槓60,29 平万メートル	『東京の消防百年の歩み』
1870 明治3 栃木 洪水 平田中 藤良瀬川の堤防決壊 秋山川の堤防決壊 北京田田町 大木、沼須橋流出(糸之瀬村) 大木、沼須橋流出(糸之瀬村) 大木、沼須橋流出(糸之瀬村) 大木、沼須橋流出(糸之瀬村) 大木、沼須橋流出(糸之瀬村) 大木、土橋、船橋流矢(利南村) 大木、土橋、船橋流矢(利南村) 大木、江橋、船橋流矢(利南村) 大木、江橋、路橋流矢(利南村) 大木、江橋、路橋流矢(利南村) 大木、江橋、路橋流矢(利南村) 大木、江橋、路橋流矢(利南村) 大木、江海域 北京田田町 東京田田町 東田田町 東京田田町 東京田田町 東京田町 東田田町 東田田町 北町田田町 田田町 田田町 田田田町 東京田田町 田田田町 田田田町 田田田田町 田田田田田田田田田田田	'	9370	٥		彻小	洪小				『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、 1987年)、495-497頁
1870 明治2 栃木 洪水 下多田日 機良利川の堤防決壊 横木 洪水 横野村 横原村仲通・本町・弁天通 横原村仲通・本町・弁天通 横原村仲通・本町・弁天通 横原村仲通・本町・弁天通 横原村仲通・本町・弁天通 横原大田町・入船町・動野町 横原大田町・入船町・動野町 横原大田町・入船町・動野町 横原大田町・入船町・動野町 大木 沼須横流 八田 八田 八田 八田 八田 八田 八田 八	, 	明治	3	\vdash	栃木	进水		/		『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁
1870 明治2 柳木 洪水 種野作 秋山川の堤防決壊 秋山川の堤防決壊 1871 3 明治2 1 18 神森川 火災 横浜商仲通・本町・弁天通 1871 3 9 明治2 3 2 神森川 火災 横浜高世町・入船町・販船町 横浜高世町・八田町 横浜高田町 横浜高田町 大水高田町 横浜高田町 大田町 大田町								下羽田村	渡良瀬川の堤防決壊	『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245
1871 3 明治4 1 3 神奈川 火災 横浜南仲通・本町・未天通 1871 5 9 明治4 3 20 神奈川 火災 横浜南中通・本町・未天通 1871 5 9 明治4 5 18 群馬 火災 横浜南町 大水、沼須橋流田(糸之瀬村) 大水、土橋、船橋流失(利南村) 大水、土橋、船橋流失(利南村) 大水、土橋、船橋流大(利市) 大水、土橋、船橋流失(利南村) 大水、土橋、船橋流失(利南村) 大水、土橋、船橋流失(利南村) 大水、土橋、船橋流失(利南村) 大水、土橋、船橋流失(利南村) 大水、土橋、船橋流失(利南村) 大水、土橋、船橋流失(利南村) 大水、土橋、船橋流火(利南村) 大水、土橋、船橋流火(利南村) 大水、土橋、船橋流火(利南村) 大水、土橋、船橋流火(利南村) 大水、土橋、船橋流火(利南村) 大水、土橋、船橋流火(利南村) 大水、土橋、船橋流火(利南村) 大水 土橋、船橋流火(利南村) 大水 土橋、船橋流火(利南村) 大水 土橋、船橋流火(利南村) 大水 土橋、船橋流火(利南村) 大水 土橋、船橋流火(利南村) 大水 土橋、北橋 北海山 火 古原 連歩り火 大原 海町・大原山 大原山 大田 海町・大原山 大田 海町・大原山 大田 海町・大原山 大田 海町・大原山 海町・大原山 大田 海町・大原山 大原山 大田 海町・大原山 大原山 大田 海町・大原山 大田 海町・大原山 大田								植野村	放送機能・ 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245
1871 3 8 明治4 1 18 神寒川 火災								横浜南仲涌・本町・弁天涌	2000	『横浜近代史総合年表』
1871 7 5 9 別治4 4 1 神奈川 火災 横浜線町 大水、沿須橋流出(糸と瀬村) 大水、土橋、船橋流失(利南村) 大水、土橋、船橋流失(利南村) 大水、土橋、船橋流失(利南村) 大水、土橋、船橋流光(外南村) 大水、土橋、船橋流失(利南村) 大水、土橋、路橋流失(利南村) 大水、土橋、船橋流失(利南村) 大水、土橋、路橋流失(利南村) 大水、土橋、北崎流 大田市 宋川鉄砲河 沙村 逆井 場江 猫さね 行徳 海嘯(中略) 御府内も所々潰家多く即死怪我人: なり(武江年表) 1871 10 10 9 治社 9 10 27 神奈川 火災 横京青原町・吉田町 大田町 大田	1 3 8	明治	4 1							『横浜近代史総合年表』
1871 7 5 9 別治4 4 1 神奈川 火災 横浜線町 大水、沿須橋流出(糸と瀬村) 大水、土橋、船橋流失(利南村) 大水、土橋、船橋流失(利南村) 大水、土橋、船橋流失(利南村) 大水、土橋、船橋流光(外南村) 大水、土橋、船橋流失(利南村) 大水、土橋、路橋流失(利南村) 大水、土橋、船橋流失(利南村) 大水、土橋、路橋流失(利南村) 大水、土橋、北崎流 大田市 宋川鉄砲河 沙村 逆井 場江 猫さね 行徳 海嘯(中略) 御府内も所々潰家多く即死怪我人: なり(武江年表) 1871 10 10 9 治社 9 10 27 神奈川 火災 横京青原町・吉田町 大田町 大田	1 5 9	明治	4 3	20	神奈川	火災		横浜馬車道・小舟町		『横浜近代史総合年表』
1871 7 5 明治4 5 18 群馬 洪水 大水、浜線橋流出(株名)瀬村) 波良瀬川海老瀬村仲伊谷田にて28間破堤 大水、土橋、総橋流失(利南村) 波良瀬川海老瀬村仲伊谷田にて28間破堤 1871 7 16 明治4 5 29 東京 火事	1 5 10	一用"少	A A	1	神奈川	火災		横浜緑町		『横浜近代史総合年表』
1871 7 16 明治4 5 29 東京 火事 浅草区新吉原江戸町2 浅草区新吉原江戸町二丁目、角町、揚屋 町、京町12丁目、五十軒町 京町12丁目、五十軒町 京町12丁目、五十町町 京町12丁目、五十町町 京町12丁目、五十町町 京町12丁目、五十町 京町12丁目、五十町町 京町12丁目 町にまで2日間 京町12丁目	1 7 5	明治	4 5	18	群馬				大水、沼須橋流出(糸之瀬村)	『群馬県気象災害史』
1871 7 16 明治4 5 29 東京 決革区新吉原江戸町二丁目、角町、揚屋 豆腐屋より出火、吉原遊郭のほぼ3分の2が焼失、全焼673戸町、京町1.2丁目、五十軒町 朝より大風雨 深川鉄砲洲・沙村・逆井・堀江・猫ざね・行徳 朝より大風雨 深川鉄砲洲・沙村・逆井・堀江 猫ざね 行徳 海嘯(中略) 御府内も所々潰家多く即死怪我人: なり(武江年表) 1871 10 10 明治4 8 26 神奈川 水									大水、土橋、船橋流失(利南村)	
1871 9 3 明治4 7 19 神奈川 高潮 ア目火災 町、京町12丁目、五十軒町 深川鉄砲洲・沙村・逆井・堀江・猫ざね・行徳 駅より大風雨 深川鉄砲洲・沙村・逆井・堀江・猫ざね・行徳 駅より大風雨 深川鉄砲洲・沙村・逆井・堀江・猫ざね・行徳 球より大風雨 深川鉄砲洲・沙村・逆井・堀江 猫ざね 行徳 海嘯(中略) 御府内も所々潰家多く即死怪我人にない(武江年表) 1871 10 10 10 10 10 10 10									渡良瀬川海老瀬村仲伊谷田にて28間破堤	
1871 9 3 明治4 7 19 神奈川 高潮 ア目火災 町、京町12丁目、五十軒町 深川鉄砲洲・沙村・逆井・堀江・猫ざね・行徳 駅より大風雨 深川鉄砲洲・沙村・逆井・堀江・猫ざね・行徳 駅より大風雨 深川鉄砲洲・沙村・逆井・堀江・猫ざね・行徳 球より大風雨 深川鉄砲洲・沙村・逆井・堀江 猫ざね 行徳 海嘯(中略) 御府内も所々潰家多く即死怪我人にない(武江年表) 1871 10 10 10 10 10 10 10										
1871 9 3 明治4 7 19 神奈川 高潮 深川鉄砲洲・沙村・逆井・堀江・猫ざね・行徳 郷より大風雨 深川鉄砲洲 沙村 逆井 堀江 猫ざね 行徳 海嘯 (中略) 御府内も所々潰家多く即死怪我人的 なり(武江年表) 1871 10 20 明治4 9 7 栃木 豪雨 落雷を伴う 一	1 7 16	明治	4 5	29	東京	火事		浅草区新吉原江戸町二丁目、角町、揚屋	豆腐屋より出火、吉原遊郭のほぼ3分の2が焼失、全焼673戸	『東京の消防百年の歩み』
1871 10 10 明治4 8 26 神奈川 水害 本書 本書 本書 本書 本書 本書 本書 本							丁目火災			
1871 10 10 10 19 19 20 19 34 9 7 4 5 5 7 12 9 19 19 19 19 19 19	1 9 3	明治	4 7	19	神奈川	高潮		深川鉄砲洲・沙村・逆井・堀江・猫ざね・行徳	朝より大風雨 深川鉄砲洲 沙村 逆井 堀江 猫ざね 行徳 海嘯(中略) 御府内も所々潰家多く即死怪我人多かりし凡十里四方程の荒	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部
1871 10 20 明治4 9 7 栃木 豪雨 落雷を伴う 8 10 27 神奈川 火災 横浜吉原町・吉田町 元素20人 1871 12 9 明治4 10 27 神奈川 火災 横浜吉原町・吉田町 元素20人 1871 18									なり(武江年表)	
1871 10 明治4 9 埼玉 洪水 富士見市 市域の堤防が破損。 不者20人 1871 12 9 明治4 10 27 神奈川 火災 横浜吉原町・吉田町 死者20人 1871 19 明治4 栃木 洪水 「勝水 横浜吉原町・吉田町 死者20人 1871 明治4 栃木 洪水 「勝沙 一切 1872 4 3 明治5 2 26 神奈川 火災 保土ケ谷町 保土 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日						水害		石川橋		『横浜近代史総合年表』
1871 12 9 明治4 10 27 神奈川 火災 横浜吉原町・吉田町 死者20人 1871 1871 1871 1871 1871 1871 1871 1872 4 3 明治4 1872 4 3 明治5 2 26 東京 火事 翅町区祝田町火災(銀 座の大火) 超町区祝田町火災(銀 座の大火) 超町区祝田町火災(銀 座の大火) 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 10 20	明治	4 9	7	栃木	豪雨	落雷を伴う			『宇都宮市史』近·現代編 II (宇都宮市、
1871 12 9 明治4 10 27 神奈川 火災 横浜吉原町・吉田町 死者20人 1871 1871 1871 1871 1871 1871 1871 1871 1871 1872 4 3 明治4 1871 1872 4 3 明治5 2 26 東京 火事 麹町区祝田町火災(銀 産の大火) 土井 大藤田田田 大藤田田田田 大藤田田田田 大藤田田田田 大藤田田田田 大藤田田田田田田田田田田		BB 1/2		\vdash					L L D 2 18 N 18 X 18	1981年)、290-294頁
1871 明治4 栃木 洪水 /		明治	4 9		埼玉	洪水				『富士市市史』通史編 下巻
1871 明治4 栃木 洪水 横木 洪水 横極部保土ケ谷町 56戸焼失 1872 4 3 明治5 2 26 東京 火事 麹町区祝田町火災(銀 銀座御堀端から築地にかけての41か町 旧会津藩邸より出火、各省官邸地、諸官員邸宅、諸公藩邸を多く焼失、死者8名、罹災者19,872名、全焼4,879戸 1872 4 明治5 3 埼玉 洪水 富土見市 市域の堤防が破損。 市域の堤防が破損。 下葉県中西部(木更津) 下葉県中西部(木更津) 「月22日午後4時頃より南東風強く、猛雨相加り次第に烈しく7時過ぎ南風に転じ、9時頃より風雨共漸々軽軟翌明 人畜の死傷、作物の損害、家屋の破損、山村の倒木及び海岸村々押汐にて堤防の損所等あり。	1 12 9	明治	4 10			火災		横浜吉原町・吉田町	死者20人	『横浜近代史総合年表』
1872 4 3 明治5 2 26 神奈川 火災 保土ケ谷駅大火 播機部保土ケ谷町 1872 4 3 明治5 2 26 神奈川 火災 保土ケ谷駅大火 横線部保土ケ谷町 1872 4 3 明治5 2 26 東京 火事 援助区祝田町火災(銀 銀座御堀端から築地にかけての41か町 旧会津藩邸より出火、各省官邸地、諸官員邸宅、諸公藩邸を多く焼失、死者8名、罹災者19,872名、全焼4,879戸 1872 8 5 明治5 7 2 群馬 洪水 京土皇市 市域の堤防が破損。 1872 8 5 明治5 7 2 群馬 洪水 「井葉県中西部(木更津) 万月22日午後4時頃より南東風域、延雨相加り次第に烈しく7時過ぎ南風に転じ、9時頃より風雨共漸々軽軟翌時 八百の死傷、作物の損害、家屋の破損、山村の倒木及び海岸村々押汐にて堤防の損所等あり。 1872 8 9 明治5 7 26 茨城県 火事 水戸城火災 水戸城 水戸城 水戸城 水戸城 水戸城 水戸城 大戸城 大戸城 大戸城 大屋市 大屋町 大屋								/		『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁
1872 4 3 明治5 2 26 東京 火事 麹町区祝田町火災(銀 廃の大火) 銀座御堀端から築地にかけての41か町 旧会津藩邸より出火、各省官邸地、諸官員邸宅、諸公藩邸を多く焼失、死者8名、罹災者19.872名、全焼4.879戸座の大火) 富士見市 市域の堤防が破損。	'	9770	4		彻小	洪小				『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、 1987年)、495-497頁
1872 4 3 明治5 2 26 東京 火事 麹町区祝田町火災(銀 座の大火) 超速の構成が発生にかけての41か町 旧会津藩邸より出火、各省官邸地、諸官員邸宅、諸公藩邸を多く焼失、死者8名、罹災者19.872名、全焼4.879戸座の大火) 富士見市 市域の堤防が破損。 市域の堤防が破損。 下 はり、地域の堤防が破損。 下 はり、中域といる。 下 は、地域の地域の形成・大き、中域の状態に対して内臓器・南風に転じ、9時頃より風雨共漸々軽軟翌時、人畜の死傷、作物の損害、家屋の破損、山村の倒木及び海岸村々押汐にて堤防の損所等あり。 下 は、水 に、	2 4 2	田沙	5 2	26	抽本III	117 555	ターケ 公田 ナル	拯 掛那促 + 左公町	56百倍生	『横浜近代史総合年表』
1872 4 明治5 3 増充 3 単元 4 1872 8 1872 8 5 明治5 7 2 群馬 洗水 第十月月12日 3 第十月月日2日 3 第十月月日2日 3 第十月月日2日 3 第十月月日2日 3 第十月日2日 3 第十月月日2日 3 第十月日2日 3 第十月月日2日 3 第十月月日2日 3 第十月月日2日 3 第十月月日2日 3 第十月日2日 3 第十月日2日 3 第十月日2日 3 第十月日2日 3 第十月日2日 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3										『東京の消防百年の歩み』
1872 4 明治5 3 埼玉 洪水 富士見市 市域の堤防が破損。 1872 8 5 明治5 7 2 群馬 洪水 京士見市 市域の堤防が破損。 1872 8 5 明治5 7 2 群馬 洪水 「千葉県中西部(木更津) 「千葉県中西部(木更津) 「7月22日午後4時頃より南東風強く、猛雨相加り次第に烈しく7時過ぎ南風に転じ、9時頃より風雨共漸々軽軟翌時人番の死傷、作物の損害、家屋の破損、山村の倒木及び海岸村々押汐にて堤防の損所等あり。 1872 8 29 明治5 8 7 26 芝城県 火事 水戸城火災 水戸城 水戸城・地上の間に、9時頃より風雨共漸々軽軟翌時人番の死傷、作物の損害、家屋の破損、山村の倒木及び海岸村々押汐にて堤防の損所等あり。 1872 9 明治5 8 7 野馬 洪水 水戸城・地上の間に、9時頃より風雨共漸々軽軟翌時人番の死傷、作物の損害、家屋の破損、山村の倒木及び海岸村々押汐にて堤防の損所等あり。 1872 9 明治5 8 7 野馬 洪水 第日より大書雨、渡良瀬川一丈奈の増水、須永にて3名押し流される(山田郡) 1873 9 明治6 9 茨城県 洪水 常総市 黒風雨のため小谷沼排水路決壊 1873 3 2 明治6 「埼玉 火事 海軍 火事 横浜市 22日25時過ぎ、横浜相生町37目より出火、末広町1、37目、相生町2、3、47目、高砂町、尾上町各1、2、37目	- T U	91711	ا ۲	120	**	\^ \		数注呼鳴場の 5米地での 17 CO7418 mg	旧五年活みの「出人、日日日かん、田日央がし、田五田かとラ、ル人、ルロ・ロ、正人日10,02日、王ルバ,070	
1872 8 5 明治5 7 2 群馬 淡水	2 4	明治	5 3		快玉	进水	(A)	宣十目市	市域の場所が破損	『富士市市史』通史編 下巻
1872 8 25 明治5 7 22 千葉 暴風 千葉県中西部(木更津) 7月22日午後4時頃より南東風強公、猛雨相加り次第に烈しく7時過ぎ南風に転じ、9時頃より風雨共漸々軽軟翌明 人畜の死傷、作物の損害、家屋の破損、山村の倒木及び海岸村々押汐にて堤防の損所等あり。		明治	5 7					H 2 3.10	利根川辺流、古巻地方被害	『群馬県気象災害史』
「1872 8 29 明治5 7 26 茨城県 火事 水戸城火災 水戸城 水戸城 外屋 1872 9 9 明治5 8 7 26 茨城県 火事 水戸城火災 水戸城 水戸城 外屋 1872 9 9 明治5 8 7 26 茨城県 火事 水戸城火災 水戸城 1873 9 明治6 9 茨城県 洪水 常総市 暴風雨のため小谷沼排水路決壊 1873 2 15 明治6 埼玉 火事 鴻巣宿 夜の大火で宿の中心部が全焼。 1873 3 22 明治6 神奈川 火事 横浜市 22日25時過ぎ,横浜相生町37 日より出火、末広町1、37 目、相生町2、3、47 目、高砂町、尾上町各1、2、3 丁目						暴風		千葉県中西部(木更津)	7月22日午後4時頃より南東風強く、猛雨相加り次第に烈しく7時過ぎ南風に転じ、9時頃より風雨共漸々軽軟翌暁に至る。暴風雨にて村々の	『千葉県気象災害史』
1872 8 29 明治5 7 26 茨城県 火事 水戸城火災 水戸城 水戸城物見櫓以外すべて焼失 1872 9 9 明治5 8 7 群馬 洪水		1						1		
1872 9 明治5 8 7 群馬 洪水 8日より大雷雨、渡良瀬川一丈余の増水、須永にて3名押し流される(山田郡) 1873 9 〒明治6 9 茨城県 洪水 常総市 暴風雨のため小谷沼排水路決壊 1873 2 15 明治6 増充 火事 鴻巣宿 夜の大火で宿の中心部が全焼。 1873 3 122 明治6 一神奈川 火事 横浜市 22日22時過ぎ、横浜相生町3丁目より出火、末広町1、3丁目、相生町2、3、4丁目、高砂町、尾上町各1、2、3丁目	0 00	100 34	. 7	0.0	龙栅目	小車	*=#**	사 등 Ht		『茶は月中午ま』
1873 2 15 明治6	2 8 29	明治	5 /				小尸纵火火	小尸	小厂根物児信以介9 ^ C 沈大 のロト 十季雨 連り越川 エナマの増東 海シにて2夕 押 泣される 山田 押	『茨城県史年表』 『群馬県気象災害史』
1873 2 15 明治6	3 0 3	明治	6 0	+′-	好局 帯城目	进水		党经市		
1873 3 22 明治6 神奈川 火事 横浜市 22日22時過ぎ、横浜相生町3丁目より出火、末広町1,3丁目、相生町2,3,4丁目,高砂町、尾上町各1,2,3丁目	3 2 1=	明治	6							<u>『水海道市史』下巻</u> 『埼玉県行政史』1
17.77	3 3 22	田沙	6					横近市	129日22時過ぎ 構造相生町3丁目上り出火 末広町1 3丁目 相生町2 3 4丁日 喜砂町 屋上町冬1 9 3丁日 住吉町 営殿町1 9 3丁	『埼玉宗1] 政文』 『 神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部
	, 1º 1 ²²	²¹ /10'	~		1千水川	ハデ		DECKS 11		111 水川水入日町、日窓久日/3千枚2即
日、美沙可り1日、港町1、2月日で施大した。 放大ア駅1307下、 が九省1名、44よりの高か34かりた64まかめる。 新聞、様沃歴史年表)										
1873 3 22 明治6	3 3 22	明治	6	\vdash	神奈川	火災		横浜相牛町・港町		『横浜近代史総合年表』
1873 3 明治6 千葉 その他 干ばつ 千葉東節 上総国証射、山辺、長柄、3郡は3月より7月まで降雨甚稀なり。							于ばつ			『千葉県気象災害史』
1873 4 30 明治6 一 一千葉 暑風 一千葉県北西部(習志野) 明治天皇千葉県下下総国習志野に於て近衛兵の演習を御統監のをり4月30日夜中頃から暑風雨になる。	3 4 30	明治	6						明治天皇千葉県下下総国習志野に於て近衛兵の演習を御統監のをり4月30日夜中頃から暴風雨になる。	『千葉県気象災害史』
1873 夏 明治6 千葉 その他 干ばつ 千葉県東部(香取郡)	<u>₽</u>	一田治	6		千葉	その他	干ばつ		夏旱す。	『千葉県気象災害史』
1873 8 明治6 十葉 洪水 手賀沼周辺	3 8	明治	6		千葉	洪水		手賀沼周辺	利根川出水、六軒および木下前圦樋破堤。	『手賀沼周辺の水害』
1873 9 21 明治6 神奈川 豪雨 横浜市・久良岐郡 21日より23日にかけて暴風雨あり,横浜吉田町及久良岐郡中村等最も甚しく近傍の諸川の水嵩4,5尺を増してり	3 9 21	明治	6		神奈川	豪雨		横浜市·久良岐郡	21日より23日にかけて暴風雨あり、横浜吉田町及久良岐郡中村等最も甚しく近傍の諸川の水嵩4、5尺を増して地上に氾濫し、野毛、平沼両	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部
									川も決潰して附近の市街濁水横行し野毛山,石川,中村の山がけ崩壊し,人家54が倒壊し床上浸水の家屋900戸,死者6名。(横浜開港50	
									年史, 東京日々新聞, 横浜毎日新聞)	
	3 9 22	明治	6		神奈川	水害		横浜	床上浸水900戸・死者6人	『横浜近代史総合年表』
1873 9 22 明治6 神奈川 水害 横浜 床上浸水900戸・死者6人	3 9 22	明治	6		埼玉	洪水				『吹上町史』
1873 9 22 明治6 神奈川 水害 横浜 床上浸水900戸・死者6人 1873 9 22 明治6 埼玉 洪水 吹上町域 暴風雨で荒川が氾濫。		明治	6		千 華	洪水		千葉県北部(利根川)	利根川13尺出水。	『千葉県気象災害史』 『東京の消防百年の歩み』
1873 9 22 明治6 埼玉 洪水 吹上町域 暴風雨で荒川が氾濫。 1873 9 24 開治6	9 24				市市		神田区車福田町4火災	神田区東福田町	古紙卸業上 出火 全陸4,952百	『東京の消防百年の歩み』
1873 9 22 明治6 埼玉 浅水 吹上町域 暴風雨で荒川が氾濫。 1873 9 24 明治6 千葉 洪水 千葉県北部(利根川) 利根川13尺出水。 1873 12 9 明治6 東京 火事 神田区東福田町4火災 神田区東福田町 古紙卸業より出火。全焼4,952戸	3 9 <u>24</u> 3 12 9	明治	b	_ '	米不					1 X X 0 X 1 X 1 X 1 X 1 X 1 X 1 X 1 X 1
1873 9 121 開治6 埼玉 洪水 吹上町域 暴風雨で荒川が氾濫。 1873 9 24 開治6 千葉 洪水	9 <u>24</u> 3 12 9 4	明治	7		群馬	その他	日上水温口-17人人		12か村の麦穂巨雹に打ち砕かれ、92町余枯折し桑の芽も3分どおり凋落した(上毛新聞、東京日日新聞)	『群馬県気象災害史』
1873 9 22 明治6 埼玉 洪水 吹上町域 黒鳳雨で荒川が氾濫。 1873 9 24 明治6 千葉 洪水 千葉県北郎 (利根川) 月根川13尺出水。 月根川13尺出水。 1873 12 9 明治6 東京 火事 神田区東福田町4火災 神田区東福田町 古紙卸業より出火、全焼4,952戸 1874 明治7 野馬 その他 12か村の麦穂巨衢に打ち砕かれ、92町余枯折し桑の芽も3分どおり凋落した(上毛新聞、東京日日新聞) 1874 2 8 明治7 神奈川 火災 横浜・フランス病院	3 9 24 3 12 9 4 2 8	明治	7		群馬 神奈川	その他 火災	THE EXTENSION	横浜・フランス病院	12か村の麦穂巨雹に打ち砕かれ、92町余枯折し桑の芽も3分どおり凋落した(上毛新聞、東京日日新聞)	『群馬県気象災害史』 『横浜近代史総合年表』
1873 9 22 明治6 埼玉 洪水 吹上町域 暴風雨で荒川が氾濫。 1873 9 24 明治6 千葉 洪水 千葉県北部(利根川) 利根川13尺出水。 1873 12 9 明治6 東京 火事 神田区東福田町4火災 神田区東福田町 古紙野より出火、全焼4,952戸 12か村の麦穂巨雹に打ち砕かれ、92町余枯折し桑の芽も3分どおり凋落した(上毛新聞、東京日日新聞)	3 9 24 3 12 9 4 2 8 4 3 9	明治 明治 明治	7 7		<u>群馬</u> 神奈川 埼玉	その他 火災 火事		横浜・フランス病院 羽生町	12か村の麦穂巨雹に打ち砕かれ、92町余枯折し桑の芽も3分どおり凋落した(上毛新聞、東京日日新聞) 全焼17戸。	『群馬県気象災害史』

1874		明治7		茨城県	火事		鉾田町	大火、74戸焼失	『鉾田町史』通史編・下巻
1874	4 5	明治7		栃木	火事		田中の医王寺	ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期な	『近代足利市史』第一巻、966~968頁
1874	7 1	0 明治7		神奈川	暴風雨		横浜石川町	ため、火災が拡大 崖崩れ・33個倒壊・死者2人	『横浜近代史総合年表』
1874		明治7		埼玉	火事		越ケ谷宿	<u> 年間にで30回台域で元省2〜</u> 未明に発生した火災が折からの烈風で延焼。近隣2村を含む広範囲が焼失。	『埼玉県警察史』1、『埼玉県行政史』1.
1071		3374		20,32	7		2700	The state of the s	『越谷市史』通史編2
1874		明治7		栃木	洪水		村上村	旗川の堤防決壊	『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245
1875		明治8		神奈川	暴風雨		横浜		『横浜近代史総合年表』
		明治8		神奈川	火災		横浜元町・諏訪町	506戸焼失	『横浜近代史総合年表』
	2	明治8		埼玉	<u> 火事</u>		所沢	51戸と土蔵物置32焼失。	『所沢市史』通史編下
1875 1875	3 3	明治8		千葉	火事		木更津 橘樹郡各村	3月3日木更津村74番宅居住齊藤三之助外180件焼失。 鶴見川·早渕川流域	<u>『千葉県気象災害史』</u> 『横浜近代史総合年表』
		0 明治8		<u>神奈川</u> 群馬	<u>水害</u> 洪水		(商物布)	開発 1 大の	『群馬県気象災害史』
1875	0 1	0 明治8		東京	豪雨		- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	暴風雨による。寺方村では大栗川出水、土砂崩発生。落合村では土砂崩れにより4名死亡、全半壊7軒。	『特別展 災害と多摩』
1875	11	明治8		栃木	洪水				『宇都宮市史』近・現代編Ⅱ(宇都宮市、 1981年)、290-294頁
1875		2 明治8		東京	火事	浅草区新吉原江戸町1- 25火災	町、京町1,2丁目、伏見町、角町	貸座敷業より出火、吉原遊郭の大部分が焼失、全焼406戸、焼損面積20,358平方メートル	『東京の消防百年の歩み』
1875	12 1	3 明治8		栃木	火事		旧御陣屋	ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期なため、火災が拡大	『近代足利市史』第一巻、966~968頁
1875	\vdash	明治8	\vdash	栃木	洪水	+	下羽田村	渡良瀬川の堤防決壊	『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245 『近代日刊末中『第一巻 1450-1462頁
1875 1875	\vdash	明治8 明治8	\vdash	栃木	洪水	+			<u>『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁</u> 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、
1075		97/00		7////N	WT/N				1987年)、495-497頁
1875		明治8		千葉	洪水		手賀沼周辺	リンドウらにより低水工事起工。	『手賀沼周辺の水害』
1876	3 1	1 明治9		栃木	火事		足利市三丁目	ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期な	『近代足利市史』第一巻、966~968頁
1876	3 1	3 明治9		神奈川	水害	+	横浜桜木町	ため、火災が拡大 倒壊21棟・81戸	『横浜近代史総合年表』
1876	9 1	4 明治9		山梨	洪水		荒川流域、桂川流域、富士川流域、釜無川 流域、笛吹川流域	9月14日より降雨、16日暴風となる。荒川・桂川・富士川・釜無川・笛吹川が増水となる。死者7人。流失家屋83戸、堤防決潰676箇所(延長2 万2111間)。	『山梨県水害史』
1876	9 1	7 明治9 7 明治9		群馬	洪水			大風、大水(糸之瀬村) 9月17日利根川13尺出水。	『群馬県気象災害史』
1876	9 1	7 明治9		千葉	洪水		千葉県北部(利根川)	9月17日利根川13尺出水。	『干葉県気象災害史』
		8 明治9		埼玉	洪水		埼玉県内	豪雨により権現堂川など各河川が決壊。	『埼玉県行政史』1、
		8 明治9		栃木	火事	***************************************	**************************************	同日早上川山山、人体の7章 体保工等の0.70元十十 1 H	<u>『日光市史』下巻(日光市、1977年)、412</u>
		明治9	_	東京 埼玉	火事 火事	神田区神田三河3-3火	神田区神田三河 越ケ谷大沢宿	風呂屋より出火、全焼687戸、焼損面積26,070平方メートル 大沢宿は火災により壊滅的打撃を受ける。	<u>『東京の消防百年の歩み』</u> 『埼玉県行政史』1、
	秋	明治9		千葉	火事		木更津	秋木更津博徒通通称神徳の市(今松川楼のある所)より発火、仲町、田面通に延焼し50余戸を焼き払いたり。	『千葉県気象災害史』
1876	11 2	9 明治9		東京	火事	日本橋区数寄屋町2火	不文序 日本橋区数寄屋町近傍79か町	15/15/2/Fifted 通過が下版シロトライル 18/2 ション カルタース 15/15/15/15/15/15/15/15/15/15/15/15/15/1	『東京の消防百年の歩み』
						災(数寄屋橋の大火)			
1877 1877	1 2	2 明治10 0 明治10		埼玉 埼玉	火事		本庄宿	宿内の寺から出火し延焼。	『埼玉県行政史』1、
	2 2	8 明治10		神奈川	火事 火災		深谷宿 横浜霞町2丁目	農家からの出火が延焼し、深谷宿と隣村の西島村が焼ける。 200戸焼失	<u>『埼玉県行政史』1、</u> 『横浜近代史総合年表』
		7 明治10		神奈川	火災	元町大火	横浜元町	[230万族失	『横浜近代史総合年表』
		8 明治10		神奈川	火災	7647777	横浜弁天通	140戸焼失	『横浜近代史総合年表』
1877	4 2	9 明治10		東京	火事	神田区神田花岡1火災	神田区神田花岡	火除地繰入形興業場より出火、全焼490戸、焼損面積16,761平方メートル	『東京の消防百年の歩み』
1877	6 1	1 明治10		神奈川	暴風雨		横浜港		『横浜近代史総合年表』
1877	7 2	6 明治10		神奈川	洪水		平塚市	明治十年七月二十六日の夜から二十七日朝にかけての強風と降り続ける雨による被害が生じた。 金目川に合流する市域を縦横に走っている賭川の「水害表書上」を見ると被害の大きさがよく分かる。丸島村では二七日の真夜中には水 位が六尺(一・八m)増え水に浸かった田畑は、およそ二八町歩(約二七・七ha)を数えていた。堤の切れた所は、延べ九間三尺(約一七・一 m)で決壊した箇所が五か所で延べ一〇間(約一八m)であった。また、玉川・鈴川・谷川の流れている豊田本郷村、平等寺村・小槇村・宮下村では二七日の午前七時には水位は平常時より九尺(約二・七m)の高さに達し、水浸しになった水田が二三町六反歩(約二三・三ha)、畑が三二町九反六畝歩(約三二・七ha)に達していた。さらに、下島村・打間木村では谷川・玉川が溢れ二七日の午前九時は、平水より八尺(約二・四m)水嵩が増し、水を冠った水田が八町三反六畝歩(約八・三ha)畑が五町二反六畝歩(約五・一ha)となっていた。	『平塚市史10 通史編 近代・現代』第一 編第四章第二節『治水・水利の取決め』
1877	7 2	6 明治10		神奈川	暴風雨		横浜港		『横浜近代史総合年表』
1877	7 2	6 明治10		群馬	洪水 洪水	+	Nh ft 44 307	大風、大水、橋落(糸之瀬村)	『群馬県気象災害史』
1877	8 2	6 明治10 1 明治10		神奈川	洪水		津久井郡	関の川氾濫し,右岸の崖崩れにより倉庫1,家屋の破損流失各1,床下浸水20戸,死者1(津久井郡勢誌) 80戸焼失	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部
		1 明治10		神奈川	火災 暴風		神奈川駅伊豆町 横浜市	801 11日暴風あり横浜市内被害多し,長者町,不老町,福富町は取りわけ甚だ多く,河岸の倉庫,瓦斯燈など破損多し,突風ありて小舟空中に 捲き上り大破、港内の艦船にも被害あり。死者2、傷者11、船の破損数隻,風による倒壊物件多し。埼玉、栃木,千葉県内もこの風でかなりの	『横浜近代史総合年表』 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部
				1	1			死傷者ありたり。(東京日々新聞)	
1877	10 1	1 明治10	\vdash	埼玉	洪水	+	埼玉県内	詳細不明	『埼玉県行政史』1、
1878 1878	3 9	明治11 7 明治11		埼玉 東京	火事	神田区神田黒門町5火	<u>久喜町</u> 神田区神田黒門町	強風で火災が延焼。 大学 5 4 グラネック - 全体5 190万 - 体場 (5 5 5 5 5 5 5 5	『久喜市史』通史編下
1878	3 2	7 明治11 2 明治11		埼玉	火事 火事	17日内で17日末门町3火	大宮郷	住宅より出火、死者2名、全焼5.120戸、焼損面積153.816平方メートル 塵芥捨て場から出た火災が人家に延焼。	<u>『東京の消防百年の歩み』</u> 『埼玉県警察史』1、『埼玉県行政史』1、
1878	3 2	7 明治11		埼玉	火事	1		産打造と考がう山に大火が大水に産死。 詳細不明	『埼玉県行政史』1、
		9 明治11		群馬	その他		伊香保	・ 保後の時である。 一後の時である。 大学でなる。 大学でなる。	『群馬県気象災害史』
1878	8	明治11	_	茨城県	蝗被害	+	 行方郡潮来村		『茨城県史年表』
		明治11	\vdash	群馬	洪水	+	11/J和P(H)(本T)	種の人里先生と展す物の多人な板音(11)万和畑上支引 碓氷峠坂本駅などで豪雨のため山崩れ多く往来止めとなる(郵便報知)	『群馬県気象災害史』
1878	9 1	0 明治11		群馬	洪水			塩パースケッパのことを向いたの国内からとは木上のことの(型に私用)	『群馬県気象災害史』
1878	9 1	4 明治11		茨城県	洪水 豪雨		伊奈町	大雨で谷井田村内の田畑冠水	『伊奈町近代·現代史年表』
1878	9 1	4 明治11		神奈川	豪雨		橘樹郡	14日払暁より暴風雨となり15日に及び16日各河川の増水氾濫により各地で被害あり。15日橘樹郡様、網島辺は夥しく出水、川崎辺は大郷川 の水溢れ田畑の浸水多し、四等巡査1名流され行方不明。程ヶ谷在の芝生村では山崩れあり死傷者あるも不詳。16日未明六郷橋、鶴見橋 同時流失。同日馬入川満水近傍の人家流失溺死3名、酒句橋も落つ、県内八王子近在も14日からの風雨にて河川出水、山崩れにて家潰れ しもの数戸、死者あり傷者あれど不詳、橋落ち交通社絶えたり。16日早朝鶴見蒲田辺鉄路水没17日夕刻まで鉄道不通となる。(東京日々新	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部

1878	9 1	4 明治11]	東京	洪水	明治11年水害	荏原、南葛飾、北豊島4郡および下谷、浅 草、山谷など下町一帯	暴風により多摩川、荒川、綾瀬川が増水	『東京の消防百年の歩み』
1878	9 1	5 明治11		茨城県	洪水		鉾田町	台風により増水、田畑水没	
		5 明治1		次观乐 神奈川	暴風雨		神奈川県	日風により恒水、田州水及	『様浜近伏山松今年末』
1878	0 1	5 明治11		埼玉	洪水		富士見市	六郷川氾濫 利根川・荒川などが決壊。	『横浜近代史総合年表』 『富士市市史』通史編 下巻
		5 明治11		東京	洪水		大栗川、多摩川流域	170日 1700-1700-1700-1700-1700-1700-1700 1700	『特別展 災害と多摩』
1878	9	明治11	1	埼玉	洪水		浦和市·東松山市	元川 <u>村曾水</u> 已出水。都幾川が氾濫。	『浦和市史』通史編皿『東松山市史』
1878		明治11		神奈川	火災		神奈川西ノ町	400戸焼失	『横浜近代史総合年表』
1878	1'2 '	明治11	1	埼玉	火事		能谷町	市内「大津屋」から出火し付近を類焼。	『熊谷市史』後篇
1879	-	明治12		群馬	洪水		JR U PJ	暴風雨(薄根村)	『群馬県気象災害史』
	1 1	2 明治12		神奈川	火災	元町大火	横浜元町	3860011 (AP IN I) / (255 Pikk +)	『横浜近代史総合年表』
1879		明治12		神奈川	火災	儿叫人人	横浜相生町6丁目	2607) 	『横浜近代史総合年表』
1879	3 9	明治12					<u> </u>	10户娱天	『拼派派化由公会在書』
				神奈川	地震		++um=+	000 = 14 #	『横浜近代史総合年表』
1879		6 明治12 6 明治12		<u>神奈川</u> 東京	火災 火事	日本橋箔屋町16火災	<u>神奈川駅青木町</u> 日本橋箔屋町	300戸焼失 左官職より出火、死者24名、負傷者84名、全焼10,613戸、焼損面積2244,972平方メートル	『横浜近代史総合年表』 『東京の消防百年の歩み』
1879 ~80	Ħ	明治12	1	栃木	その他	(日本橋の大火) 鉱毒	渡良瀬川	鉱毒により、漁獲量減少	『近代足利市史』第一巻、1428頁
		~13							
1880	1 3	0 明治13		神奈川	火事		横須賀市	明治一三年に起きた長井村の大火は、塵芥(ごみ)捨て場の不審火が火元であったため、同村では罹災者や関係者、戸長が連名で「常に火 気取締所に無之海辺芥捨場より発火候趣に付、全怪火と奉存候」と、所管する横須賀警察署三崎分署宛てに届け出て、警察の検視活動が 行われた(資 I -633)。	『新横須賀市史 通史編 近現代』第六 章第二節『軍港の形成と災害・救援』
1880	1 3	0 明治13	1	神奈川	火災		三浦郡長井村	全焼232戸	『横須賀市史』
1880	2 3	明治13		東京	火事	日本橋区橘町4-5火災	日本橋区橘町	住宅より出火、全焼1,776戸、焼損面積50,600平方メートル	『東京の消防百年の歩み』
1880	2 2	2 明治13		神奈川	地震	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	横浜地方	The state of the s	『横浜近代史総合年表』
	2 2	明治13		埼玉	火事		所沢	66棟全焼。	『所沢市史』通史編下
		明治13		神奈川	火災		横浜伊勢佐木町・吉田町		『横浜近代史総合年表』
		6 明治13		神奈川	火災	1	横浜翁町2丁目	70戸焼失	『横浜近代史総合年表』
1880	10 11	明治13		群馬	洪水		1	70万族大 福岡村戸沢橋流出(山田郡)	『群馬県気象災害史』
1000		97/10		4+ #19	从 八			暴風雨(薄根村) 渡良瀬川氾濫	[作
1880	7 2	3 明治13	1	神奈川	火災		横浜石川町4丁目	石油置場海岸	『横浜近代史総合年表』
1880	7 2	5 明治13		神奈川	火災		2003-2002-2003	石油積載船火災	『横浜近代史総合年表』
		明治13		神奈川	豪雨		横浜市	3日夜から風雨強まり4日未明最も烈しく同日6時頃より天気回復す。崖崩れ6箇所、堤防壊落2箇所、潰家大破共130戸、日本船小船50隻中	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部
								破、死者2名 横浜大岡川続きの地出水、本町, 辨天町浸水4日朝まで家屋の床上浸水続く。万代町, 扇町, 松蔭町潰家多し。 福富町, 長者町, 若葉町は雨水泓溢し床上3尺余を浸せり県下各郡の下線暴涨。関の川氾濫床上浸水10戸。 (横浜開港50年史, 東京日々新聞, 摘要類函, 津久井郡勢誌)	
1880	10 3	明治13		埼玉	暴風		吹上町域	樹木や鳥居が倒壊、寺院1大破。	『吹上町史』
		明治13		千葉	高潮	暴風	<u>千葉県中北部</u>	10月3日大風あり(香取郡)。10月3日暴風の為海嘯を起こし家屋の破損流失するもの多し。4名溺死(市原郡八幡町)。	『千葉県気象災害史』
	10 4	明治13	1	神奈川	暴風雨		横浜	崖崩れ6ヵ所、堤防崩壊2ヵ所、倒壊大破139戸、死者2人	『横浜近代史総合年表』
1880	11 9	227 m · · ·		栃木	火事		織姫神社	ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期なため、火災が拡大	『近代足利市史』第一巻、966~968頁
1880	11 1	6 明治13	1	神奈川	火災		生麦村		『横浜近代史総合年表』
1880	12 9	明治13	1	神奈川 栃木	火事	池北屋火事	足利町一丁目、二丁目、昌平町、横町、東町	ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期なため、火災が拡大	『近代足利市史』第一巻、966~968頁
1880	12 1	0 明治13	1	神奈川	火災		南仲通4丁目	第二国立銀行等200戸焼失	『横浜近代史総合年表』
1880	12 1	8 明治13		神奈川	火災		吉田町		『横浜近代史総合年表』
1880	12 2	1 明治13		神奈川	火災		前田橋通居留地	200戸焼失	『横浜近代史総合年表』
1880	112 2	8 明治13		神奈川	火災		横浜福富町・伊勢佐木町	250万族失	『横浜近代史総合年表』
		0 明治13		東京	少 事	神田区鍛冶町35火災	神田区鍛冶町	位宅より出火、全焼7.751戸、焼損面積82.830平方メートル	『東京の消防百年の歩み』
1880	1.213	明治13		栃木	火事 洪水	11.四户数/11.00人义	渡良瀬川	E 50-121/(12/1/11) / (1/1/11) / (1/1/11) / (1/1/11)	『宇都宮市史』近・現代編Ⅱ(宇都宮市、 1981年)、290-294頁
1880	+	明治13	1	栃木	洪水		高山村	渡良瀬川の堤防決壊	『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245
1881	+	明治14					D H	展長の選出の実践の大阪	
1881	1 2	6 明治14		<u>群馬</u> 東京	洪水 火事	神田区松枝町22火災	神田、日本橋、本所、深川の4区52か町	泰煕明\	<u>『群馬県気象災害史』</u> 『東京の消防百年の歩み』
1						(神田松枝町の大火)		町、吉川町から両国橋を越えて本所、深川に及んだ。罹災者36.542名、全焼10.637戸、焼損面積421.400平方メートル	
1881	1	明治14		千葉	火事	(神田松枝町の大火)	小見川	町、吉川町から両国橋を越えて本所、深川に及んだ。罹災者36.542名、全焼10.637戸、焼損面積421.400平方メートル 1月某日小見川新田町に火を発し156戸に延焼し西風烈しく黒部川を越えて小学校に及ぶ。	『千葉県気象災害史』
1881 1881	1 2 1	明治14	= = = = = = = = = = = = = = = = = = = =	<u>千葉</u> 東京	火事	(神田松枝町の大火) 神田区柳町1火災	小見川 神田区柳町	町、吉川町から両国橋を越えて本所、深川に及んだ。罹災者38.542名、全焼10.637戸、焼損面積421.400平方メートル 1月某日小見川新田町に火を発し156戸に延挽し西風烈しく黒部川を越えて小学校に及ぶ。 野総禁 全格7.751戸、蜂植而積291.482平方メートル	『千葉県気象災害史』 『東京の消防百年の歩み』
1881 1881	1 2 1	明治14		千葉 東京 東京	火事	神田区柳町1火災	小見川 神田区柳町 四谷区箪笥町	1月某日小見川新田町に火を発し156戸に延焼し西風烈しく黒部川を越えて小学校に及ぶ。 髪結業、全焼7,751戸、焼損面積291,482平方メートル	『東京の消防百年の歩み』
1881	2 2	1 明治14]	東京	火事 火事	神田区柳町1火災	四谷区箪笥町	町、吉川町から両国橋を越えて本所、深川に及んだ、罹災者38.542名、全焼10.837戸、焼損面積421.400平方メートル 1月某日小見川新田町に火を発し156戸に延焼し西風烈しく黒部川を越えて小学校に及ぶ。 髪結業、全焼7,751戸、焼損面積291.482平方メートル 住宅より出火、全焼1.499戸、焼損面積67.218平方メートル	『東京の消防百年の歩み』 『東京の消防百年の歩み』
1881 1881	2 2	1 明治14 9 明治14	1	東 <u>京</u> 神奈川	<u>火事</u> 火事 火災	神田区柳町1火災四谷区箪笥町22火災	四谷区箪笥町 子安村	1月某日小見川新田町に火を発し156戸に延焼し西風烈しく黒部川を越えて小学校に及ぶ。 髪結業、全焼7,751戸、焼損面積291,482平方メートル 住宅より出火、全焼1,499戸、焼損面積67,218平方メートル	『東京の消防百年の歩み』 『東京の消防百年の歩み』 『横浜近代史総合年表』
1881 1881 1881	2 2 4 2 4	1 明治14 9 明治14 明治14	1	<u>東京</u> 神奈川 茨城県	<u>火事</u> 火事 火災 火事	神田区柳町1火災	四谷区箪笥町 子安村 笠間市	1月某日小見川新田町に火を発し156戸に延焼し西風烈レく黒部川を越えて小学校に及ぶ。 髪結業、全境7.751戸、鉄通面積29.1482平方メートル 住宅より出火、全焼1.499戸、焼損面積67.218平方メートル 笠間小学校が火事で焼失	『東京の消防百年の歩み』 『東京の消防百年の歩み』 『横浜近代史総合年表』 『笠間市史』下巻
1881 1881	2 2 4 2 4	1 明治14 9 明治14	1	東 <u>京</u> 神奈川	<u>火事</u> 火事 火災	神田区柳町1火災四谷区箪笥町22火災	四谷区箪笥町 子安村	1月某日小見川新田町に火を発し156戸に延焼し西風烈しく黒部川を越えて小学校に及ぶ。 髪結業、全焼7,751戸、焼損面積291,482平方メートル 住宅より出火、全焼1,499戸、焼損面積67,218平方メートル	『東京の消防百年の歩み』 『東京の消防百年の歩み』 『東京の消防百年の歩み』 『横浜近代史総合年表』 『笠間市史』下巻 『横浜近代史総合年表』 『横浜近代史総合年表』 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、
1881 1881 1881	2 2 4 2 4	1 明治14 9 明治14 明治14 明治14	1	東京 神奈川 茨城県 神奈川	火事 火災 火事 暴風	神田区柳町1火災四谷区箪笥町22火災	四谷区箪笥町 子安村 笠間市	1月 其 日 小 見川新田町に火を発し156戸に 延焼し西風烈しく黒部川を越えて小学校に及ぶ。 髪結業、全焼7.751戸、焼損面積291.482平方メートル 住宅より出火、全焼1.499戸、焼損面積67.218平方メートル 笠間小学校が火事で焼失 家屋倒壊	『東京の消防百年の歩み』 『東京の消防百年の歩み』 『横浜近代史総合年表』 『空間市史』下巻 『横浜近代史総合年表』 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁 『八玉に太市史』編中編収(今市市。2005
1881 1881 1881 1881 1881	2 2 4 2 4 5 7	1 明治14 9 明治14 明治14 明治14 明治14 明治15	1 1 1	東 <u>京</u> 神奈川 茨城県 神奈木 栃木	火事 火災 火事 暴風 洪水 火事	神田区柳町1火災四谷区箪笥町22火災	四谷区筆笥町 子安村 笠間市 末吉町・長者町	1月某日小見川新田町に火を発し156戸に延焼し西風烈レく黒部川を越えて小学校に及ぶ。 髪結業、全境/7.751戸、残積面積29.1482平方メートル 住宅より出火、全境1.499戸、焼損面積67.218平方メートル 笠間小学校が火事で焼失 家屋倒壊	『東京の消防百年の歩み』 『東京の消防百年の歩み』 『横浜近代史総合年表』 『笠間市史』下巻 『横浜近代史総合年表』 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁 『いまいち市史』通史編『(今市市、2005年)、447-449頁
1881 1881 1881 1881 1881 1882	2 2 4 2 4 5 7	1 明治14 9 明治14 明治14 明治14 明治14 明治15 明治15	1	東京 神 神 京 宗 川 神 病 木 木 木 木 木 一 ボ 奈 木 一 ボ ・ 大 大 一 大 一 大 一 大 一 大 一 大 一 大 一 大 一 大 一	火事 火事 火災 共水 火災 火災	神田区柳町1火災四谷区箪笥町22火災	四谷区箪笥町 子安村 笠間市 末吉町・長者町 本町通50番	1月 其 日 小 見川新田町 に火を発し156戸 に 延焼	『東京の消防百年の歩み』 『東京の消防百年の歩み』 『横浜近代史総合年表』 『強間市史』下巻 『横浜近代史総合年表』 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁 『いまいち市史』通史編V(今市市、2005 年)、447-449頁 横浜近代史総合年表』
1881 1881 1881 1881 1881 1882 1884	2 2 4 2 5 7	1 明治14 9 明治14 明治14 明治14 明治14 明治15 明治15 9 明治17 5 明治15	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京 神 京 京 川 京 京 京 京 京 村 栃 木 木 木 京 奈 奈 木 木 二 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川	火事 火事 火事 農 火 大	神田区柳町1火災 四谷区箪笥町22火災 笠間小学校火災	四谷区筆笥町 子安村 笠間市 末吉町・長者町 本町通50番 真砂町	1月某日小見川新田町に火を発し156戸に延焼し西風烈しく黒部川を越えて小学校に及ぶ。 髪結業、全境7.751戸、焼損面積29.1482平方メートル 住宅より出火、全焼1.499戸、焼損面積67.218平方メートル 笠間小学校が火事で焼失 家屋倒壊 倉庫焼失 137戸焼生	『東京の消防百年の歩み』 『東京の消防百年の歩み』 『横浜近代史総合年表』 『笠間市史』下巻 『横浜近代史総合年表』 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁 『いまいち市史』通史編V(今市市、2005年)、447-449頁 『横浜近代史総合年表』 『横浜近代史総合年表』
1881 1881 1881 1881 1881 1882 1884 1882 1882	2 2 4 2 4 5 7 1 1 2 1 2 2 2 3 1 1	1 明治14 9 明治14 明治14 明治14 明治14 明治15 9 明治17 5 明治15 7 明治15	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京 神 東京 京 京 京 京 京 京 ボ ボ ホ ホ ホ 奈 奈 京 京 奈 京 京 京 京 京 京 京 京 京 京 京 京 京	火火火火 東事災 東事災 東東 火火火 火火災	神田区柳町1火災 四谷区華笥町22火災 笠間小学校火災 大久野焼け	四谷区箪笥町 子空村 空間市 末吉町・長者町 本町通50番 真砂町 大久野村、平井村	1月某日小見川新田町に火を発し156戸に延焼し西風烈以(黒部川を越えて小学校に及ぶ。 壁結業・全境,7751戸、銭積面積291名8平方メートル 住宅より出火、全境1,499戸、焼積面積67,218平方メートル 笠間小学校が火事で焼失 家屋倒壊 倉庫焼失 137戸焼失 大久野村字幸神より出火があったが、おりしもの暴風により平井村まで延焼した。焼失民家210軒、焼失寺社11。	『東京の消防百年の歩み』 『東京の消防百年の歩み』 『横浜近代史総合年表』 『徳間市史』下巻 『横浜近代史総合年表』 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁 『いまいち市史』通史編V(今市市、2005年)、447-449頁 『横浜近代史総合年表』 『横浜近代史総合年表』 『横浜近代史総合年表』
1881 1881 1881 1881 1881 1882 1882 1882	2 2 4 2 4 5 7 1 1 2 1 2 2 2 3 1 1	1 明治14 9 明治14 明治14 明治14 明治15 9 明治15 9 明治15 9 明治15 9 明治15 明治15 明治15	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東神茨神栃 栃 神神東東京 川県川 川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川	火火事 火火事 火災事 暴洪 火火火 火火火火 火火火火	神田区柳町1火災 四谷区華笥町22火災 笠間小学校火災 大久野焼け	四谷区箪笥町 子安村 笠間市 末吉町・長者町 本町通50番 真砂町 大久野村、平井村 神田区美土代町	1月 其 1 小 見川新田町 に火を発し156戸 に 延焼 し西風烈しく黒部川を越えて小学校に及ぶ。 髪結業、全焼7.751戸、焼積面積29.1482平方メートル 笠間小学校が火事で焼失 家屋倒壊 倉庫焼失 137戸焼失 大久野村字幸神より出火があったが、おりしもの暴風により平井村まで延焼した。焼失民家210軒、焼失寺社11。 住宅より出火、全焼44戸、焼積面積10.342平方メートル	『東京の消防百年の歩み』 『東京の消防百年の歩み』 『横浜近代史総合年表』 『笠間市史』下巻 『横浜近代史総合年表』 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁 『いまいち市史』通史編V(今市市、2005年)、447-449頁 『横浜近代史総合年表』 『横浜近代史総合年表』
1881 1881 1881 1881 1882 1882 1882 1882	2 2 4 2 4 5 7 1 1 2 2 1 2 2 3 1 5 8 5	1 明治14 9 明治14 明治14 明治14 明治14 明治15 9 明治15 7 明治15 明治15 明治15	1	東神茨神栃 栃 神神東東埼 京	<u>火火火火暴洪</u> 火 <u>火火火火</u> 事事災事風水 事 災災災事の 変災災事の	神田区柳町1火災 四谷区華笥町22火災 笠間小学校火災 大久野焼け	四容区筆笥町 子安村 笠間市 末吉町・長者町 本町通50番 真砂町 大久野村、平井村 神田区美工代町 東松山市	1月某日小見川新田町に火を発し156戸に延焼し西風烈しく黒部川を越えて小学校に及ぶ。 髪結業、全境7.751戸、残損面積291.482平方メートル 住宅より出火、全焼1.499戸、焼損面積67.218平方メートル 笠間小学校が火事で焼失 家屋倒壊 倉庫焼失 137戸焼失 大久野村字幸神より出火があったが、おりしもの暴風により平井村まで延焼した。焼失民家210軒、焼失寺社11。 住宅より出火、全焼441戸、焼損面積10.342平方メートル 降電により異性物に被害。	『東京の消防百年の歩み』 『東京の消防百年の歩み』 『横浜近代史総合年表』 『笠間市史』下巻 『横浜近代史総合年表』 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁 『いまいち市史』通史編収(今市市、2005年)、447-449頁 『横浜近代史総合年表』 『横浜近代史総合年表』 『担の出町史』通史編下巻 『東京の消防百年の歩み』
1881 1881 1881 1881 1882 1882 1882 1882	2 2 4 2 4 5 7 1 2 1 2 2 3 1 5 8 5 6 4	1 明治14 9 明治14 明治14 明治14 明治15 9 明治15 7 明治15 明治15 明治15 明治15	4	東神茨神栃 栃 神神東東埼茨京 無端 木 奈奈京京玉城 川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川	<u>火火火火暴洪</u> 火 <u>火火火火</u> 事事災事風水 事 災災災事の 変災災事の	神田区柳町1火災 四谷区華笥町22火災 笠間小学校火災 大久野焼け	四谷区箪笥町 子安村 笠間市 末吉町・長者町 本町通50番 真砂町 大久野村、平井村 神田区美土代町	1月 呈 1 小 見川新田町に火を発し156戸に 延焼し西風烈しく黒部川を越えて小学校に及ぶ。 髪結業 全境7.751戸、焼損面積291名82平方メートル 住宅より出火、全境1499戸、焼損面積67.218平方メートル 笠間小学校が火事で焼失 家屋倒壊 倉庫焼失 137戸焼失 大久野村字幸神より出火があったが、おりしもの暴風により平井村まで延焼した。焼失民家210軒、焼失寺社11。 住宅より出火、全焼441戸、焼損面積10.342平方メートル 降窓により農作物に被害。	『東京の消防百年の歩み』 『東京の消防百年の歩み』 『横浜近代史総合年表』 『強間市史』下巻 『横浜近代史総合年表』 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁 『いまいち市史』通史編『(今市市、2005年)、447-491頁 『横浜近代史総合年表』 『横浜近代史総合年表』 『横浜近代史総合年表』 『田の出町史』通史編下巻 『東京の消防百年の歩み』 『伊奈町近代・現代史年表』
1881 1881 1881 1881 1882 1882 1882 1882	2 2 4 2 4 5 7 1 2 1 2 2 3 1 5 8 5 6 4 9 2	1 明治14 9 明治14 明治14 明治14 明治15 9 明治15 7 明治15 明治15 明治15 明治15 明治15	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東神茨神栃 栃 神神東東埼茨山原京 宗 無人 一	火 火 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大<	神田区柳町1火災 四谷区華笥町22火災 笠間小学校火災 大久野焼け	四容区筆笥町 子安村 笠間市 末吉町・長者町 本町通50番 真砂町 大久野村、平井村 神田区美土代町 東土代町 東奈町	1月某日小見川新田町に火を発し156戸に延焼し西風烈しく黒部川を越えて小学校に及ぶ。 疑結業、全様7.751戸、残積面積29.1482平方メートル 住宅より出火、全焼1.499戸、焼損面積67.218平方メートル 笠間小学校が火事で焼失 家屋倒壊 倉庫焼失 137戸焼失 大久野村字幸神より出火があったが、おりしもの暴風により平井村まで延焼した。焼失民家210軒、焼失寺社11。 住宅より出火、全焼41戸、焼損面積10.342平方メートル 陸窓により厚性物に被害。 谷井田村で堰急破による稲作被害 9月29日より10月1日まで経雨。各河川出水。死者6人。家屋破損4411戸、堤防決潰4411箇所(延長3万825間)、道路流没309箇所(延長6万	『東京の消防百年の歩み』 『東京の消防百年の歩み』 『横浜近代史総合年表』 『笠間市史』下巻 「横浜近代史総合年表』 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁 『いまいち市史』通史編V(今市市、2005年)、447-449頁 『横浜近代史総合年表』 『横浜近代史総合年表』 『横浜近代史総合年表』 『横浜近代史総合年表』 『東京の消防百年の歩み』 『伊奈町近代・現代史年表』 『山梨県水書史』
1881 1881 1881 1881 1882 1882 1882 1882	2 2 4 2 4 5 7 1 2 1 2 2 2 3 1 5 8 5 6 4 9 2	1 明治14 9 明治14 明治14 明治14 明治15 9 明治15 7 明治15 明治15 明治15 明治15	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東神茨神栃 栃 神神東東埼茨京 無端 木 奈奈京京玉城 川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川	<u>火火火火暴洪</u> 火 <u>火火火火</u> 事事災事風水 事 災災災事の 変災災事の	神田区柳町1火災 四谷区華笥町22火災 笠間小学校火災 大久野焼け	四容区筆笥町 子安村 笠間市 末吉町・長者町 本町通50番 真砂町 大久野村、平井村 神田区美工代町 東松山市	1月某日小見川新田町に火を発し156戸に延焼し西風烈しく黒部川を越えて小学校に及ぶ。 髪結業、全境7.751戸、残損面積29.1482平方メートル 住宅より出火、全焼1.499戸、焼損面積67.218平方メートル 笠間小学校が火事で焼失 家屋倒壊 倉庫焼失 137戸焼失 大久野村字幸神より出火があったが、おりしもの暴風により平井村まで延焼した。焼失民家210軒、焼失寺社11。 住宅より出火、全焼441戸、焼損面積10.342平方メートル 降電により患作物に被害。 谷井田村で堰急破による稲作被害 9月29日より10月1日まで延雨。各河川出水。死者6人。家屋破損4411戸、堤防決潰4411箇所(延長3万825間)、道路流没309箇所(延長6万 1510間)。 福模川の沿岸各村が洗水に無関心であったわけではない。各村がそれぞれ出資し共同事業を計画した矢先の災害であった。被害が前回以 上の範囲に及んだのはいうまでもない。ようやく県も復旧費を支出して修復を急いだ。	『東京の消防百年の歩み』 『東京の消防百年の歩み』 『横浜近代史総合年表』 『強間市史』下巻 『横浜近代史総合年表』 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁 『いまいち市史』通史編『(今市市、2005年)、447-491頁 『横浜近代史総合年表』 『横浜近代史総合年表』 『横浜近代史総合年表』 『田の出町史』通史編下巻 『東京の消防百年の歩み』 『伊奈町近代・現代史年表』

		I==+/ . I I	I-v	Lanc I				
1882 10	2	明治15	群馬	洪水			赤谷川増水5尺、利根川増水7尺、田流出0.7反(桃野村)	『群馬県気象災害史』
1000 10	1.5	002645	- #		+	て 茶児 ル ま ☆ (子 下 20)	暴風雨(薄根村)	『工英唱与各似中山』
		明治15	千葉	暴風	+	千葉県北東部(香取郡)	10月15日本郡地方大風。	『千葉県気象災害史』
		明治15	千葉	洪水	+	千葉県北部(利根川)	10月29日利根川12尺5寸出水。	『千葉県気象災害史』
		明治16	神奈川	火災		横浜元町1丁目	145戸焼失	『横浜近代史総合年表』
1882 12 1882				火災	+	横浜		『横浜近代史総合年表』
1883 8		明治15	埼玉	洪水	+	名栗町域		『能公士由『後等
	25	明治16	埼玉	暴風	+	能谷市	暴風雨により農作物への被害甚大。9月27日にも同規模の暴風雨あり。 荒川が洪水。	『熊谷市史』後篇 『吹上町史』
1003 10	8	明治16	埼玉	洪水	+	吹上町域		
1883 11	9	明治16	神奈川	火事		横浜市	2時40分横浜元町1丁目31番地から出火, 折柄風強く延焼445戸消失6時鎮火, 負傷者3名。出火地は俗に谷戸台又はラシヤメン台と言う所。	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部
1000 44	-	BB2610	4+ -	1. =	+	-#	(東京日々新聞. 横浜歴史年表)	[] [] #
		明治16	埼玉	火事	-	不動岡村	62戸を焼失。	『羽生市史』下巻『加須市史』通史編
		明治16	千葉	火事		東金	12月18日午前1時東金止宿より出火し折からの南西の烈風にて新宿まで延焼す。焼失個数384、棟数2000余、郡役所、警察署共に灰燼に帰	十葉県気家災告史
1884 2	18	明治17	栃木	火事		横町	ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期な	『近代足利市史』第一巻、966~968頁
	٠		44.1-5.69			1	ため、火災が拡大	
1884 5	13	明治17	茨城県	火事		水戸市	1200戸余焼失	『茨城県史年表』
1884 7 1884 9	23	明治17	神奈川	火災 暴風雨		横浜扇町2丁目	39戸焼失	『横浜近代史総合年表』 『伊奈町近代・現代史年表』
1884 9	15	明治17	茨城県			伊奈町	大暴風雨により谷田部町の鳥名小学校が倒壊	
1884 9	15	明治17	神奈川	豪雨		横浜市	紀伊半島付近に上陸し、北東進し浜松から東京北部を通って東方海上に去った台風。 横浜で損害の基だしかったのは真金町、野毛町、戸部町、高島町、常磐町等で真金町遊郭で潰家多く野毛、戸部両町の官舎街破損するも の多し。太田、寿両小学校倒壊せり。潰家153戸、死者2名あり。相模川増水氾濫し家屋の倒壊、農作物の被害甚だしくこのため度を失うもの 多く、高座、愛甲、大住の3郡の暴民峰起する騒ぎあり。 横須賀全壊家屋180戸あり。 (横浜開港50年史、東京日々新聞、横須賀市史、厚木郷土史、戸塚郷土史)	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部
1884 9	15	明治17	神奈川	暴風		横浜市	横浜では台風がまだ海上にあった14日20時頃から雨が降りだし、台風が上陸した15日6時頃から次第に南東風が強まり、10時頃には急速に 強くなった。最も接近したと思われる14時から15時までに、横須賀では南東風から南南西風に変わり風雨ともに激しく16時には、南南西の風 82mile(約37m/s)を観測した。 雨による被害は僅少で風による被害が多かった。台風の接近した14時頃東京湾ではちょうど大潮日の満潮時にあったため横浜港は4~5尺 (12~1-5m)に達する高潮におそわれ、停泊中の外国船と日本総約1隻が接触破損、沈没、流失した。 県の被害表では死者10、負傷者41、行方不明2、住家の全壊1080戸、半壊2225戸など。 (横浜開港50年史、東京日々新聞、横須賀市史、厚木郷土史、戸塚郷土史)	『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部
1884 9	15	明治17	神奈川	暴風		茅ヶ崎市	洪水から二年後の十七年九月十五日、すさまじい台風に襲われ、県下の死傷者五一名、家屋全半壊三三〇〇戸に達した。このとき、当地の 堤学校(小出小学校の前身)校舎も倒壊し、このために以後は分散教育をせざるを得ない悲運に見舞われている。この台風のさまを高田の 水越家の記録は、「早朝から東南風が吹き荒れていたが、時間がたつにつれて荒狂い、昼からは真南に変わった。とたんに石のつぶてで打 つような雨が降り続いた。やがて風は西に変わったが、それとともに付近の樹木がぱたぱたと倒れ始め、家も傾くようであった」と、そのすさま じさを記している。相模川堤防は萩園の台河原で決壊し、村々の作物の九割が収穫不能となった。	『茅ヶ崎市史5概脱編』『近代の幕明け』 一3『政治と農村指導』
1884 9	15	明治17	神奈川	暴風雨		横浜	寿学校倒壞、死者4人	『横浜近代史総合年表』
1884 9	15	明治17		洪水		18/55	対する影響には 1975	『群馬県気象災害史』
1004 9	113	97/01/	4十 /19	从 小			赤谷川増木7尺、利根川増水7尺、田流出2.3反川除5か所(桃野村)	[] 作尚未以外交占义]
1884 9	15	明治17	東京	洪水	明治17年水害	日本橋、芝、麻布、深川、豊島区など	台風の連続襲来により荒川、隅田川などの河川が決議。死者19名、全壊家屋1,700戸、浸水家屋多数、9月15日~18日まで	『東京の消防百年の歩み』
		明治17	千葉		奶油17年水百	千葉県北部(利根川)	日本の建設を示してリルバ、阿山川はこの西川が次級、ルロ10日、主張水産1,000で、皮が水産シ茲、の月10日 110日本に 9月18日利根川15円出水。	『千葉県気象災害史』
1884 9		明治17	千葉	洪水	+	手賀沼周辺	9万10日では近からに出か。 台風、利根出水15尺5寸。	『千智の田川の北宇』
1884 10	15	明治17	埼玉	洪水 地震		不明	日風、竹依山水10人3寸。	『手賀沼周辺の水害』 『新編埼玉県史』別編4自然
		明治17	神奈川	火災		横浜伊勢佐木町1丁目	790戸焼失	『横浜近代史総合年表』
1884							790户犹太	
		明治17	栃木	暴風	暴風、雹	栃木県		『栃木県史通史編』第六巻、168-170頁
1885 3		明治18	東京	火事	日本橋区坂本町17火災		湯屋より出火、負傷者25名、全焼120戸、焼損面積51.183平方メートル	『東京の消防百年の歩み』
1885 3	14	明治18	栃木	火事		法玄寺	ローソン・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期な	『近代足利市史』第一巻、966~968頁
	+	BD 3 6	********		+	# + I	ため、火災が拡大	
1885 3	20	明治18	神奈川	暴風雨		生麦村	オセアニック号座礁	『横浜近代史総合年表』
1885 3	21	明治18	栃木	火事		山川町	ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期な	『近代足利市史』第一巻、966~968頁
H	+	1001/11	14		+	-c.va	ため、火災が拡大	
1885 3	+	明治18	埼玉	火事	+	所沢	62戸が全焼。	『所沢市史』通史編下
1885 3		明治18	栃木	火事	1			『宇都宮市史』近・現代編Ⅱ(宇都宮市、
1	+	1001/11	794 655	7 - 61	+	E IR with a month		1981年)、283-289頁
1885 4	6	明治18	群馬	その他	1	矢場川村、毛里田村	午後3時頃降電約7寸降る、麦皆無作、その他被害激甚(山田郡)	『群馬県気象災害史』
1885 5	17	明治18	埼玉	火事 その他 水害		杉戸町	タパコ屋からの出火が延焼し、杉戸宿ほとんどを焼失。 降電およそ1時間、1銭銅貨大積電約4.5寸大小麦、桑被害大(山田郡)	『杉戸町史』
	15	明治18	群馬	その他	+	矢場川村、毛里田村	阵色およて1時间、1銭銅貞ス積苞約4.5寸ス小麦、条被害ス(山出郡)	『群馬県気象災害史』
1885 6	1	明治18	神奈川	水害		1000	The Land Hall Control of the Control	『横浜近代史総合年表』
	30	明治18	神奈川	豪雨		横浜	伊勢山等崖崩れ続出	『横浜近代史総合年表』
1885 6	1	明治18	千葉	洪水	1	手賀沼周辺	下旬より連日降雨、利根川出水13尺。	『手質沿周辺の水害』
1885 7	1	明治18	神奈川	豪雨		相模・酒匂・多摩川流域	県内各地は29日以来の雨についで、1日~2日にかけて通った台風による大雨で、各河川の増水、出水が相次ぎ、洪水、山がけくずれ等による被害が増大した。 県内は1日払暁から強雨で、14時頃からは風も強まり夜半に至った。2日未明雨は止んだが風は2日夕刻まで強かった。 横浜付近では山くずれによる死傷者や、家屋の全壊が多く、各河川流域では橋梁の落下、焼失、堤防破損、氾濫による被害が多かった。 ことに相模、酒句、多摩川流域の被害が大きかった。 県の被害表では死者9、負傷者38、住家の全壊104戸、半壊6戸、山くずれ19ヵ所など。 (東京日々新聞)	『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部
\vdash	_	明治18	群馬	洪水	+		洪水(糸之瀬、薄根村)	『群馬県気象災害史』
1995 7	11		中一門	/六小			赤公川3尺、利根川4尺增水、川除7ヶ所大破損(桃野村)	付 -
1885 7	1	3,7010					27: ロフロット、 1:31以フロナト・ロア・フロテト・フロテト・フロテト・フロテト・フロテト・フロテト・フロテト・フロテト	
	1		工在	:# nk		工 世 但 小 市 邨 (- 16日下旬上り降雨運日 7日1日大周雨利規川洪水あり 3日神崎港向地先の堤防破壕」 北岸畑砂等の村落9357町全長の温宝なり 王涅地	『千華旦気象災宝中』
1885 7 1885 7	1	明治18	千葉	洪水		千葉県北東部(香取郡)	6月ト旬より降雨連日。7月1日大風雨利根川洪水あり。3日神崎橋向地先の堤防破壊し、北岸神砂等の村洛2357町余歩の浸害あり。十潟地	『千葉県気象災害史』
1885 7	1	明治18			田治18年水害		6月ト旬より降雨連日。7月1日大風雨利根川洪水あり。3日神崎橋向地先の堤防破壊し、北岸神砂等の村洛235/町余歩の浸害あり。十潟地 方の出水亦甚だしく大いに未穀を害す。	
1885 7 1885 7	1	明治18	東京	洪水	明治18年水害	千葉県北東部(香取郡) 東京府下	6月ト旬より降雨連日。7月1日大風雨利根川洪水あり。3日神崎橋向地先の堤防破壊し、北岸神砂等の村洛2357町余歩の浸害あり。十潟地	『東京の消防百年の歩み』
1885 7	1	明治18			明治18年水害 豪雨による		6月ト旬より降雨連日。7月1日大風雨利根川洪水あり。3日神崎橋向地先の堤防破壊し、北岸神砂等の村洛235/町余歩の浸害あり。十潟地 方の出水亦甚だしく大いに未穀を害す。	 『東京の消防百年の歩み』 『宇都宮市史』近・現代編Ⅱ(宇都宮市、
1885 7 1885 7	1 1 1	明治18	東京	洪水			6月ト旬より降雨連日。7月1日大風雨利根川洪水あり。3日神崎橋向地先の堤防破壊し、北岸神砂等の村洛235/町余歩の浸害あり。十潟地 方の出水亦甚だしく大いに未穀を害す。	『東京の消防百年の歩み』

1885 8	7	明治18		千葉	洪水		千葉県北東部(香取郡)	8月7日八筋川宇元洲地先の堤防破壊し14ヶ村耕地1716町を浸し防禦5昼夜にして漸く余勢を殺ぐを得たり。	『千葉県気象災害史』
1885 8	١ .	明治18		山梨	洪水			降雨による河川膨張。死傷者29人。家屋破損300戸、浸水2011戸、堤防決壊598箇所(延長1万5965間)、道路陥没461箇所(延長1万6667	『山梨県水害史』
1005	0 45	DD 1/140	\vdash	A-4- 111	8.8		144 VC VH -4-	間)、橋梁流出212箇所。	
1885 1	0 15	明治18		神奈川	暴風	-	横浜港内	15日午後から北寄りの強風吹く16日未明殊に強かったが同日昼頃止む。横浜港内解船1隻沈没, 死者1, 負傷数名。(東京日々新聞) 暴風雨で荒川が氾濫。	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部
1885 1 1885	0 16	明治18		埼玉 栃木	洪水 洪水		- 荒川流域	泰風雨で荒川が氾濫。	『吹上町史』『北埼玉郡史』 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、
1885		明治18		伽小	洪水				小山巾史 迪史編山近現代(小山巾、
1886 1	11	明治19	-	栃木	火事		山川町	ローソケ・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期な	1987年)、495-497頁 『近代足利市史』第一巻、966~968頁
1886	- ' ' '	明治19		伽小	火争		W / I W W W W W W W W W		近代定利印史』第一卷、900~908頁
1000	10	明治19		+=-	火事	+	助戸定年寺	ため、火災が拡大 ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期な	『近代足利市史』第一巻、966~968頁
1886 2	19	明治19		栃木	火争		助尸走车守	ローング・打りい使用、からかぎ・不遠の家屋、用防設幅の効性さに加え、1~3月は四北学即風(那須おうし、男体おうし)が吹ぎ、乾燥期なため、火災が拡大しため、火災が拡大	近代定利印史』第一卷、900~908頁
1886 3	12	明治19		栃木	火事		行道山浄因寺	「この、大火が加入 ローソケ・行打の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期な	『近代足利市史』第一巻、966~968頁
1000	' '3	1977019		机水	八争		1] 連川洋凶寸	ローングゴリソの使用、クランマ・不道の多屋、月辺改調の効性でに加え、「でき月は四北学却風、が凍むつし、芳体のつし/か咲き、乾燥剤なため、火災が拡大	□担1、足利印文』第一卷、900~900頁
1886 4		明治19		44.75.111	火災	+	杉田村	1260、火火が拡大	『横浜近代史総合年表』
1886 6	9	明治19		神奈川 千葉	その他	干ばつ	千葉県北東部(香取郡)	6月より降雨なく入野、清和、大寺、秋田、万カ、万歳、諸村被害尤も甚しく龜折の地2759町歩に及ぶ。	『千葉県気象災害史』
		明治19		神奈川	火事	TIAD	 工業県北東部(省取都) 	10万よ72年197は3、7.51、7.71、7.71、7.71、7.71、7.71、7.71、7.71	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部
1000	20	1977013		作示川	ヘサ			20日3時十9년後代11日前日 11日 11日 11日 11日 11日 11日 11日 11日 11	
								九台1句,原创队人。(米尔日代制团,使决定文件权)	
1886 9	20	明治19		神奈川	火災		横浜福富町3丁目	類焼5000戸	『横浜近代史総合年表』
1886 9	24	明治19		群馬	洪水			暴風、洪水(薄根村)	『群馬県気象災害史』
1887 1	2 19	明治20		東京	火事	日本橋区蛎殼町2-15火	日本橋区蛎殼町	中村座より出火、全焼886戸、焼損面積18.856平方メートル	『東京の消防百年の歩み』
1886 1	2 30	明治19		茨城県	火事	水戸大火	水戸市	1800戸余焼失	『茨城県史年表』
1887 1	15	明治20		埼玉	地震		不明		『新編埼玉県史』別編4自然
1887 2	1	明治20 明治20		神奈川	火災		横浜太田町2丁目	10戸焼失	『横浜近代史総合年表』
1887 3	28	明治20		茨城県	地震 火災 火事		鉾田町	大火、270戸焼失	『横浜近代史総合年表』 『鉾田町史』通史編·下巻
1887 3	29	明治20		千葉	火事		神崎	3月29日神崎町火を失し風力殊に甚しく数戸に延焼す。	『千葉県気象災害史』
		明治20		栃木	火事				『いまいち市史』通史編 V (今市市、2005
									年)、447-449頁
1887 4	4	明治20		埼玉	火事		庄和町	西宝珠花村の仙元横町から出火し、近隣へ延焼。	『庄和町之百年』
		明治20		群馬	洪水		相馬村、室田町	相馬村で雹害、被害大	『群馬県気象災害史』
"	1-1				1		[· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	洪水 (薄根村)	
1887 6	23	明治20		埼玉	豪雨		北・中葛飾郡	暴風雨により田畑への被害甚大。	『三郷市史』通史編Ⅱ
1887 6	1	明治20		埼玉	その他		秩父郡内	降電により農作物に被害	『新編埼玉県史』通史5
1887 8	16	明治20		神奈川	暴風		横浜港内	16日16時頃より突風吹き雨を交う17時半頃より風おさまる(寒冷前線による強風のごとし)。	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部
	.	////		1128711	3907.24		John St. 1	横浜港内における被害多し、小型客船および運送船の沈没6隻、大破24隻、負傷者数名あり。	THE STATE OF THE S
								(東京日々新聞, 横浜開港50年史)	
1007 0	10	BB 24.00		44 75 111			## 25 2#		『様にに仏中外へ左書』
1887 8	16	明治20		神奈川神奈川	暴風雨 火災	+	横浜港	船舶大破	『横浜近代史総合年表』
1887 1	1 13	明治20		神余川	火災	-	横浜元町2丁目	全燒101戸	『横浜近代史総合年表』
		明治20		神奈川	火災		居留地143番		『横浜近代史総合年表』
		明治20		神余川	1火災	1	居留地132番		『横浜近代史総合年表』
1887 1	2 5	明治20	\vdash	神奈川	火災 火事		横浜浪花町	吉田学校等57戸焼失	『横浜近代史総合年表』
1888 1	8	明治21		栃木	火事			栃木県庁舎消失。強風により被害拡大。	『栃木県の歴史』(山川出版社、1998
									年)、332頁、『宇都宮市史』近·現代 I
	_		\perp		L				(宇都宮市、1980年)、92頁
1888 1	16	明治21 明治21		千葉	火事	1	小見川	1月16日小見川村火災あり。西風烈しく120戸に延焼す。	『千葉県気象災害史』
1888 1	21	明治21		神奈川	火災 火災		横浜石川町3丁目	250戸焼失	『横浜近代史総合年表』
		明治21	\perp	神奈川	火災		横浜野毛町	全焼1120戸	『横浜近代史総合年表』
		明治21		埼玉	火事		芳野村	村内谷中で火災。	
		明治21		埼玉	火事		浦和宿	正午に発生した火災が折からの暴風で延焼。全市街の3分の2を焼失。	『埼玉県警察史』1『浦和市史』通史編Ⅲ
1888 3	19	明治21		栃木	火事		借宿	ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期な	『近代足利市史』第一巻、966~968頁
		1		- 1		1		ため、火災が拡大	
1888 5	22	明治21		東京	火事	神田区鍋町29火災	神田区鍋町	住宅より出火、全焼886戸、焼損面積18,856平方メートル	『東京の消防百年の歩み』
1888 5	144	明治21		栃木	火事	17年14年19月1日27人火	[1 구 나 4 2 일이번]	上で 2 / 田 / 、 王 / 近 (2 0 0 0) 「	『宇都宮市史』近・現代編Ⅱ(宇都宮市、
.000		21/021		1111	10.7				1981年)、283-289頁
1888 7	15	明治21		群馬	洪水	1	県南東部	新川氾濫、桐生川氾濫(山田郡)	『群馬県気象災害史』
.000 /	1'3	21/021		at my	///×		NII WHY	利川尼海、桐土川尼海(山山和) 渡良瀬川、桐生川氾濫	リカリルタハベかヘロス
1888 7	2/	明治21		千葉	洪水		千葉県北部(利根川)		『千葉県気象災害史』
		明治21		群馬	洪水		工業宗北部(村板川) 山田郡	7月29日付後7日ボリスト。 桐生川保井堤防流没、今泉辺流出、倒潰家屋12、大破10余、橋皆流出、耕宅地被害13町5反、山林崩壊数百か所(山田郡)	『群馬県気象災害史』
1888	123	田沙21	7	千葉	洪水	1	手賀沼周辺	砂土川は丁法町加及、フ水及加山、貯原多産12、入駅10ボ、筒自加山、粉モ地取音15両3及、山林防破数百か四(山田畑/ 利根出水15尺5寸。	『手賀沼周辺の水害』
1888 1	0 6	明治21 明治21 明治21 明治22	'	<u>十葉</u> 千葉	洪水	+	千葉県北部(利根川)	<u> </u>	『千葉県気象災害史』
1999 1	0 0	明治の	10	<u> </u>	洪水	+	十条宗北部(村依川) 手賀沼周辺	利根出水15尺5寸。	『千葉宗気家の音文』 『手賀沼周辺の水害』
1990	1	明治22	10	神奈川	火事	1	横須賀市	刊核四本「3/23」。 明治二年の大火は放火が原因で、強風のため火勢が増して湊町から汐留町、汐入町へと延焼し、元町の手前でようやく食い止めた。消火	 新横須賀市史 通史編 近現代』第六
1009	- ['	19770122		仲宗川	八爭		19.水臭巾	明治――平の人穴は放火が原因で、独風のため火勢が増して湊町からが笛町,汐入町へて延焼し、九町の手間でようべく良い止めた。 消火 に際しては、警察のほか鎮守府からも水兵が駆けつけている。水兵は鎮守府や海軍機関への延焼を防ぐために横須賀鎮守府から出動して	新恞須貝甲史 - 趙史編 - 近現代』第八 章第二節『軍港の形成と災害・救援』
		1		- 1		1		に感じては、音宗のはが繋ず所かられみが離けプリでいる。小米は繋ず所で海半線(A)へ処地が定的、ため、何泉東東ず所から山刻していたのであるが、住民にとっては、火災時における「本港の恩人」と呼ぶべき存在であった。一方、罹災者に対しては、避難所が設置され、戸	キャーロルギルのルルに火古・秋抜』
		1		- 1	1			いこのでの句が、住民に合うには、火火時における「本港の歌人」と呼ぶつき付在でのつだ。一方、権火者に入しては、避難所が設直され、戸長役場の職員などにより炊き出しが行われる一方、地域名望家から教恤金がせられ、権災者に分配されている。	
		1		- 1		1			
		1		- 1		1		「根深貝 C へ スパッテい 注田 い ー コ に、中 い 市 い へ 永 桐 公 て の ツ ・ 一 フ は 工 戻 で 一 フ は 本 海 区 に フ い は 生 来 下 ひ た の ご 人 文 時 の 月 切 心 到 が 込 著 で あ る と い う こ と が あ り 、そ こ か ら 横 須 寛 の 区 画 改 正 の 意 見 が し ば し ば を 場 し て い る (資 I ー 634)。	
		1		- 1	1			難 (めるという」とかめり、そこから横須貴の区間改正の恵見かしはしは登場している(資 1 −634)。 この大火の主な地域は横須賀湊町・汐入町・被害状況は全焼382戸とされている。	
								ーツハヘツエタ地域は快次具検明・グヘ明・彼古仏派は主然302PCでれたいる。	
	18	明治22		埼玉	地震		不明		『新編埼玉県史』別編4自然
1889 2	2	明治22		神奈川	火災		翁町3丁目	全焼72戸、半焼26戸	『横浜近代史総合年表』
1889 3		田半22		神奈川 埼玉	火事		浦和市	三室村で8戸全焼。	『横浜近代史総合年表』 『浦和市史』通史編Ⅲ
1889 3 1889 5	25			群馬	洪水			渡良瀬川借宿(栃木側)土手500間破壊(山田郡)	『群馬県気象災害史』
1889 3 1889 5	25	明治22	I I				I and the second	洪水(薄根村)	
1889 3 1889 5	25	明治22		AT My				洪小\海依判/	
1889 3 1889 5	25	明治22		ar my					
1889 3 1889 5 1889 7	25 15	明治22		茨城県	暴風雨		水戸市	渡良瀬川洪水	『茨城県史年表』
1889 3 1889 5 1889 7	25 15	明治22					 水戸市 三郷市・八潮市・羽生市		『茨城県史年表』 『三郷市史』通史編Ⅱ、『八潮市史』通史

1889	9 1	1 明治22		神奈川	豪雨		橘樹郡·愛甲郡·三浦郡	この台風による暴風雨では県内を流れる多摩川、相模川、酒匂川が増水し各河川の流域では堤防が決壊し、家屋の床上浸水、流失、田畑 の流失、埋没など河川沿いに被害をだしたほか山くずれ、がけくずれも少なくなかった。また強風により家屋の全半壊などの被害をだした。特 に被害が大きかったのは橋樹郡、愛甲郡、三浦郡などであった。また公共施設にもかなりの被害をだしており、出水により鉄軌道の損壊、風 による電線の切断などがあった。 県の被害表では死者1、負傷者3、住家の全壊40戸、半壊686戸、山くずれ8ヵ所など。	『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部
					l			(戸塚郷土史, 東京日々新聞)	
1889	9 1	1 明治22		神奈川	豪雨		海老名市	大暴風雨。相模川泓溢被害多シ。(萩原静夫『海老名村郷土年表』1984より作成)	『海老名市史8 通史編 近代·現代』
1889	9 1	1 明治22		神奈川	暴風雨		鶴見	<u>列車不通</u>	『横浜近代史総合年表』
1889	9 1	1 明治22		群馬	洪水			近年にない大風、大水(糸之瀬村) 横町大荒(利南村) 大暴風雨洪水(薄根村)	『群馬県気象災害史』
1889	9 1	1 明治22		東京	洪水	明治22年水害	東京府下	大 <u>級機関の大い、時間で</u> 台風により多摩川、荒川が決壊、床上浸水家屋128戸、家屋全壊166戸、家屋半壊89戸、家屋破損4,269戸、船舶破損流失23隻(東京市内)、 9月11日~12日まで	『東京の消防百年の歩み』
1889	9 2	3 明治22		栃木	火事				『いまいち市史』通史編V(今市市、2005年)、447-449頁
1889	9 3	0 明治22		群馬	洪水			洪水(薄根村)	『群馬県気象災害史』
1889		明治22		埼玉	洪水		富士見市		
1890		明治23		神奈川	火災		保土ヶ谷町字帷子山下	214戸焼失	『横浜近代史総合年表』
1890		7 明治23		東京	火事	浅草区三軒町24火災 (浅草の大火)	浅草区三軒町から寿町、新福富町、新猿屋 町、黒船町、駒形町	薪炭商より出火、死者1名、負傷者7名、全焼1,469戸、焼損面積34,205平方メートル	『東京の消防百年の歩み』
		2 明治23		千葉	火事		木更津	4月12日午後9時20分頃桜井村小泉卯之助方から発火し折からの北風にあおられ忽ち22戸を焼失して鎮火したと思う間もなく、今度木更津街仲片町松久酒店の裏長屋大塚銀蔵方から発火し各所に飛火し南片町、下谷町、弁天町、南町(西側のみ)、新田町、貝淵に延焼して漸く鎮し火した。焼失戸数479軒。	
		3 明治23		東京	火事	本郷区春木町2-9火災	本郷区春木町	焼豆腐より出火、負傷者16名、全焼914戸、焼損面積34,205平方メートル	『東京の消防百年の歩み』
		3 明治23		群馬	洪水			渡良瀬川新宿にて氾濫、岡登引入口欠潰、境野にて床上浸水2尺余(山田郡) 桐生市洪水	『群馬県気象災害史』
1890	8 2	明治23		神奈川	暴風雨		横浜港	船舶事故	『横浜近代史総合年表』
1890	8 7	明治23		茨城県	暴風雨		茨城県北部	那珂川・久慈川増水、県北各地に洪水被害	『茨城県史年表』
		3 明治23		茨城県	洪水		結城市	鬼怒川の大洪水(天明期以来)	『結城市史』第6巻·近現代通史編
1890	8 2	3 明治23		神奈川	暴風雨		鶴見川		『横浜近代史総合年表』
		3 明治23		群馬	洪水			渡良瀬川海老瀬村仲伊谷田にて50間破堤、同西谷田村除川にて165間破堤(邑楽郡) 大洪水(京ヶ島村、芳賀村、糸之瀬村、薄根村) 渡良瀬川氾濫	『群馬県気象災害史』
		3 明治23		埼玉	洪水		利根川·荒川流域	利根川と荒川の堤防が決壊	『新編埼玉県史』通史5、『新編埼玉県 史』別編4自然、『埼玉県行政史』1、『埼 玉県警察史』1
1890	8 2	3 明治23		埼玉	洪水		綾瀬川・古隅田川流域	岩槻一円が浸水。	『岩槻市史』通史編
1890	8 2	3 明治23		埼玉	その他	足尾鉱毒問題	利根川·荒川流域	洪水に伴い足尾銅山から流出した鉱毒が沿岸地域の農作物や自然に被害をもたらす。	『埼玉県行政史』1
1890	8 2	3 明治23		千葉	洪水		千葉県北部(利根川)	8月23日中利根川14尺出水。	『千葉県気象災害史』
1890		3 明治23		千葉	洪水		千葉県北部(利根川)	8月23日から利根川の水量が次第に増加、同日午後関宿逆川の堤防が決壊、中利根の東南一面が浸水、下利根川に合流、明治初年では 最大の水害。	『千葉県の歴史 通史編 近現代1』
		7 明治23		千葉	洪水		千葉県北部(利根川)	8月中旬より利根川出水し27日十六島被害す。	『千葉県気象災害史』
		0 明治23	_	神奈川	暴風雨		高島町5丁目	0.000 00.00 V.S. 0.00 + \$7.00 ** 7.00 ** 7.00 ** 1.00	『横浜近代史総合年表』
1890 1890	8	明治23	_	│千葉 │栃木	洪水	渡良瀬川大洪水、鉱毒	手賀沼周辺	8月20~23日台風、24日六軒圦樋破壊、手賀沼大洪水。 洪水による鉱毒被害	<u>『手賀沼周辺の水害』</u> 『栃木県農地改革史』(栃木県農務部、
1090	0	明治23		彻本	洪小	被害を併発	渡良瀬川沿岸	次小Iによる 連貫板古	1007年辰地改革文』(607年辰份市、 1954年)、9-19頁、『佐野市史』(佐野市、 1979年)、499頁、『小山市史』通史編Ⅲ 近現代(小山市、1987年)、495-497、509
		8 明治23		神奈川	暴風雨		横浜港	船舶事故	『横浜近代史総合年表』
		5 明治23		神奈川	火災		横浜老松町	尋常師範学校火災	『横浜近代史総合年表』
		0 明治23		神奈川	火事		横須賀町	30日3時30分横須賀町の浴場から出火、折柄北よりの強風で火勢四方へ延焼8時10分鎮火。全焼839戸、焼死8名、半焼8戸、負傷者8名。 (横須賀市史、東京日々新聞)	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部
1890	11 3	0 明治23		神奈川	火事		横須賀町	3時30分横須賀町浴場から出火, 折柄の北よりの季節風のため, 火勢は忽ち四方へ延焼, 横須賀の町全体に広がり焼き尽し, 8時10分鎮火した。 は害状況は全焼839戸, 半焼8戸, 焼死者8人, 負傷者8人。 ((横須賀市史, 東京日々新聞)	『神奈川県災害誌(自然災害)』大火の部
1890	12 1	5 明治23		神奈川	火災		横浜真砂町	(福度) 173、米ボロ(利用) 私立真的小学校火災、全焼16戸	『横浜近代史総合年表』
1890		明治23		栃木	洪水				『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁
		3 明治24		東京	火事	浅草区吉原町219火災	浅草区吉原町	住宅より出火、負傷者8名、全焼77戸、焼損面積13,940平方メートル	『東京の消防百年の歩み』
1891	2 2	1 明治24		神奈川	火災		横浜元町4丁目	全焼218戸	『横浜近代史総合年表』
1891	3 9	明治24		神奈川	火災		横浜元町5丁目	全焼45戸	『横浜近代史総合年表』
1891	5 2	0 明治24		埼玉	その他		八潮市域	水不足により田植えが不能に。	『八潮市史』通史編Ⅱ
1891	6 2	1 明治24		埼玉	洪水		羽生市	市域の堤防で多数欠所。	『羽生市史』下巻
1891	6	明治24	6	千葉	洪水	1	手賀沼周辺	六軒圦樋廃止、木下前圦樋を鉄扉コンクリート造に改造竣工。	『手賀沼周辺の水害』
	7	明治24	\vdash	群馬	洪水			渡良瀬川所々堤防破壊(山田郡)	『群馬県気象災害史』
		0 明治24	\vdash	神奈川	暴風雨	1	横浜港	TODROCHUM TYTTA 3 MODECCIUM TYTTA 3 / TAHA	『横浜近代史総合年表』
		0 明治24	\vdash	群馬	洪水	1	ndra L Market	田2町3反川欠及び石砂入、畑2町5反川欠及び石砂入(薄根)	『群馬県気象災害史』
1891 1891	10	0 明治24 明治24		埼玉 栃木	暴風 火事		吹上町域	暴風で家屋が倒壊。	<u>『吹上町史』</u> 『宇都宮市史』近·現代編Ⅱ(宇都宮市、 1981年)、283-289頁
1891	12 3	明治24		神奈川	火事		大磯町	3日1時頃東海道大磯町役場から出火、同役場は勿論、近接の地福寺および大住、陶綾郡役所、神奈川県直税分署に延焼これら建物は全部焼失、2時鎮火す。巡査2名負傷す。(東京日々新聞)	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部
1891 1892	12 2 1 2	4 明治24 0 明治25		山梨 神奈川	地震 火災		駿河、甲斐、相模国境付近 福富町1丁目	震央に近い地方では土地の小陥落道路の破壊等あり。 全焼56戸、半焼15戸	『山梨県の気象』 『横浜近代史総合年表』
1892	2 2	8 明治25		栃木	火事	辻豊の大火	井草、大門通、通一、二丁目、昌平町	ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期なため、火災が拡大	『近代足利市史』第一巻、966、1418頁
1892	2 2	9 明治25		東京	火事		調布町	放火により居宅37戸と「物置の類」20棟を焼失。	『調布市史』下

1000 10	lar	1001/105		1++	1.1.70		I	About UID Poor I I fall 19 p. 15 ooktobris.	
1892 2	29	明治25 明治25		東京神奈川	火災		接快和但上,公 时	放火により居宅37戸と「物置の類」20棟を焼失。	『調布市史』下
1892 3 1892 4	- 2	明治25		群馬	火災		橘樹郡保土ヶ谷町	65棟焼失 大洪水(利南村)	『横浜近代史総合年表』 『群馬県気象災害史』
1892 4	2	明治25		栃木	洪水 火事		雪輪町	ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期なため、火災が拡大	『近代足利市史』第一巻、966~968頁
1892 4	10	明治25		東京	火事	神田区猿楽町1火災(神	神田区猿楽町	飲食店より出火、死者24名、負傷者36名、全焼4,620戸、焼損面積149,206平方メートル	『東京の消防百年の歩み』
1892 5	15	5 明治25		群馬	洪水	田の大火)	碓氷峠	10日ごろより連日の雨のため、第16号トンネル東口の国道に接する崖の高さ15間巾20間が崩れ、そのため工事用丸太70本、煉瓦7000個が谷へ落ち、工事の宿泊所1棟全壊、3棟半壊、4人圧死、3人負傷(時事新報)	『群馬県気象災害史』
1000 -	_	DD:// 05		- *	M		式加速		ET to TET O J. E.
1892 5 1892 6	-	明治25 明治25		<u>千葉</u> 埼玉	洪水		手賀沼周辺 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	5月下旬、手賀沼洪水。	『手賀沼周辺の水害』 『新編埼玉県史』別編4自然
1892 6	3	7 明治25		神奈川	地震 火災		横浜富士見町2丁目	焼失83戸	『横浜近代史総合年表』
	25	3 明治25		埼玉	洪水		江戸川流域	洗水により八木郷村と江戸川東岸の飛び地(松戸市)に被害。	『三郷市史』通史編Ⅱ
1892 7	23	明治25		山梨	洪水		笛吹川流域、釜無川流域、桂川流域	7月22日より降雨あり23日も激しく続き、各河川出水する。死者6人。家屋破損560戸、浸水4905戸、堤防決壊183箇所(延長5933間)、道路流 歿1538箇所(延長7万187間)、橋梁流破1215箇所。	『山梨県水害史』
892 7	24	4 明治25		群馬	洪水		群馬郡	暴風雨により、白川、井野川、烏川が氾濫、床上浸水22戸、田畑流出13町、土砂流入19町、冠水50町(長野村) 大風雨諸川氾濫、農作物の損害、家屋の流出、道路橋梁の破壊多く、白川殊に甚し(京ヶ島村)	『群馬県気象災害史』
1892 8	24	4 明治25		千葉	洪水		千葉県北部(利根川)	8月24日利根川13尺出水。	『千葉県気象災害史』
892 9		明治25 明治25		茨城県	暴風雨		北浦沿岸	19日以来の降雨にて北浦沿岸の田に浸水、殊に早稲の被害甚大	『茨城県史年表』
				神奈川	火災		横浜元町1丁目	98戸	『横浜近代史総合年表』
892 12	2 28	8 明治25		<u>千葉</u>	火事		佐原	12月28日佐原町協橋近傍より出火し北西風の烈しきに会し小野川を越え諸町に延焼す。戸数大約700余戸本郡未曾有の大火なり。	『千葉県気象災害史』
892	1	明治25		埼玉	洪水		北足立郡	U Million of A fine for the	『北足立郡誌』
893 3	117	7 明治26	\vdash	埼玉	火事		川越町	川越町の中央部を焼失。	『埼玉県警察史』1
		明治26	\vdash	埼玉	火事	吹帚	羽生市	67棟全境。 4月95日秋之仁霊悠久 日本五公(小豆士)	『羽生市史』下巻 『工帝目信象巛宇中』
893 4 893 5		<u>明治26</u> 明治26		<u>千葉</u> 埼玉	その他	降雹	<u>銚子</u> 埼玉県内	4月25日銚子に電降る。目方五分(小豆大)。 県下全域で霜害が発生、県西部を中心に農業被害甚大。	『千葉県気象災害史』 『新編埼玉県史』通史5、『埼玉県行政
000	ľ	777620		N T	(0)		N 2 N 1	N. L. W. CHELO JOLL NEIDE CONTRACTOR	史』1、
893 6	4	明治26		神奈川	火災		居留地	スミス・ベイカー商会出火	『横浜近代史総合年表』
	1 18	3 明治26		東京	火災		下布田	下布田より出火して、全焼13戸・半焼2戸の被害を出した。	『調布市史』下
	2	明治27	\vdash	神奈川	火災		永楽町遊郭	貸座敷7戸·一般家屋43戸焼失	『横浜近代史総合年表』
394 5		明治27		神奈川	その他	干ばつ	海老名市	1894年の干ばつは、五月初めから七月十日まで降雨が全く無く「植田出来ス栗蒔等モー切出来ス・・・隆(薩)摩芋植付不格候」と「旱魃記載証」に記されており、農家にとって深刻な状況をもたらした(『市史4』資料88)。	『海老名市史8 通史編 近代・現代』
894 6		7 明治27		神奈川	火事		横浜市	17日13時20分頃、横浜元町5丁目の谷の湯(石川)より出火、南寄りの風に煽られ、見る間に火炎は四方に広がり、元町5丁目から4丁目、3 丁目、石川仲町1丁目へ燃え移り、なお石川町全域を焼き尽す勢であった。17時すぎ鎮火したが、この付近は貧民多く、罹災者のため、一時 元町学校が教済所となった。 被害状況は全焼1064戸、半焼46戸、重傷者10余人。 (横浜開港50年史、東京日々新聞、横浜歴史年表)	『神奈川県災害誌(自然災害)』大火の名
		7 明治27			火災		横浜元町5丁目	全焼1064戸	『横浜近代史総合年表』
1894 6	20	0 明治27		神奈川	地震	東京地震(M7.0)	横浜市・橋樹郡	明治27年6月20日14時4分発震。震失東京付近、最大震康6(烈震)、横浜・川崎も烈震、そのほか県内各地震度5(強震)M73(注・メモ参照) 神奈川県内では東部の沿岸地方が最も強く横浜、橋樹郡の沿岸部に被害最も多く、その他の地方は強震ではあったが被害は軽散であっ た。横浜では初期の震動で入々は発んど外へ飛び出したと言われ、瓦の墜落。硝子窓の破損、土蔵のぐずれ、水道鉄管の破裂などがあった。居留地246番地の茶焙屋敷の屋根、煉瓦が落下崩壊し死者3、重傷者7、軽傷者17人を出した。また川崎大師河原の国昌寺の石垣(高さ 9尺、長さ30間)が前線し、小学校帰りの生徒3人が下敷となり即死した惨事があった。 (東京地震観測,東京日々新聞,横浜歴史年表)	『神奈川県災害誌(自然災害)』地震の音
		明治27			地震		横浜·川崎	20日14時4分頃関東南部を中心に強震あり震度6 県下横浜・川崎地区で被害あり死者6人傷者26人 屋根・煙突等の破損50ヶ所あり、安政江戸地震以来の烈震という。 (審査予防評議会編東京地震観測,横浜歴史年表,東京日々新聞)	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部
894 6	20	明治27		神奈川	地震	東国地震	神奈川県	明治に入っては明治二十四年十月濃尾大地震の後三年,二十七年六月二十日に東国の地に地震が起こった他は、この地方に著しい地震 はなかった。	『神奈川県史概説下巻』
894 6	20	明治27		埼玉	地震		埼玉県南部	川口・鳩ケ谷で家屋等破損、鴻巣・川口・越谷で砂泥噴出。飯能で山崩れ。	『新編埼玉県史』別編4自然
894 6	20	明治27	\vdash	東京	地震	明治27年地震	東京、神奈川、埼玉	マグニチュード7.5、明治期最大の地震、本所、深川、築地、日本橋区を中心に被害が生じる、死者24名、負傷者171名、全半壊4,968戸	『東京の消防百年の歩み』
894 7	_	明治27	\vdash	千葉	その他	干ばつ	銚子	7月早書あり。7月8日より28日まで修水なし。	『千葉県気象災害史』
) 明治27	\vdash	群馬	洪水	1	県内各地	洪水(芳賀村)、暴風雨(薄根村)、渡良瀬川海老瀬村仲伊谷田にて55間破堤(邑楽郡)	<u>『群馬県気象災害史』</u> 『総和町史』通史編 近代·現代、『古河
894 8	11	1 明治27		茨城県	洪水		古賀町周辺	伊賀袋・悪戸新田など渡良瀬川堤防が決壊、古河で浸水家屋400戸、流失家屋7戸、潰家5戸	総和可更』通史編 近代・現代、 百河 市史』通史編
894 8	11	2 明治27		埼玉	洪水		幸 手市	暴風雨により江戸川の堤が決壊、幸手や下流の庄和町・春日部市域も浸水。	『幸手市史』诵史編Ⅱ
894 8	112	2 明治27		千葉	洪水		千葉県北部(利根川)	<u> </u>	『幸手市史』通史編 II 『千葉県気象災害史』
894 8		明治27		主葉	洪水		手賀沼周辺	利根川洪水、富勢村堤防決壞。	『手賀沼周辺の水害』
	0 7	明治27		埼玉	地震		不明		『新編埼玉県史』別編4自然
894 12		3 明治27		神奈川	火災		横浜尾上町1丁目	全燒65戸	『横浜近代史総合年表』
894	\perp	明治27	\vdash	栃木	洪水		/		『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁
894		明治27		栃木	洪水				『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、 1987年)、495-497頁
894		明治27		栃木	その他	台風			『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、 1987年)、499頁
1895 1	15	8 明治28	\vdash	茨城県	地震		茨城県	午後10時57分茨城県地域に烈震、死傷者・家屋の倒壊多数	『茨城県史年表』
		8 明治28		埼玉	地震		元荒川	「後10時以7人の状況では15点後、70勝日 多年の国家を数	『新編埼玉県史』別編4自然
895 1		明治28		神奈川	火災		横浜千代崎町	全族7月	『横浜近代史総合年表』
	19	1,1/H=0		群馬	洪水			連日の大雨にて大洪水となり、田幸より氾濫し、中田地をおよそ深さ4.5尺に流れる、家屋流失5戸(川田村)	『群馬県気象災害史』
895 5	11	1 明治28					1# \r	電信不通	『横浜近代史総合年表』
895 5 895 6 896 7	24	1 明治28 4 明治29		神奈川	暴風雨		横浜		
895 5 895 6 896 7 895 8	11 24	4 明治29 明治28		神奈川	暴風雨 洪水		千葉県北部(利根川)	8月9日利根川17尺出水。	『千葉県気象災害史』
1895 6 1896 7 1895 8 1895 8	11 24 9	4 明治29 明治28 明治28		神奈川	暴風雨 洪水 洪水		千葉県北部(利根川) 手賀沼周辺	8月9日利根川17尺出水。 利根川出水17尺。	『千葉県気象災害史』 『手賀沼周辺の水害』
1895 5 1895 6 1896 7 1895 8 1895 8 1895 1	9 0 13	4 明治29 明治28		神奈川	暴風雨 洪水	大津町大火	千葉県北部(利根川)	8月9日利根川17尺出水。	『千葉県気象災害史』

_						1			
1895	12 7	明治28	茨	城県	津波		太平洋沿岸地域	太平洋沿岸地域に津波襲来、被害甚大、「六十年来の大津嘯」	『茨城県史年表』、『鉾田町史』通史編・ 下巻ほか
1895	12 12	2 明治28	東	京	火事	芝区金杉3-10火災	芝区金杉	薬種商より出火、負傷者6名、全焼876戸、焼損面積21,757平方メートル	『東京の消防百年の歩み』
1895		明治28	栃	木	その他	台風			『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、
1896	4 10	0 明治29	東	京	火事	浅草区浅草公演地六区	浅草区浅草公演地六区	製物小屋より出火、負傷者15名、全焼186戸、焼損面積33,797平方メートル	1987年)、499頁 『東京の消防百年の歩み』
					7.7	4-1火災			
1896		4 明治29			その他	雹(ひょう)	海老名市	5月24日大二電ブ降ラス。上今泉・柏ヶ谷農作物ノ被害殊ニ甚シク惨状ヲ極ム。(萩原静夫『海老名村郷土年表』1984より作成)	『海老名市史8 通史編 近代·現代』
1896 1896	7 2	明治29	析		津波 洪水	三陸地方大海嘯	利根郡	 大水、鷲石橋落、戸鹿野橋破損(利南村)	『足利市史』上巻、1088頁 『群馬県気象災害史』
1.000	-	7,,,,,,	"	,9	,,,,,		1.3 DCMb	利根、赤谷川大洪水、月夜野橋流出、田畑流出12町、溺死1(桃野村)	
								大水(糸之瀬村、薄根村)	
		1 明治29	栃		洪水				『近代足利市史』第一巻、1438頁
1896 1896	7 2	2 明治29 明治29	 T T		洪水 洪水		<u>千葉県北西部(利根川・江戸川)</u> 手賀沼周辺	7月22日利根川、利根運河河口28尺、富勢地先14尺出水、江戸川関宿地先16尺から26尺、利根運河28尺から60尺出水。 利根川出水。	『千葉県気象災害史』 『手賀沼周辺の水害』
1896	7	明治29	埼		洪水		埼玉県内	「大田田小」 江戸川流域で洪水が発生。鉱毒が流域に流れ込む。	『埼玉県行政史』1、『吉川市史』通史編
			1						2、『騎西町史』通史編
1896	8 19	9 明治29	群	馬	洪水		利根郡	村内の各河川沿線全部流出(川田村) 洪水(薄根村)	『群馬県気象災害史』
1896	9 4	明治29	神	奈川	豪雨		相模川·酒匂川·他	(本外・)が(本代) 本州中部に前線停滞し低気圧も前線上を通過し、中部地方を中心に各地に大雨を降らした。県内相模川、酒匂川筋増水のため、堤防切れ	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部
			1 1		2011.2			多数あり、川背川、川音川筋も堤防切れあり、松田、国府津間汽車止る。酒匂橋、煉瓦橋破損す、死者1、流失家屋3戸。(東京日々新聞)	
1896	9 8	明治29	群	E	洪水		県内全域	 渡良瀬川一本木地先堤防全部流出(山田郡)	『群馬県気象災害史』
1000	ľľ	917020	1 1	,g	,,(,)(X111-3	大風雨、大洪水(京ヶ島村)	
								7日~11日連日大風雨、諸川大増水、近年にない暴威をふるい被害甚大(中川村)	
								11日西谷田村離麦生にて64間破堤、同村除川稲荷穴にて75間破堤、同村西岡神明西にて127間破堤、同村海老瀬村小橋土入にて20間破 堤、溺死5人、家屋流出16戸、家屋全壊76戸、半壊168戸、床上浸水2959戸、床下浸水809戸、その他被害大(邑楽郡)	
								近来稀有的大洪水	
		BB 16	100	_	NII. I.	At + 14 m + 17 %	Andreado Salver Corres Cala		
1896	9 8	明治29	栃	不	洪水	鉱毒被害を併発	渡良瀬川沿岸	鉱毒被害	『栃木県史通史編』第六巻、422-426頁、 『近代足利市史』第一巻、1438頁
1896	9 9	明治29	Ŧ	葉	洪水		手賀沼周辺	9日台風、利根川大洪水、青山地先の堤防決壊(青山決壊はあるいは39年か)	『手賀沼周辺の水害』
1896	9 10	0 明治29	千		洪水		千葉県北部(利根川)	9日台 <u>風、利根川大洪水、青山地先の堤防決壊(青山決壊はあるいは39年か)</u> 9月10日利根運河31尺出水。霖雨9月11日利根川出水し沿岸諸町村を浸し、金江津、十三間戸区の堤防を破壊し人家を流し田圃を害し推し	『千葉県気象災害史』
								て常陸国に及ぼす。秋霖雨利根川出水堤防を破壊し人家を流し田圃を害す。	
1896	9 1	1 明治29			洪水		小貝川·下利根川流域	大水書 三度の台風により多摩川、荒川、中川などが決壊、罹災者44,000余名、浸水家屋9.300戸、9月11日~17日まで 江戸川と渡良瀬川が各地で破堤し、東京まで流水。	『牛久市史』近現代Ⅱ
1896 1896	9 1	1 明治29 2 明治29	東	京 エ	洪水 洪水	明治29年水害	東京府下 埼玉県内	二度の台風により多摩川、売川、中川などが決壊、権災者44,000余名、浸水家屋9,300戸、9月11日~17日まで プロルト連自器 Jがな地でが埋し、車点まで添せ	<u>『東京の消防百年の歩み』</u> 『吉川市史』通史編2、『三郷市史』通史
1896	9 12	2 明治29	山山		洪水		金無川流域	(ムアリアは後の東が続き河川増水する。7月21日に富士見村など浸水。豪雨により諸川出水。洪水は9月8日より12日にわたる。死者33人。流	
				.				失破損家屋500余戸、浸水家屋4792戸、堤防欠潰392箇所(延長8655間)、道路流没2445箇所(延長12万493間)。	
1896		明治29	栃	木	洪水	鉱毒被害を併発			『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、
1896	\vdash	明治29	析	*	洪水				1987年)、495-497、512頁 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁
1897	1 1	7 明治30	埼		地震		利根川流域	利根川流域で岸壁に亀裂。	『新編埼玉県史』別編4自然
1897	4 2	2 明治30	東		火事		八王子町	大横町より出火、折しもの強風により妙楽寺へ飛び火。死者42名、焼失3100余戸。	『特別展 災害と多摩』
1897 1897	8 12 9 8	2 明治32 明治30			<u>火災</u> 暴風	雲井町大火	横浜雲井町 横浜市・久良岐郡・愛甲郡・中郡・足柄上郡・	 県内では台風が四国沖に達した8日夕刻頃から雨が降り始め、夜に入り次第に風雨ともに強まり9日2時すぎには南々東風がさらに強まって	<u>『横浜近代史総合年表』</u> 『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部
1097	9 0	97/030	1 ⁴ P	宗川	茶風		三浦郡		作示川东及吉沁(日然及吉) 古風の印
								時頃から天気は急速に回復した。台風の中心が県の北部を通ったため風が強く、県北西部の山沿い地方では短時間に150mm以上の雨が	
								降ったため各河川の増水が目立ったが浸水等による被害は少なく、強風による被害が多かった。 県の被害表では死者3、家屋の全壊25、がけくずれ10など。	
								宗の被害後では死者3、家産の主張25、かりくすれいなど。 (神奈川県測候所特別報告、東京日々新聞、戸塚郷土史)	
1897		明治30		奈川			海老名市	大暴風雨.家屋ノ破壊農作物ノ被害甚大ナリ。(萩原静夫『海老名村郷土年表』1984より作成)	『海老名市史8 通史編 近代·現代』
1897 1897	9 0	明治30	群		暴風雨 洪水	台風			『横浜近代史総合年表』 『群馬県気象災害史』
1897	9 9	明治30 明治30	千	葉	洪水		千葉県北部(利根川)	渡良瀬川出水14尺余、八斗島堤防破壊20間余、他にも被害あり(毎日新聞) 9月9日利根川8尺出水。	『千葉県気象災害史』
1897	9 30	0 明治30	神	奈川	暴風雨				『横浜近代史総合年表』
1896 1897		2 明治30			火災 火災		横浜 横浜停車場	千歳座	『横浜近代史総合年表』 『横浜近代史総合年表』
1897	12 2	明治30	析		洪水		[BT WWA	『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、
				·					1987年)、495-497頁
1898	3 2	3 明治31	東		火事	本郷区春木町2-55火災 (本郷の大火)	本	漬物商より出火、死者2名、負傷者42名、全焼1,478戸、焼損面積43,567平方メートル	『東京の消防百年の歩み』
1898	5 2	2 明治31	山山	梨	火災	(オ・カルマノス)	明見村	養蚕用の火鉢が紙帳に燃え移り、折からの強風にあおられる。焼失家屋43戸。	『富士吉田市史』資料編第三巻現代
		明治31			洪水		足柄上郡・同下郡・中郡・高座郡	この大雨で県内各河川は何れも出水氾濫し,各地で被害が出た。しかし風による被害は,殆どなかった。	『神奈川県災害誌(自然災害)』低気圧の
								足柄上、下両郡は降水量300mm以上となり、中野、厚木は200mm以上となった。 そのほかの地方でも150~2000mmの降雨があった。このため被害の大きかった地方は足柄上郡、同下郡、中郡、高座郡であった。	部
								てのはかの地グ、でも130~2000mmの内内内がかった。このため歌音の人をかった地方はた他上部、同下部、中部、画座部であった。 県の被害表では死者10,負傷者5,住家の全域14戸、半域6戸、堤防決壊45所、山くずれ835所など。	
								(測候所特別報告, 東京日々新聞)	
1898	6	明治31	7	葉	洪水		手賀沼周辺	66・8・9月、度重なる出水、9月7日我孫子堤防決壊、布川破堤。	『手賀沼周辺の水害』
1898		明治31	千	葉	洪水		千葉県北東部(香取郡)	6・8・9月、度重なる出水、9月7日我孫子堤防決壊、布川破堤。 7月中旬大雨しばしば降り利根川洪水、金江津の堤防を破壊し十六島及び常陸地方を浸す。	『千葉県気象災害史』、『香取郡誌』
1898	8 1	5 明治31	栃	木	火事				『いまいち市史』通史編 V (今市市、2005 年)、447-449頁
1898	8 2	4 明治31	埼	<u>*</u>	洪水		荒川流域	8月・9月と連続で暴風雨。	『吹上町史』『行田市史』『騎西町史』通史
									編『羽生市史』下巻
1898	8 2	4 明治31	東		洪水	+ 泰	<u>多摩川流域</u> 海来名声	8月24日~26日多摩川出水。調布町布田堤決壊、二ヶ領組合〆切元付決損。	『多摩川誌』(稲毛川崎二ケ領用水事績)
1698	o [20	6 明治31		奈川	その他	大雷	海老名市	国分大欅・中新田山王社ノ老松其他数ヵ所二落雷ス。(萩原静夫『海老名村郷土年表』1984より作成)	『海老名市史8 通史編 近代·現代』

	9	明治31		千葉	洪水		千葉県北東部(香取郡)	9月中旬より霖雨、利根川出水、沿岸諸町村を浸し多少の被害あり、米国登らず。	『千葉県気象災害史』
898 9	9 6			神奈川	洪水		馬入川河口	ウステース ウス ウステース ウス ウス ウス ウス ウス ウス ウス	『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の語
		91/001		1437/1	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		**************************************	上続き降水量は61.2mmとあまり多くなかった。県内では相模川中流の中野で200mm以上だったが、その他の地方は100mm以下かせいぜい50~60mm程度だったので一部を除き被害は軽徴であった。しかし相模川上流地方で局地的に豪雨に見舞われ洪水となったため、下流の馬人川河口ではかなりの被害を出し、橋梁が流失して交通が杜絶するなどの惨状を呈した。 県の被害表では死者2.負傷者18、行方不明1、住家の全壊74月、半壊42月、流失13月、橋梁の流失・破損174ヵ所、堤防の決壊・破損6441	
								間など。 (測候所雑纂・測候所特別報告)	
98 9	9 6	明治31		群馬	洪水	台風	県全域	渡良瀬川西谷田村除巻川にて135間破堤、稲荷穴にて77間破堤、家屋流出48戸、浸水2029戸(邑楽郡) 渡良瀬川一本木が中にて200間余破堤(山田郡) 使者4名、建物流失16戸、藤壌16戸、城境18戸、浸水167戸、橋梁流失9、堤防流失6、川除41、道路150、耕地500町(群馬郡) 吾妻川岩島より下流の橋梁全部流失(吾妻郡) 利根川大川村加石にて2ヶ所25間破堤(邑楽郡) 糸之瀬村丸岩弁天が流失(糸之瀬村) 大水(利南村、薄根村)	『群馬県気象災害史』
98 9	9 7	明治31		山梨	洪水		北巨摩郡、中巨摩郡、南巨摩郡、西山梨郡、 東山梨郡、東八代郡、西八代郡、南都留郡、 北都留郡		『山梨県水害史』
398	9	明治31		埼玉	爆発		騎西町	神社の祭礼で花火が爆発。	『騎西町史』通史編
398	9	明治31		栃木	洪水		鬼怒川沿岸		『栃木県史通史編』第六巻、440-448頁
98		明治31		栃木	洪水				『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、
399 2	2 2	7 明治32		茨城県	豪雨		伊奈町	豪雨のため小貝川が増水、耕作物に被害	1987年)、495-497頁 『伊奈町近代·現代史年表』
399 2	2	明治32		埼玉	火事	芋金火事	越ケ谷町	京都のため、下央が成るのが、初下のには自 被害不明	『越谷市史』通史下、『埼玉県行政史』
99 2	2 29	9 明治32		茨城県	迅雷·豪雨·	降雹	西茨城郡	農作物に被害甚大	『茨城県史年表』
399 7	7 25	5 明治32		茨城県	暴風雨		久慈郡·那珂郡·西茨城郡	洪水、農作物に被害甚大	『茨城県史年表』
		2 明治32		神奈川	火事		横浜市	全焼3158戸, 半焼49戸, 焼死者11, 負傷者10, 損害額500万円以上 夏型気圧配置続き高温寡雨の晴天続きで当日も南よりの風平均11.7m/sを記録している。 (横浜開港50年史, 横浜歴史年表, 東京日々新聞)	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2音
399 8	8 12	2 明治32		神奈川		横浜大火	神奈川県	明治三十二年八月十二日関外雲井町一丁目から出て、伊勢佐木町界隈一円を焼き払った雲井町火事。	『神奈川県史概説下巻』
899 8	8 12	2 明治32		神奈川	火事		横浜市	横浜開港以来と言われる火事。 12日の夜20時30分すぎ、横浜繁華街伊勢佐木町南西部の雲井町1丁目銭湯勝盛館付近から出火、日中からの南西の強風にあおられて見る間に大火となり、13日3時30分鏡火するまで実に7時間にわたる延焼で市内区画の29ヶ町を焼き尽し、罹災者数は7000人を越えたと言われる。その状況はまさに焦熱地獄であった。消火作業も火災地区付近を流れる大岡川、中村川、日の出川等の川水を十分活用出来る蒸気ポンプの台数もわずかに警察署1台、居留地用台のみで、各消防署のポンプは水道給水管利用のもので十分な消化ができなかった。市役所では学校・教会など、緊急対策として避難所を設けて罹災者の収容に努めた。被害状況は全焼3158戸、半焼49戸、焼死者11人、負傷者10人、損害額は500万円以上、原因は風呂屋の煙突の飛火。(横浜開港50年史、東京日々新聞、横浜歴史年表)	『神奈川県災害誌(自然災害)』大火の
899 9	9 8	明治32		群馬	洪水	台風		薄根村	『群馬県気象災害史』
399 9	9 30	0 明治32	$\perp \perp$	茨城県	洪水		伊奈町	暴風雨により小貝川出水	『伊奈町近代・現代史年表』
199	10 7	明治32		神奈川	暴風		横須賀市	明治三二年一〇月七日の台風では神奈川県内で暴風・洪水・高波による被害が発生しており、市域でも浦賀町川間にあった東京石川島造 船所の製罐工場の屋根瓦が吹き飛んで負傷者三人を出したほか、浸水、屋根の破損、漁船の流失などの被害があった(『神奈川県気象災	『新横須賀市史 通史編 近現代』第7 章第二節『軍港の形成と災害・救援』
000					洪水	台風		薄根村	『群馬県気象災害史』
		明治32		群馬			千葉県北東部(香取郡)	10月7日大風家屋を破り樹木を折損し被害夥し。銚子測候所では南南東36.8m/sを観測す。	『千葉県気象災害史』
399 1		明治32		千葉	暴風				
399 1 399		明治32 明治32		千葉	暴風		<u>騎西町</u>	大火で130戸が焼失。	『騎西町史』通史編
399 1 399 900	10 7	明治32 明治32 明治33		千葉 埼玉 茨城県	暴風 火事 火事	亚沙町士山	常総市	水海道町役場が火災で焼失	水海迫市史 卜巻
399 1 399 900 2	10 7	明治32 明治32 明治33 2 明治33		千葉 埼玉 茨城県 神奈川	暴風 火事 火事 火災	平沼町大火	常総市	水海道町役場が火災で焼失	水海追市史』ト巻 『横浜近代史総合年表』
399 1 399 900 2 900 2	10 7 2 12 2 23	明治32 明治32 明治33 2 明治33 3 明治33		千葉 埼玉 茨城県 神奈川 神奈川	暴風 火事 火事 火災	平沼町大火	常総市 横浜賑町2丁目	水海道町役場が火災で焼失 325棟全焼	水海追市史』ト巻 横浜近代史総合年表』 横浜近代史総合年表』
399 1 399 900 900 2 900 2 900 3	10 7 2 12 2 23 3 4	明治32 明治33 明治33 2 明治33 3 明治33 明治33		千葉 埼玉 茨城県 神奈川	暴風 火事 火事		常総市 機 <u>抵賑町2丁目</u> 伊奈町	水海道町役場が火災で焼失	水海追市史』ト巻 『横浜近代史総合年表』
399 1 399 900 900 2 900 2 900 3 900 4	10 7 2 12 2 23 3 4 4 22 6 4	明治32 明治33 明治33 2 明治33 明治33 明治33 明治33 明治33		千葉 埼茨湖東 神 神 茨 神 神 茨	暴風 火事 火災 火災 地震	平沼町大火 麻布区六本木4火災	常総市 横浜脈町2丁目 伊奈町 千葉県北部(利根川) 麻布区六本木	水海道町役場が火災で焼失 325棟全焼 地震が2度発生 4月22日利根川11尺出水。 負傷者名、全焼198戸、焼損面積31,697平方メートル	水海通市史』ト巻 横浜近代史総合年表』 横浜近代史総合年表』 伊奈町近代・現代史年表』 「伊奈町近代・現代史年表』 「東京の消防百年の歩み』
399 1 399 399 390 3900 2 300 2 300 3 300 4 300 6	10 7 2 12 2 23 3 4 4 22 6 4 9 1	明治32 明治33 明治33 明治33 明治33 明治33 明治33 明治33		千葉 埼茨神宗 神神茨 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	暴風 火事 火災 火災 地震 洪水 火災	麻布区六本木4火災	常総市 機浜脈町2丁目 伊奈町 干葉県北部(利根川)	水海道町役場が火災で焼失 325棟全焼 地震が2度発生 地震が2度発生 4月22日利根川11尺出水。 4月28日利根川11尺出水。 4月3日利は11円出水。 4月4日 4月3日 4月3	水海卓市史』ト巻 横浜近代史総合年表』 横浜近代史総合年表』 伊奈町近代・現代史年表』 千葉県気象災害史』 東京の消防百年の歩み』 横浜近代史総合年表』
399 1 399 399 390 3900 2 300 2 300 3 300 4 300 6	10 7 2 12 2 23 3 4 4 22 6 4 9 1	明治32 明治33 明治33 明治33 明治33 明治33 明治33 明治33		千埼茨神神茨千東神群 栗玉城奈奈城葉京奈馬 県川川県 川川県	展 火火災 火火災 大火災 大火災 大火火火 大火火火 大火火火 大火火火 大火火火 大火火 大		常総市 横浜脈町2丁目 伊奈町 丁葉県北部(利根川) 麻布区六本木 常線町1丁目	水海道町役場が火災で焼失 325棟全焼 地震が2度発生 4月22日利根川11尺出水。 負傷者名、全焼198戸、焼損面積31,697平方メートル	水海卓市史』ト巻 横浜近代史総合年表』 「横浜近代史総合年表』 「伊奈町近代・現代史年表』 「王葉県秀変災害史』 「東京の消防百年の歩み』 「横浜近代史総合年表』 「横浜近代史総合年表』 「横浜近代史総合年表』
399 1 399 900 900 2 900 2 900 2 900 4 900 6 900 9	10 7 2 12 2 23 3 4 4 22 6 4 9 1 9 28 9 28	明治32 明治33 明治33 明治33 明治33 明治33 明治33 明治33		千 <u>埼</u> 茨神神茨千東神群埼 村 村 村 村 村 村 大 大 東 神 群 芸 城 葉 京 会 馬 馬 馬 玉 馬 玉 馬 玉 馬 玉 馬 玉 馬 玉 馬 玉 馬 玉 馬	<u>暴火火火火火地洪火火暴暴</u> 風事事災災震水事災風風	麻布区六本木4火災	常総市 横浜脈町2丁目 伊奈町 千葉県北部(利根川) 麻布区六本木 常盤町1丁目 埼玉県内	水海道町役場が火災で焼失 325棟全焼 地震が皮廃生 4月22日利根川11尺出水。 負傷者名、全焼198戸、焼損面積31,697平方メートル 横浜共同電燈発電所焼失 9時ごろより風雨激しく倒壊家屋7.8軒、人畜被害なし(下川淵村、薄根村)	水海卓市史川下巻 横浜近代史総合年表』 横浜近代史総合年表』 伊奈町近代・現代史年表』 千葉県気象災害史』 東京の消防百年の歩み』 横浜近代史総合年表』 詳馬県気象災害史』 野編埼玉県史』別編4日然
899 1899 9900 29900 29900 49900 69900 9900 9900 9900 9900 990	10 7 2 12 2 23 3 4 4 22 6 4 9 1 9 28 9 28 9 29	明治32 明治33 明治33 明治33 明治33 明治33 明治33 明治33		千/ / / / / / / / / / /	暴火火火火地洪火火地洪火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火	麻布区六本木4火災	常総市 横浜賑町2丁目 伊奈町 干葉県北部(利根川) 麻布区六本木 常館町1丁目 埼玉県内 干葉県北部(利根川)	水海道町役場が火災で焼失 325棟全焼 地震が定廃生 地震が定廃生 4月22日利根川11尺出水。 負傷者1名、全焼198戸、焼損面積31,697平方メートル 横浜共同電燈発電所焼失 9時ごろより風雨激しく倒壊家屋7,8軒、人畜被害なし(下川淵村、薄根村) 9月29日利根川8尺出水。	水海卓市史川下巻 横浜近代史総合年表』 横浜近代史総合年表』 伊奈町近代・現代史年表』 丁葉県秀東災害史』 東京の消防百年の歩み』 横浜近代史総合年表』 群馬県気象災害史』 新編時玉県史別編4自然 丁葉県秀東次書史』
899 1899 900 9900 9900 9900 9900 19900 19900 1	10 7 2 12 2 2 23 3 4 4 22 6 4 9 1 9 28 9 28 9 29 10 3 10 8	明治32 明治33 明治33 明治33 明治33 明治33 明治33 明治33		千 <u>埼</u> 茨神神茨千東神群埼 村 村 村 村 村 村 大 大 東 神 群 芸 城 葉 京 会 馬 馬 馬 玉 馬 玉 馬 玉 馬 玉 馬 玉 馬 玉 馬 玉 馬 玉 馬	暴火火火火 火火火火火地 洪火火暴 暴洪火火 暴暴 洪火炎	麻布区六本木4火災	常総市 横浜脈町2丁目 伊奈町 千葉県北部(利根川) 麻布区六本木 常盤町1丁目 埼玉県内	水海道町役場が火災で焼失 325棟全焼 地震が皮廃生 4月22日利根川11尺出水。 負傷者名、全焼198戸、焼損面積31,697平方メートル 横浜共同電燈発電所焼失 9時ごろより風雨激しく倒壊家屋7.8軒、人畜被害なし(下川淵村、薄根村)	水海迪市史』下巻 横浜近代史総合年表』 横浜近代史総合年表』 伊奈町近代・現代史年表』 千葉県気象災害史』 東京の消防百年の歩み』 横浜近代史総合年表』 詳馬県気象災害史』 野編埼玉県史』別編4自然
8899 1899 900 9900 29900 9900 9900 9900 19900 19900 1	10 7 2 12 2 2 23 3 4 4 22 6 4 9 1 9 28 9 28 9 29 10 3 10 8	明治32 明治32 明治33 3 明治33 3 明治33 3 明治33 9 明治33 8 明治33 9 明治33 明治33 9 明治33 明治33 明治33		千埼茨神神茨 千東神群埼千神千埼 葉玉城奈奈城葉京奈馬玉葉奈葉玉県川川県 川川県 川川県	暴火火火火地洪火火地洪火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火	麻布区六本木4火災	常総市 横浜賑町2丁目 伊奈町 干葉県北部(利根川) 麻布区六本木 常盤町1丁目 埼玉県内 干葉県北部(利根川) 羽衣座	水海道町役場が火災で焼失 325棟全焼 地震が皮発生 4月22日和根川11尺出水。 負傷者1名、全境198戸、焼損面積31,697平方メートル 横浜共同電燈発電所焼失 9時ごろより風雨激し份関家屋7.8軒、人畜被害なし(下川淵村、薄根村) 9月29日利根川8尺出水。 全焼21戸 10月6日利根川10尺5寸出水。 10戸6世機。 10月6世機。 10月6世機。 10月6世機。 10月6世機。 10月6世機。 10月6世機・ 10月6世権・ 10月6世	水海卓市史』下巻 横浜近代史総合年表』 横浜近代史総合年表』 伊奈町近代・現代史年表』 丁芙県敦俊美宝史』 東京の消防百年の歩み』 横浜近代史総合年表』 野編県気象災害史』 新編埼玉県史別編4自然 丁葉県気象災害史』 横浜近代史総合年表』
899 1899 900 900 2900 8900 8900 1900 1900 1900	10 7 2 12 2 2 23 3 4 4 22 6 4 9 1 9 28 9 28 9 29 10 3 10 8	明治32 明治33 明治33 明治33 明治33 明治33 明治33 明治33		千埼茨神神茨千東神群埼千神千埼千 葉玉城奈奈城葉京奈馬玉葉奈葉玉葉 県川川県 川川県 川川県	暴火火火地洪火火暴暴洪火火火地洪火火火地洪火火暴暴, 水寒災災震水事災風風水災水事災風風水災水事火洪火洪水	麻布区六本木4火災	常総市 横浜脈町2丁目 伊奈町 千葉県北部(利根川) 麻布区六本木 常盤町1丁目 埼玉県内 千葉県北部(利根川) 羽衣座 千葉県北部(利根川)	水海道町役場が火災で焼失 325棟全焼 地震が皮発生 4月22日利根川11尺出水。 負傷者1名、全焼198戸、焼損面積31.697平方メートル 横浜共同電燈発電所焼失 9時ごろより風雨激と(倒壊家屋7.8軒、人畜被害なし(下川淵村、薄根村) 9月29日利根川8尺出水。 全焼21戸 10月8日利根川10尺5寸出水。 10戸全焼。 10戸全焼。 10月全焼。 10月金焼 10月金焼。 10月金焼。 10月金板の修工車(第1期佐原一銚子間)着工。	水海卓市史』ト巻 「横浜近代史総合年表』 「横浜近代史総合年表』 「伊奈町近代・現代史年表』 「干葉県気象災害史』 「東京の消防百年の歩み』 「横浜近代史総合年表』 「井馬県気象災害史』 「新編・五県史別総4自然 「干葉県気象災害史』 「横浜近代史総合年表』 「干葉県気象災害史』 「神紅市・皮』通史と別に、「一葉県気象災害史』 「神和市史』通史県町 「神和市史」通史県町 「「神和市史」通史県町 「「神和市史」通史県町
399 1 399 399 399 3900 2 900 2 900 3 900 4 900 9 900 9 900 9 900 9 900 1 900 1	10 7 2 12 2 23 3 4 4 22 6 4 9 1 9 28 9 28 10 3 10 8 11 2 25	明治32 明月治33 2 明月治33 2 明月治33 2 明月治33 明月治33 明月治33 明月治33 明月治33 明月治33 明月治33 明月治33 明月治33 明月治33		千埼茨神神茨千東神群埼千神千埼千群 県川川県 県川川県 川川県 川川県 川川県 川川県 川川県 川川県 田田田田田田田田	暴火火火火地洪火火火火地洪火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火	麻布区六本木4火災	常総市 機浜賑町2丁目 伊奈町 干葉県北部(利根川) 麻布区六本木 常盤町1丁目 埼玉県内 干葉県北部(利根川) 羽玄座 干葉県北部(利根川) 瀬和市 手質沼周辺	水海道町役場が火災で焼失 325棟全焼 地震が定廃生 地震が定廃生 4月22日利根川11尺出水。 負傷者1名、全焼198戸、焼損面積31,697平方メートル 横浜共同電燈発電所焼失 9時ごろより風雨激しく倒壊家屋7.8軒、人畜被害なし(下川淵村、薄根村) 9月29日利根川8尺出水。 全焼21戸 10月8日利根川10尺5寸出水。 10月8日利根川10尺5寸出水。 10月年11日根 10月年11日根 10月年11日根 10月年11日根 10月年11日根 10月年11日根 10月年11日根 10月年11日	水海卓市史』ト巻 情疾近代史総合年表』 「横浜近代史総合年表』 「伊奈町近代・現代史年表』 「王葉風象災害史』 「東京の消防百年の歩み』 「横浜近代史総合年表』 「群馬県気象災害史』 「新編埼玉県史』別編4自然 「干葉県気象災害史』 「横浜近代史総合年表』 「神に近代史総合年表』 「神に近代史総合年表』 「一葉県気象災害史』 「神に近代史総合年表』 「神に近代史総合第二 「神に近代史総合第二 「神に近代史総合第二 「神に近代史総合第二 「神に近代史総合第二 「神に近代史総合第二 「神に近代史総合第二 「神に近代史総合第二 「神に変し、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一
1999 1999 1000 2000 2000 2000 2000 2000	10 7 2 12 2 23 3 4 4 22 6 4 9 1 9 28 9 29 10 3 10 8 12 25 2 16	明治32 明治33 明治33 1 明治33 2 明治33 3 明治33 3 1 明治33 3 1 明的治33 8 明的治33 8 明的治治33 9 明明治治33 9 明明治治33 9 明明治34 6 6 明治34		王 培 茨 神 神 変 神 東 神 群 第 五 東 神 表 明 二 東 神 表 明 ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	暴火火火火地洗火火 展图事事 災災震水事災災 震災 展園水災 水事災災 展園水災 水事火 水事火 大洪 大水事 大洪 大水事 大水事 大水事 大水事 大水事 大水事 大水事 大水 大水 大水 大水 大水 大水 大水 大水	麻布区六本木4火災	常総市 横浜賑町2丁目 伊奈町 干葉県北部(利根川) 麻布区六本木 常盤町1丁目 埼玉県内 干葉県北部(利根川) 羽衣座 干葉県北部(利根川) 羽衣座 干葉県北部(利根川) 浦和市 手質沼周辺	水海道町役場が火災で焼失 325棟全焼 地震が皮寮生 4月22日和根川11円出水。 負傷者1名、全焼198戸、焼損面積31,697平方メートル 横浜共同電燈発電所焼失 9時ごろより風雨激し(倒壊家屋7.8軒、人畜被害なし(下川淵村、薄根村) 9月29日利根川8尺出水。 全焼21戸 10月8日利根川10尺5寸出水。 10戸全焼。 利根川20体工事(第1期佐原—銚子間)着工。 海根村 焼死者2、負傷者6、全町823戸の内全焼59戸 16日21時半頃、三浦郡三崎町入船町の資座敷伊勢松楼から出火、折柄の強い南西風のため47町を全焼し17日3時頃鎖火した。 (三崎町史、東京日々新聞、三浦郡に崎町入船町の資座敷伊勢松楼から出火、折柄の強い南西風のため47町を全焼し17日3時頃鎖火した。 (三崎町史、東京日々新聞、三浦郡に	水海卓中史』ト巻 横浜近代史総合年表』 横浜近代史総合年表』 伊奈町近代・現代史年表』 丁東京の消防百年の歩み』 東京の消防百年の歩み』 横浜近代史総合年表』 丁莱県曳象災害史』 「新編埼玉県史則編4自然 丁天葉県曳象災害史』 横浜近代史総合年表』 丁葉県曳象災害史』 浦和市史 通史編Ⅲ 「拝寛川東の変災害史』 「非原東の変災害史』 「非原東の変災害史』 「非原東の変災害史』 「非原東の変災害史』 「非原東の変災害史』 「非原東の変災害史』 「非原東の変災害史』 「非原東の変災害史』 「非原東の変災害史』 「非原東の変災害史』
399 1399 399 399 399 399 399 399 399 399	10 7 2 12 2 23 3 4 4 22 6 4 9 1 9 28 9 29 10 3 10 8 12 25 2 16	明治32 明月治33 2 明月治33 2 明月治33 2 明月治33 明月治33 明月治33 明月治33 明月治33 明月治33 明月治33 明月治33 明月治33 明月治33		千埼茨神神茨千東神群埼千神千埼千群 県川川県 県川川県 川川県 川川県 川川県 川川県 川川県 川川県 田田田田田田田田	暴火火火火地洪火火火火地洪火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火	麻布区六本木4火災	常総市 機浜賑町2丁目 伊奈町 干葉県北部(利根川) 麻布区六本木 常盤町1丁目 埼玉県内 干葉県北部(利根川) 羽玄座 干葉県北部(利根川) 瀬和市 手質沼周辺	水海道町役場が火災で焼失 325棟全焼 125棟全焼 125棟全焼 125棟全焼 125棟全焼 125棟全焼 125棟を入び度発生 1250を発生	水海卓中史』ト巻 横浜近代史総合年表』 横浜近代史総合年表』 伊奈町近代・現代史年表』 丁東京の消防百年の歩み』 東京の消防百年の歩み』 横浜近代史総合年表』 丁莱県曳象災害史』 横浜近代史総合年表』 丁莱県曳象災害史』 横浜近代史総合年表』 丁葉県曳象災害史』 浦和市史 通史編皿 戸賀沼周辺の水害』 野馬県気象災害史』 神奈川県災害誌(自然災害)』年表28
9399 1 1 1 1	10 7 2 12 2 2 22 3 4 4 22 6 4 9 1 9 9 20 9 9 20 10 3 10 8 112 25 2 16	明治32 明治33 日 明治34 6 6 日 明治34		王 生 生 生 生 生 生 生	暴火火火火地洗火火 展图事事 災災震水事災災 震災 展園水災 水事災災 展園水災 水事火 水事火 大洪 大水事 大洪 大水事 大水事 大水事 大水事 大水事 大水事 大水事 大水 大水 大水 大水 大水 大水 大水 大水	麻布区六本木4火災	常総市 横浜賑町2丁目 伊奈町 干葉県北部(利根川) 麻布区六本木 常盤町1丁目 埼玉県内 干葉県北部(利根川) 羽衣座 干葉県北部(利根川) 羽衣座 干葉県北部(利根川) 浦和市 手質沼周辺	水海道町役場が火災で焼失 325棟全焼 地震が2度発生 4月22日利根川11尺出水。 負傷者1名、全焼198戸、焼損面積31,697平方メートル 横振共同電煙発電所焼失 9時ごろより風雨激しく倒壊家屋7.8軒、人畜被害なし(下川淵村、薄根村) 9月29日利根川10尺5寸出水。 10月2日利根川10尺5寸出水。 10月2日利根川10尺5寸出水。 110月2日現場1110尺5寸出水。 110月2日現場1110尺5寸出水。 110月2年現 (第1期佐原一銚子間) 着工。 薄根村 焼死者2.負傷者6、全町823戸の内全焼592戸 116日21時半頃、三浦郡三崎町入船町の資座敷伊勢松楼から出火、折柄の強い南西風のため4ヶ町を全焼し17日3時頃鎮火した。 (三崎町史、東京日々新聞、三浦郡誌) 116日21時半頃、三浦郡三崎町入船町の資座敷伊勢松楼から出火、折柄の強い南西風に全町7ヵ町(戸教823戸)のうち、目抜通りの入船、長崎、ハナグレ、海南町を全焼しまた日の出町を半焼するという大きな火事となった。そして翌17日3時頃漸、鏡火した。この間に焼失した戸数は全町822戸の内32戸(三崎町史による)に及び、焼死者2人、軽傷者6人、また公共建物は郵便電信局は焼失したが、その他の警察署。町役場、小学区、病院等は損焼をまめがれた。 (三崎町史、三浦郡誌、東京日々新聞)	水海卓市史』ト巻 横浜近代史総合年表』 横浜近代史総合年表』 横浜近代史総合年表』 日東京の消防百年の歩み』 横浜近代史総合年表』 群馬見気象災害史』 新編坊玉鬼史別総4自然 千葉県気象災害史』 横浜近代史総合年表』 千葉県気象災害史』 横浜近代史総合年表』 千葉県気象災害史』
9399 1 1 1 1 1 1 1 1 1	10 7 2 12 23 3 4 4 22 6 9 1 9 28 9 29 22 10 8 11 2 2 16 2 16 2 17 2 18 2	明治32 明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治34 日明治34 日明治34 日明治34 日明治34 日明治34		王 生 生 生 生 生 生 生	暴火火火火地洪火火暴暴涨火洪火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火	麻布区六本木4火災	常総市 機浜服町2丁目 伊奈町 丁葉県北部(利根川) 麻布区六本木 常盤町1丁目 埼玉県内 「工葉県北部(利根川) 羽衣座 丁葉県北部(利根川) 羽衣座 丁葉県北部(利根川) 羽木座 丁葉県北部(利根川) 河本市 「東変域郡磯浜町・那珂郡湊・平磯町	水海道町役場が火災で焼失 325棟全焼 地震が皮廃生 地震が皮廃生 4月22日利根川11円出水。 負傷者1名、全焼198戸、焼損面積31,697平方メートル 横浜共同電燈発電所焼失 9時ごろより風雨激し(街壌家屋7,8軒、人畜被害なし(下川淵村、薄根村) 9月29日利根川18尺出水。 全焼21戸 10月8日利根川18尺出水。 全焼21戸 10月8日利根川10尺5寸出水。 10月8日利根川10尺5寸出水。 10月8日利根川10下全焼。 1月8日利根川10下全焼。 1月8日利根川10下全焼25戸 1月8日利田の食・製子間)着工。 海根村 境死者2、負傷者6、全町823戸の内全焼592戸 16日21時半頃、三浦郡三崎町入船町の資座敷伊勢松楼から出火、折柄の強い南西風のため4ヶ町を全焼し17日3時頃鏡火した。 (三崎町史、東京日々新聞、三浦郡誌) 16日21時半頃、三浦郡三崎町入船町の資座敷伊勢松楼から出火、折柄の強い南西風に全町7ヵ町(戸数823戸)のうち、目抜通りの入船、長崎、ハナヴし、海南町を全焼1また日の出町を半焼するという大きな火事となった。そして翌17日3時頃新銭換した。この間に焼失した戸敷は全町823戸の内592戸(三崎町史による)に及び、焼死者2人、軽傷者6人、また公共建物は郵便電信局は焼失したが、その他の警察署、町(皮場、小学区、病院等は類焼きまぬがれた。 (三崎町史、二浦郡誌、東京日々新聞) 出船漁船多数難破、死亡者多数	水海卓市史』ト巻 横浜近代史総合年表』 横浜近代史総合年表』 横浜近代史総合年表』 伊奈町近代・現代史年表』 下葉県象変災害史』 東京の消防百年の歩み』 横浜近代史総合年表』 野馬県気象災害史』 「新編埼玉県史』別編4自然 下葉県象変災害史』 「神元リーで、 「神元リーで、 「神奈川県災害誌(自然災害)』「本表2倍 神奈川県災害誌(自然災害)』「本表2倍 「神奈川県災害誌(自然災害)』「大火の
899 1 1 900 1 2 2 9001 2 2 9001 2 2 9001 2 2 9001 2 2 9001 2 2 9001 2 2 9001 2 2 9001 3 9001 2 9001 3 9001	10 7 2 12 23 3 4 4 22 6 9 1 9 28 9 29 22 10 8 11 2 2 16 2 16 2 17 2 18 2	明治32 明治33 明治33 明明治33 明明治33 明治治33 明治治33 明明治治33 明明治治33 明明治治33 明明治治33 明明治治33 明明治治治33 明明治治治33 明明治治治34 6 明治34		千	暴火火火火地 無壓事 災震 大火火火火地 大火火火火地 大火火火火火地 大火火火火火火火火火火火火	麻布区六本木4火災	常総市 機浜服町2丁目 伊奈町 丁葉県北部(利根川) 麻布区六本木 常盤町1丁目 埼玉県内 「工葉県北部(利根川) 羽衣座 丁葉県北部(利根川) 羽衣座 丁葉県北部(利根川) 羽木座 丁葉県北部(利根川) 河本市 「東変域郡磯浜町・那珂郡湊・平磯町	水海道町役場が火災で焼失 325棟全焼 地震が2度発生 4月22日利根川11尺出水。 負傷者1名、全焼198戸、焼損面積31,697平方メートル 横振共同電煙発電所焼失 9時ごろより風雨激しく倒壊家屋7.8軒、人畜被害なし(下川淵村、薄根村) 9月29日利根川10尺5寸出水。 10月2日利根川10尺5寸出水。 10月2日利根川10尺5寸出水。 110月2日現場1110尺5寸出水。 110月2日現場1110尺5寸出水。 110月2年現 (第1期佐原一銚子間) 着工。 薄根村 焼死者2.負傷者6、全町823戸の内全焼592戸 116日21時半頃、三浦郡三崎町入船町の資座敷伊勢松楼から出火、折柄の強い南西風のため4ヶ町を全焼し17日3時頃鎮火した。 (三崎町史、東京日々新聞、三浦郡誌) 116日21時半頃、三浦郡三崎町入船町の資座敷伊勢松楼から出火、折柄の強い南西風に全町7ヵ町(戸教823戸)のうち、目抜通りの入船、長崎、ハナグレ、海南町を全焼しまた日の出町を半焼するという大きな火事となった。そして翌17日3時頃漸、鏡火した。この間に焼失した戸数は全町822戸の内32戸(三崎町史による)に及び、焼死者2人、軽傷者6人、また公共建物は郵便電信局は焼失したが、その他の警察署。町役場、小学区、病院等は損焼をまめがれた。 (三崎町史、三浦郡誌、東京日々新聞)	水海迪市史』 本海迪市史』 水海迪市史』 「横浜近代史総合年表』 横浜近代史総合年表』 「横浜近代史総合年表』 下東京の海防百年の歩み。 「東京の海防百年の歩み。 「群馬県気象災害史』 「新編埼玉県史』 別編4自然 「「干葉県気象災害史」 「神浜近代史総合年表』 「干葉県気象災害史」 河和市史」通史總皿 「「手選別局辺の水害」 「野馬県気象災害史」 「神奈川県災害誌(自然災害)』 「中奈川県災害誌(自然災害)』 「本奈川県災害誌(自然災害)』 「大火の「「茨城県史年表」 「大火の「「茨城県史年表」 「東京県気象災害史」 「東京南原辺の水害」
899 1 899 1 900 900 2 901 2	10 7 2 11/2 2 22 33 4 4 22 66 4 4 99 1 1 99 22 110 3 110 8 112 25 116 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	明治32 明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治33 日明治34 日明治34 日明治34 日明治34 日明治34 日明治34 日明治34 日明治34 日明治34		子 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	暴火火火火火地洪火火发暴暴洪火洪火洪洪火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火	麻布区六本木4火災	常総市 横浜脈町2丁目 伊奈町 丁葉県北部(利根川) 麻布区六本木 常盤町1丁目 埼玉県内 丁葉県北部(利根川) 羽衣座 丁葉県北部(利根川) 羽衣座 丁葉県北部(利根川) 羽衣座 「東賀沼周辺 三浦郡 三浦郡三崎町 東茨城郡磯浜町・那珂郡奏・平磯町 丁葉県北部(利根川) 手賀沼周辺	水海道町役場が火災で焼失 325棟全焼 地震が皮寮生 4月22日和根川11円出水。 負傷者1名、全境198戸、焼損面積31,697平方メートル 横浜共同電燈発電所焼失 9月29日利根川8尺出水。 (長藤) 4月29日利根川8尺出水。 4月29日利根川8尺出水。 4度21戸 10月2日利根川10尺5寸出水。 10戸2使虎。 3月1日 10月2日利根川10尺5寸出水。 10戸2使虎。 3月1日 10月2日 10月2日	水海卓市史』ト巻 横浜近代史総合年表』 横浜近代史総合年表』 横浜近代史総合年表』 伊奈町近代・現代史年表』 下葉県の象災害史』 東京の消防百年の歩み』 横浜近代史総合年表』 下葉県気象災害史』 横浜近代史総合年表』 干葉県気象災害史』 浦和市史』通史編Ⅲ 手賀沼周辺の水害』 野馬県気象災害史』 神奈川県災害誌(自然災害)』「本表2倍 神奈川県災害誌(自然災害)』「大火の 「大東県気象災害史』 「神奈川県災害誌(自然災害)』「大火の 「大東県気象災害史』 「東河周辺の水害』 下葉県気象災害史』 「東河周辺の水害』 下葉県気象災害史』 「東河周辺の水害』 下東川県災害誌(自然災害)』「大火の
889 1 9 900 1 900 1 2 901 2 901 2 901 2 901 2 901 5 90	10 7 2 112 2 2 23 3 4 4 22 6 6 4 9 1 9 20 9 9 20 10 3 10 8 112 23 2 16 2 16 3 22 2 16	明治32 明治33 明治33 明明治33 明明治33 明治治33 明治治33 明明治治33 明明治治33 明明治治33 明明治治33 明明治治33 明明治治治33 明明治治治33 明明治治治34 6 明治34		千	暴火火火火地 無壓事 災震 大火火火火地 大火火火火地 大火火火火火地 大火火火火火火火火火火火火	麻布区六本木4火災	常総市 横浜脈町2丁目 伊奈町 丁葉県北部(利根川) 麻布区六本木 常盤町1丁目 埼玉県内 丁葉県北部(利根川) 羽衣座 丁葉県北部(利根川) 羽衣座 丁葉県北部(利根川) 羽衣座 「東賀沼周辺 三浦郡 三浦郡三崎町 東茨城郡磯浜町・那珂郡奏・平磯町 丁葉県北部(利根川) 手賀沼周辺	水海道町役場が火災で焼失 325棟全焼 地震が皮廃生 地震が皮廃生 4月22日利根川11円出水。 負傷者1名、全焼198戸、焼損面積31,697平方メートル 横浜共同電燈発電所焼失 9時ごろより風雨激し(街壌家屋7,8軒、人畜被害なし(下川淵村、薄根村) 9月29日利根川18尺出水。 全焼21戸 10月8日利根川18尺出水。 全焼21戸 10月8日利根川10尺5寸出水。 10月8日利根川10尺5寸出水。 10月8日利根川10下全焼。 1月8日利根川10下全焼。 1月8日利根川10下全焼25戸 1月8日利田の食・製子間)着工。 海根村 境死者2、負傷者6、全町823戸の内全焼592戸 16日21時半頃、三浦郡三崎町入船町の資座敷伊勢松楼から出火、折柄の強い南西風のため4ヶ町を全焼し17日3時頃鏡火した。 (三崎町史、東京日々新聞、三浦郡誌) 16日21時半頃、三浦郡三崎町入船町の資座敷伊勢松楼から出火、折柄の強い南西風に全町7ヵ町(戸数823戸)のうち、目抜通りの入船、長崎、ハナヴし、海南町を全焼1また日の出町を半焼するという大きな火事となった。そして翌17日3時頃新銭換した。この間に焼失した戸敷は全町823戸の内592戸(三崎町史による)に及び、焼死者2人、軽傷者6人、また公共建物は郵便電信局は焼失したが、その他の警察署、町(皮場、小学区、病院等は類焼きまぬがれた。 (三崎町史、二浦郡誌、東京日々新聞) 出船漁船多数難破、死亡者多数	水海卓市史』ト巻 横浜近代史総合年表』 横浜近代史総合年表』 横浜近代史総合年表』 伊奈町近代・現代史年表』 下葉県気象災害史』 東京の海防百年の歩み』 横浜近代史総合年表』 戸藤川県気象災害史』 市業県気象災害史』 市業県気象災害史』 浦和市史』通史編Ⅲ 千葉県気象災害史』 浦和市史』通史編Ⅲ 「華宮周辺の水害』 神奈川県災害誌(自然災害)』年表2倍 「神奈川県災害誌(自然災害)』「中表2倍 「神奈川県災害誌(自然災害)」「中表2倍 「大東県気象災害史』 「神奈川県災害誌(自然災害)」「中表2倍

	E 110	100 th 200		神奈川	11, (((石川町大火	横浜石川町	235戸焼失	『母近近世中の今年末』
1902 1902	5 25	明治35 明治35		<u> </u>	火災 地震	日川町人火	<u>懐浜石川町</u> 甲斐東部南都留郡	235戸焼失 路面の亀裂、土蔵にも多少の損害あり。	『横浜近代史総合年表』 『山梨県の気象』
1902	7 23	明治35		<u> </u>	洪水	1	県南東部	西国以宅表、上殿にもジンの東言かり。 渡良瀬川洪水大間々に相当の被害あり	『群馬県気象災害史』
	·	///		71 mg	,,,,,		NII) X LIP	渡良瀬川高津戸橋が危険にさらされる(山田郡)	
1902	8 5	明治35	- :	神奈川	水害		鶴見川・大岡川		『横浜近代史総合年表』
1902	8 7	明治35	:	神奈川	洪水		足柄上郡・同下郡	県西部の川は上流で決壊し足柄上、下両郡の被害は甚だしく、死者10人、負傷者17人を出し、家屋の全壊12戸、半壊は42戸、破損家屋63	『神奈川県災害誌(自然災害)』低気圧の
								戸を数え、堤防決壊は259ヶ所にも達した。 雨量は早川流域が最も多く、酒匂川がこれにつぎ、相模川上流はほぼ同じ、花水川、境川これについだ。 (測候所気象雑纂、足柄上郡誌、気象月報、気象要覧)	部
1902	8 7	明治35		東京	洪水	明治35年水害	 北豊島郡、南足立郡、浅草、本所、下谷、深 川、牛込区	 合風の影響による集中豪雨で荒川、隅田川その他河川が氾濫、床上浸水家屋2,009戸、床下浸水家屋8,543戸、船舶、道路に被害多数(東 京市内)、9月7日~9日まで	『東京の消防百年の歩み』
1902		明治35		千葉	洪水		千葉県北部(利根川)	8月10日利根川14尺出水。	『千葉県気象災害史』
1902		明治35		神奈川	その他	霖雨(りんう)	海老名市	麦作五分滅,米作三割滅。(萩原静夫『海老名村郷土年表』1984より作成)	『海老名市史8 通史編 近代・現代』
	9	明治35		群馬	洪水		E+-T-M= 73 4-+	薄根村 50日以北京70米	『群馬県気象災害史』
		明治35		<u>埼玉</u> 千葉	洪水 その他	降雹	<u>騎西町・羽生市</u> 千葉県東部	利根川が氾濫。 9月19日印旛、山武、匝瑳、夷隅の諸郡で降雹の為め田畑の損害甚大。	<u>『騎西町史』通史編『羽生市史』下巻</u> 『千葉県気象災害史』
		明治35	i	群馬	洪水	台風	果全域	死者10名、家屋流出47、足尾線一部流失、巨木の倒伏等多数(象)要覧33号) 群馬郡での耕地被害1500町(群馬郡) 渡良瀬川地野三つ堀辺比上浸水2尺5寸以上、流死3人、流失家屋1棟、高津戸橋危険(山田郡) 京ヶ島出水甚だしく、1500町(中川村) ほかにも糸之瀬村、利南村、薄根村にも被害あり	『群馬県気象災害史』
1902	9 28	明治35	:	茨城県	暴風雨		茨城県	大暴風雨により県下に大被害、死者111、全壊2万戸余	『茨城県史年表』、『結城市史』第6巻·近 現代通史編
1902	9 28	明治35		神奈川	高潮		足柄下郡·中郡	横浜では28日早朝より強風となり、以後次第に強まって8時には34.1m/sを観測した。 気圧は720.5mmHg(960.6mb)となり、風向は順転して変わったが29日夕刻まで36時間もの長時間連続して吹きまくった。雨量は少なく、県内 でも多い所で70mm前後、火くに県西部では少なく、40mm以下であった。かり風景は甚大で、とくに、湘南方面の高潮では死者60人、負傷者 369人、行方不明12人を出し、家屋流失773戸、浸水は床上床下合わせて1,660戸に及んだ。 粉船の流失も136隻、破損423隻で全隻数の約半分に被害を出し、この被害は、大磯より西方一帯に集中し、とくに国府津以西は最もひどい ものであった。 波高は酒匂川以南は、激浪が海岸をこえて、4~5町の造きに達した。国府津が被害の分岐点で、これより東では次第に低く、大磯では1丈余 と言われた。 (測候所雑築、気象月報、横浜開港50年史、足柄下郡史)	『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部
		明治35		神奈川	暴風雨		横浜港		『横浜近代史総合年表』
1902	9 28	明治35		千葉	暴風	台風	千葉県全域	9月28日大暴風雨あり。農作物家屋墻壁の被害甚多く樹木は到る処に倒れ一時は交通途絶の有様なりしも幸人畜の傷害なし(千葉県誌)。 9月28日朝より風雨あり、午前8、9時の間に至り次第に猛威を奮い、大樹を折損し家屋を倒壊し四辺の状は刻一刻と惨状を呈し神代、東条 [城?]等(現・東庄町)の小学校倒壊するもの数校に及び其他の損害は実に枚挙に遑あらず(香取郡誌)。 9月28日景総の地、大風雨あり、人畜の死傷夥し(海上郡誌)。 9月28日暴風の為め巨大なる老松、俗に12大枝に分る故に十二本松と呼ぶ松倒る(鶴枝村〔現・茂原市〕誌)。	『千葉県気象災害史』
1902	9 28	明治35	1	栃木	洪水	台風による。崖崩れ併発			『宇都宮市史』近·現代編Ⅱ(宇都宮市、 1981年)、290-294頁
1902	9	明治35		千葉	洪水		手賀沼周辺	台風、房総半島を通過、手賀沼内水洪水。	『手賀沼周辺の水害』
1002	9	明治35		栃木	洪水	鉱毒被害を併発	渡良瀬川沿岸		『近代足利市史』第一巻、1449頁
1902	9	明治35		栃木	豪雨	暴風を伴う			『いまいち市史』通史編 V (今市市、2005年)、308-311、449-451頁
1902	9	明治35		栃木	暴風	台風による			『日光市史』下巻(日光市、1979年)、385
1902	_	明治35		栃木	洪水	LI MICO O	/	特に大規模な被害	『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁
1902		明治35		栃木	洪水	足尾台風	足尾、日光付近		『栃木県史通史編』第六巻、440-448頁、 『栃木県土木史』(栃木県土木部、2001 年)、386-400頁、『鹿沼市史』後編(鹿沼市役所、1968年)、145頁
1902		明治35		栃木	暴風	大暴風雨	栃木県		『栃木県史通史編』第七巻、685~689頁
1902		明治35	7	栃木	火事				『宇都宮市史』近·現代編Ⅱ(宇都宮市、
1002	-	100 than	\rightarrow	ナ 故	7 10 14		て英見も正如	 5月26日雷雨により上総国八幡町落雷死傷者あり、同日木更津降雹著しく積量2寸。	1981年)、283-289頁
		明治36 明治36		<u>千葉</u> 千葉	<u>その他</u> その他	雷雨 降雹	千葉県中西部 千葉県全域	5月26日雷雨により上総国八幡町洛雷死傷者あり、同日不更津降雹者しく積量2寸。 6月15日降雹により県下1000町歩被害す。	『千葉県気象災害史』 『千葉県気象災害史』
		明治36		神奈川	洪水	Prt Ek	<u>T表示主观</u> 箱根方面·松田·小田原	19月1日時報により張下100回) 被告す。 展内の7日から8日にかけての降水量は、箱根方面で200mm以上、松田・小田原で190mmと西部に多かったが、他の地域は100~130mmと少な、横浜では126.3mmであった。 この低気圧による被害は、降水量の多かった西部の河川が出水したためであった。 県の被害表では死者3、負傷者1、住家の全壊2戸、半壊5戸、橋梁流失2ヵ所、堤防決壊6ヵ所、山くずれ21ヵ所など (測候所気象雑纂、気象月報)	神奈川県災害誌(自然災害)』低気圧の 部
1903	8 19	明治36		千葉	竜巻	降雹	千葉県北東部(山武郡·匝瑳郡)	 8月19日降電旋風により山武郡13ヶ村被害反別4500町、負傷者1、潰家11棟、漁船の破壊、樹木の倒折の被害大、匝瑳郡内にて3村田畑被 賽500町歩。	『千葉県気象災害史』
1903	9 23	明治36		茨城県	洪水	1	北茨城市	古公郎 少。 大暴風雨、大北川氾濫し、北中郷村被害甚大	『北茨城市史』下巻
		明治36			豪雨		横浜市·久良岐郡·橋樹郡	横浜では、雨は21日から降り始めて22日までは降雨量はごく少なかったが、23日2時から11時まで強く、この9時間に128.4mmが降り、その後 弱まって14時に上んだ。 風は始め北東の風であったが、23日11時40分に南西に変わり強まり。15時には何世の風14.0m/sの最大風速を観測した。その後西に変わり 次第に弱まって、24日2時には止んだ。 県内の降水量は、小田原から茅ヶ崎にかけての海岸沿い、また厚木から戸塚にかけての地域、神奈川方面で100mm以内であったが、その ほかの各地は100mmを超え、箱根方面で170~180mm、横須賀で150mmと多かった。	

1903	10 1	明治36		神奈川	暴風		横須賀市	明治三六年一〇年一日から二日にかけての暴風雨では横須賀町内で死者八人・重傷者一人、全壌三株・半壌二株・床上浸水四〇戸・床下 浸水一五〇〇戸という被害を生じた。被害者の多くは断崖が崩れたことで、生き埋めになった者である。三浦郡内でも死者は二五人を数えた (『神奈川県気象災害誌』)。この災害に際しては被災者に対する弔意見舞金の募集があり、横須賀陸軍将校や婦人会をはじめ郡内の各町 村有志から離出された義援金が配分されている(「明治36~38年 町村長会同二関スル書類」旧浦郷村)。このような災害時の義援金は明治 時代の初期から見られるものである。	
1903	10 2	明治36		神奈川	豪雨		三浦郡	三浦半島の雨量は多く240mm内外であったが、県の内陸部では200mmに達せず、相模湾沿いの県の中央部では100mmに達しない所もあった。この結果、三浦郡では死者25人、負傷者7人を出し、家屋、船舶、堤防の被害など非常に大きなものがあった。 (気象月報)	『神奈川県災害誌(自然災害)』低気圧の 部
1903	12 3	明治36		神奈川	火事		横浜市	焼死者2、全焼100戸、半焼12戸 3日21時50分頃横浜市干歳町3丁目39番地から出火、西風強く三吉町3丁目2丁目および千歳町2丁目を焼く。夜半過ぎの0時30分鎮火。 (東京日々新聞)	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部
1903	12 3	明治36		神奈川	火災		三吉町3丁目		『横浜近代史総合年表』
1903	12 19	明治36		神奈川	火事		横浜市	全焼128戸, 半焼11戸, 負傷者5名 19日11時43分横浜市羽衣町1丁目18番地劇場羽衣座から出火, 羽衣町1丁目蓬来町1丁目, 2丁目を焼き13時30分鎮火。 (東京日々新聞)	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部
1903	12 19	明治36		神奈川	火災	羽衣座火災	蓬莱町1丁目	全焼111戸	『横浜近代史総合年表』
1904	7 8	明治37		群馬	洪水	台風	県全域	大暴風雨、全県下桑園被害1329町702800円	『群馬県気象災害史』
1904	7 9	明治37		神奈川	洪水		県中部〜北西部・相模川支流	て多量の降雨があった。 この台風と雷雨による被害は、主に河川の氾らん、決壊による水害であり、相模川の支流に多く、10日と12日の二度にわたる出水に見舞われた地域もあった。 県の被害表では死者7、負傷者3、行方不明1、住家の全壊23戸、半壊23戸、流失7戸、床上浸水878戸、橋梁の流失339ヵ所、堤防の決壊 410ヵ所、田畑の流失4498町歩、山ぐずれ1360ヵ所など。 (測候所雑纂、気象月報)	『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部
1904	7 11	明治37		神奈川	洪水		海老名市	目久尻川漲溢シ被害多シ。(萩原静夫『海老名村郷土年表』1984より作成)	『海老名市史8 通史編 近代·現代』
1904	7 12	明治37			暴風雨		鶴見川		『横浜近代史総合年表』
1904	7 13	明治37		茨城県	洪水		鉾田町	北浦が増水、水田水没	『鉾田町史』通史編・下巻
1904	7 13	明治37		千葉	洪水		千葉県北部(利根川)	7月13日利根川12尺出水。	『千葉県気象災害史』
1904	9 15	明治37		群馬	洪水	台風	県全域	富士見村にて死者1名(富士見村) 芳賀村、利南村、朱之瀬村、薄根村でも被害 桑園被害1011町615700円	『群馬県気象災害史』
1904	9 20	明治37		群馬	洪水	台風		薄根村	『群馬県気象災害史』
1905	2 15	明治38	\perp	神奈川		1	英町	太田小学校1棟、26戸全焼	『横浜近代史総合年表』
1905	4 27	明治38		神奈川	火災	相生座火災			『横浜近代史総合年表』
1905	6 22	明治38	-	神奈川 茨城県	火災 暴風雨		南仲通3丁目		『横浜近代史総合年表』
1905		明治38				+	多賀郡・北茨城市	多賀郡の諸村被害甚大、助川・磯原間の線路破壊、大北川大洪水、北中郷村被害甚大	『茨城県史年表』、『北茨城市史』下巻
1905	8	明治38		<u> 千葉</u>	その他	冷夏 水害を併発	<u>千葉県全域</u>	8月寒冷、本県では平均より4度位い低かった。	『千葉県気象災害史』 『栃木県史通史編』第七巻、51-53頁
1905	_	明治38		栃木	暴風	水害を併発	栃木県	不作による米価上昇。	栃木県史通史編』第七巻、51-53貝
1905 1906	1 11	明治38		栃木 神奈川	その他 水害	冷害、凶作			『いまいち市史』通史編 V (今市市、2005 年)、308-311頁 『横浜近代史総合年表』
		明治39		東京	洪水	明治39年水害(1)	東京府下	低気圧に伴う異常降雨により隅田川など河川が氾濫、浸水家屋1.800余戸	『東京の消防百年の歩み』
		明治39		埼玉	火事	明治33年水台(1)	吹上町		『吹上町史』
		明治39		東京	火事	本郷区根津藍染町火災		栄産より出火、全焼112戸、焼損面積13,134平方メートル	『東京の消防百年の歩み』
		明治39		神奈川	その他	雹(ひょう)	海老名市	大二電子開発する。	『海老名市史8 通史編 近代・現代』
	5 24	明治39		埼玉	その他	2 (0 % 2/	八潮市域	八瀬市域で広く水不足による旱魃が発生。	『八潮市史』通史編Ⅱ
1906	5	明治39		栃木	火事		7 (14)1117-96	A MAILING CHAIN TO THE PARTY SOLED	『宇都宮市史』近·現代編Ⅱ(宇都宮市、 1981年)、283-289頁
1906	7 14	明治39		神奈川	豪雨		津久并郡	低地はたちまち湖のようになり、山から流れる雨水は土砂を押し流し、道路は川のごとく雨水が流れた。また山岳部では所々で山くずれが起った。雨はその後も断続的に降り16日17時頃ようやく止んだ。 この豪雨による被害は津久井郡に集中し、中野を中心に鳥屋・青山・長竹の各地の被害が最も大きかった。しかし被害地域は相模川の支流域にとどまった。本流では最高水位が1.4mに達したにすぎず被害はなかった。 県の被害表では死者1、負傷者3、住家の全壌3戸、半壌2戸、流失3戸、橋梁流失45ヵ所、堤防決壌27ヵ所、山くずれ50ヵ所など。 (測候所気象雑纂、気象月報、気象要覧)	『神奈川県災害誌(自然災害)』低気圧の 部
1906	7 14	明治39		群馬	洪水	前線	県全域	渡良瀬川、小平川北流、田畑流失、山崩(山田郡) 渡良瀬川、小平川北流、田畑流失、山崩(山田郡) 渡良瀬川、本海村西谷田村にて341間破堤、住宅流失13戸、前回18戸、半壊2戸、床上浸水1757戸、床下浸水951戸、被害反別64町、農作 物損害高766000円(色楽郡) 新治村浅地郡落連日の降雨、山崩地滑り、山津波起こる。住家の流失埋没6、耕地の埋没5反、住家の半潰土砂浸水10、耕地の流失1町、 橋梁の流失9ヶ所、その他山林の流失道路堤防の破壊などあり(新治村) 桃野村赤谷川流域にて堤防決壌40間破損185間、田畑流失埋没8町3反、畑流失5町、住家崩壊1戸、非住家流失6棟、道路決壊71ヶ所、橋 梁流失45ヶ所、損害総額5861050円(桃野村) 利南村、永之瀬村、海根村でも被害 群馬郡下1500町流失	『群馬県気象災害史』
1906	7 15	明治39		茨城県	霖雨		茨城県	17日にかけ降雨、利根川・鬼怒川・権現堂川・久慈川などの堤防決壊18か所	『茨城県史年表』、『古河市史』通史編
1906	7 16	明治39		山梨	洪水		笛吹川流域、釜無川流域、富士川流域	7月15日より降雨あり16日にも雨脚激しく、出水となる。	『山梨県水害史』
1906	7 17	明治39		千葉	洪水		千葉県北西部(利根川·江戸川)	7月17日利根川関宿15尺、利根運河口30尺9寸5分、富勢15尺3寸出水、江戸川関宿18尺、野田13尺6寸、利根運河口29尺2寸1分、松戸12尺 8寸出水。	『千葉県気象災害史』
1906	7 18	明治39		神奈川	火事		横浜市	境失戸数約595戸, 負傷者8名 18日17時20分横浜市根岸町相沢付近より出火, 20時すぎ鎮火。 (日本火災史, 横浜歴史年表, 東京日々新聞)	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部

1906 7	18	明治39	神奈川	火事		横浜市	18日17時20分頃、根岸町3084番地付近から出火したが、ここは通称相沢と言われる所で、労働者達の部落であって、出火時刻にはまだ青年・壮年の働き手は稼業に出て居たため、老人・小児のみで、消火に手間どり、また家屋も多くは板量のため、延焼も基だ早かった。その上夕刻のことで下町方面で水道を多量に使用していたためか、水の出も悪く、わずかに下水道用の小川や井戸水で消防する状況であった。このため消防は一層手間どり、3時間近くも燃え続け20時すぎに鎮火した。被害状況は焼失戸数が根岸町の一部・山元町1丁目8番地から同町31番地まで595戸、負傷者が消防夫5人など。(日本火災史、東京日々新聞、横浜歴史年表)	『神奈川県災害誌(自然災害)』大火の部
		PD 1/1	+++++10	887		155 単に 207 ユー サイ 中 ユユ	THE CHARLES IN	
1906 7	26	明治39	茨城県	暴風雨		稲敷郡本新島村	利根川堤防決壊	『茨城県史年表』
1906 7	26	明治39 明治39 7	東京	洪水	明治39年水害(2)	赤坂、本所、小石川、浅草など	台風により赤坂、本所、小石川、浅草などが浸水被害、浸水家屋5.800余戸、7月26日~29日まで	『東京の消防百年の歩み』
1906 7		明治39 7	千葉 茨城県	洪水 洪水		手賀沼周辺	大雨、利根川出水、布佐江蔵地·布川等破堤。	『手賀沼周辺の水害』
1906 8		明治39	次城県			行方郡	行方郡一体の田畑水没、被害額4万7400円、浸水家屋552戸	『鉾田町史』通史編・下巻
1906 8	11	明治39	栃木	火事				『宇都宮市史』近·現代編Ⅱ(宇都宮市、
L			11.00					1981年)、283-289頁
1906 8	24	明治39	神奈川	暴風		横浜市·都築郡·橋樹郡	東部を中心に風雨による被害が多く、また台風の通過時に中心に近かった三浦半島では風による被害が多く県西部では被害はほとんどなかった。 鶴見川、片瀬川、柏尾川、花水川では橋梁の流失、破損が多く、とく「鶴見川では上流で堤防が決壊し都築郡、橋樹郡(現在の緑区・港北区一帯)が洪水となった。 様、港内では風による被害が多く船舶の流失、沈没が34隻におよび、米国磁力測定船ガレリー号は船首が燈標に乗り上げ船尾が沈没した。	『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部
1906 8	24	明治39	神奈川	暴風雨				『横浜近代史総合年表』
1906 8	24	明治39	千葉	暴風	台風	千葉県全域	8月24日、25日両日台風により鉄道線路・橋梁、家屋の破損、船舶の難破多く、洪水、山崩、家屋の浸水多数。	『千葉県気象災害史』
		明治39	東京	洪水	明治39年水害(3)	麹町、本所、芝、赤坂、小石川区	大雨による下水の氾濫などにより、麹町、本所、芝、赤坂、小石川で浸水被害、浸水家屋5,500余戸、8月24日~25日まで	『東京の消防百年の歩み』
1906 8		明治39	千葉	洪水	777 == 1 -7 - 2	手賀沼周辺	8-9月にも利根川出水。	『手賀沼周辺の水害』
	0 4	明治39	群馬	洪水			薄根村	『群馬県気象災害史』
1906	T	明治39	埼玉	洪水	1	北足立郡		『北足立郡誌』
1906		明治39	栃木	洪水	1		特に大規模な被害	『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁
1906		明治39	栃木	洪水				『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、 1987年)、495-497頁
1906		明治39	栃木	洪水				『日光市史』下巻(日光市、1979年)、408
1906		明治39	栃木	洪水	洪水被害を併発	御厨、山辺、梁田、久野、筑波五か村		『近代足利市史』第二巻、211-214頁
1907 3	22	明治40	千葉	暴風		千葉県全域	3月22日大陸颱風により関東地方南部に於て道路の破損、家屋の倒潰、人畜の死傷あり。漁船又は船舶の遭難多し。	『千葉県気象災害史』
		明治40	神奈川	暴風		小田原	小田原以南の沿岸海上で船舶の連難あり。沈没帆船3、漁船4、溺死者3、傷者5 石垣島付近より北上し、南岸沿いに進んだ低気圧による。横浜の記録(P)993.1, (V)14.0, (D)NNW (気象月報、気象要覧)	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部
1907 4	11	明治40	神奈川	その他	ひょう害・突風害	津久井郡·愛甲郡·高座郡	降ひょうのあった地域は広く 愛甲郡、中郡、鎌倉郡、久良岐郡、足桥上郡、足桥下郡の一部と三浦郡の一郡、高座郡、橋樹郡、都築郡の各郡にわたった。最も被害のあったのは津久,井郡から愛甲郡の煤が谷をへて厚木から高座郡にいたる間で降ひょうは1時間も続き、この間15分間は大きいもので直径3.3m位のものがあった。このため野菜や桑にかなりの被害が出たが、当時の額にして6~7万延の被害であった。高z郡綾瀬村では突風とともに「たつまき」が発生し全壊家屋7棟、小破10数棟の被害を出し、負傷者1人を出した。 (気象月報、気象要覧)	『神奈川県災害誌(自然災害)』低気圧の 部
1907 6	15	明治40	神奈川	その他	落雷	津久井郡・中郡・高座郡・都築郡	落雷5ヶ所、死者1、傷者1、非住家焼失1 落雷個所、津久井郡2、中郡、高座郡、都築郡各1 18時頃から21時にかけ、前後して雷雲が県下を通過、多摩川沿いを東へ移動したものと、小仏領方面より相模川流域に沿い相模灘に出たも のによる落雷が強かった。 (気象月報)	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部
1907 7	3	明治40	茨城県	火事		東茨城郡常磐村・水戸市	188戸焼失、死者3	『茨城県史年表』
1907 7	17	明治40	埼玉	豪雨		三郷市域	初表 ・江戸 が増水し、周辺地域に湛水。江戸川の対岸(流山)が破堤。	『三郷市史』通史編Ⅱ
1907 8	1/	明治40	群馬	洪水	4日	吾妻郡、県南西部	台風は紀伊半島より北上し、日本海に抜ける、降水量(14~15日)前橋44.1、下仁田354.3、万場230.7、応桑142.2	『群馬県気象災害史』
1907 8			東京	洪水	明治40年水害	東京府下	連続3回の台風により荒川、多摩川など河川が決壊、浸水家屋58315戸、8月22日~28日まで	『東京の消防百年の歩み』
1907 8			神奈川	洪水	77/470-77/18	模浜市・模須賀市・三浦半島を除く各地	2個の台風が本州の南方沖に停滞し、南岸沿いの各地に多量の雨を降らせた。 21日から27日までの総降水量は、横浜では163.6mmであったが、県北西部では250~300mmであり、山岳部では500mmを越えた所もあった。 この台風による被害は主に水害で、横浜市、横須賀市、三浦半島をのぞいた各地で河川が決壊し大洪水を起した。また、湯河原町の吉浜で は高浪による被害があった。 県の被害表では死者6、負傷者51、行方不明2、住家の全壊25戸、半壊51戸、流失48戸、床上浸水5352戸、橋梁の流失230ヵ所、堤防の決壊 213カ所、山(ずれ242ヵ所など。 (測候所雑纂、気象月報)	『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部
1907 8	23	明治40	群馬	洪水	台風	県全域	渡良瀬川広沢村宇三唐川用水路壊滅(山田郡) 渡良瀬川海老瀬村仲谷田にて8間随媒(住家全域24戸、半域3戸、床上浸水1920戸、床下浸水1016戸、被害額10090円(邑楽郡) 桐生市広瀬毛里田洪水、堤防の決壊家屋の流失多く、農作物被害13765町	『群馬県気象災害史』
						海老名市	相模川大洪水。1907年の大洪水の際は「相模川増水一丈七尺五寸(厚木渡津二設置シアル水量標二ヨリ), 遂二午前八時堤防ノ決潰五十間	DE 4 5 4 4 4 5 7 4 7 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10
1907 8	24	明治40	神奈川	洪水	相模川大洪水	海仑在印	一ヶ所(中部)濁流滔々トンテ通学区域内全般ニ漲溢シ、為メニ本校モ床下一尺二寸/浸水で被ムルニ至レリと尋常啓蒙州学校の日誌にあり、通学区域内111戸中浸水家屋109戸を数えた(『教育資料1』)。 相撲川大洪水、泥土ヲ沖積スルコト夥シク農作物ノ被害甚シ、此秋ヨリ翌年ニ渉リテ堤防ノ大工事アリ。(萩原静夫『海老名村郷土年表』 1984より作成)	海老名市史8 通史編 近代・現代。
1907 8	24			洪水 暴風雨 洪水	相模川大洪水	利根川・荒川流域	ーケ所(中略)濁流滔々トシラ通学区域内全般ニ漲溢シ、為メニ本校モ床下一尺二寸ノ浸水ヲ被ムルニ至レリ」と尋常啓蒙小学校の日誌にあり、通学区域内111戸中浸水家屋109戸を数えた(『教育資料1』)。 相模川大洪水、混土ヲ沖積スルコト夥シク農作物ノ被害甚シ、此秋ヨリ翌年ニ渉リテ堤防ノ大工事アリ。(萩原静夫『海老名村郷土年表』 1984より作成) 21日からの暴風雨で河川が増水し堤防が決壊。	『横浜近代史総合年表』 『新編埼玉県史』通史5、『新編埼玉県
1907 8 1907 8	24 24	明治40 明治40	神奈川埼玉	暴風雨洪水	明治40年水害	利根川·荒川流域	一ヶ所(中略)濁流滔々トシラ通学区域内全級ニ漲溢シ、為メニ本校モ床下一尺二寸ノ浸水ヲ被ムルニ至レリ」と尋常啓蒙小学校の日誌にあり、通学区域内111戸中浸水家屋109戸を数えた(『教育資料1』)。 相模川大洪水、泥土ヲ沖積スルコト夥シク農作物ノ被害甚シ、此秋ヨリ翌年ニ渉リテ堤防ノ大工事アリ。(萩原静夫『海老名村郷土年表』1984より作成) 21日からの暴風雨で河川が増水し堤防が決壊。	『横浜近代史総合年表』 『新編埼玉県史』通史5、『新編埼玉県 史』別編4自然
1907 8 1907 8	24 24 24	明治40 明治40 明治40	神奈川 埼玉	暴風雨 洪水 洪水	明治40年水害	利根川·荒川流域 利根川·荒川流域	ーケ所(中略)濁流滔々トシラ通学区域内全般ニ漲溢シ、為メニ本校モ床下一尺二寸ノ浸水ヲ被ムルニ至レリ」と尋常啓蒙小学校の日誌にあり、通学区域内111戸中浸水家屋109戸を数えた(『教育資料1』)。 相模川大洪水、混土ヲ沖積スルコト夥シク農作物ノ被害甚シ、此秋ヨリ翌年ニ渉リテ堤防ノ大工事アリ。(萩原静夫『海老名村郷土年表』 1984より作成) 21日からの暴風雨で河川が増水し堤防が決壊。	『横浜近代史総合年表』 『新編埼玉県史』通史5、『新編埼玉県 史』別編4自然 『埼玉県警察史』1
1907 8 1907 8 1907 8	24 24 24 24	明治40 明治40 明治40 明治40 明治40	神奈川 埼玉 埼玉	暴風雨 洪水 洪水 洪水	明治40年水害	利根川·荒川流域 利根川·荒川流域	一ヶ所(中略)濁流滔々トシラ通学区域内全般ニ漲溢シ、為メニ本校モ床下一尺二寸ノ浸水ヲ被ムルニ至レリ」と尋常啓蒙小学校の日誌にあり、通学区域内111戸中浸水家屋109戸を教えた(『教育資料1』)。 相模川大洪水、混土ヲ沖積スルコト夥シク農作物ノ被害甚シ、此秋ヨリ翌年ニ渉リテ堤防ノ大工事アリ。(萩原静夫『海老名村郷土年表』1984より作成) 21日からの暴風雨で河川が増水し堤防が決壊。 南海上の2つの台風の影響で県内の河川が増水し、各地で破堤・浸水。	『横浜近代史総合年表』 『新編埼玉県史』通史5、『新編埼玉県 史』別編4自然 『埼玉県警察史』1 『埼玉県で政史』1
1907 8 1907 8 1907 8 1907 8 1907 8	24 24 24 24 24 24	明治40 明治40 明治40 明治40 明治40 明治40	神奈川 埼玉 埼玉山梨	暴風雨 洪水 洪水 洪水 洪水 洪水	明治40年水害 明治40年水害 明治40年水害 明治40年水害	利根川·荒川流域 利根川·荒川流域 利根川·荒川流域 利根川·荒川流域 山梨県全域	一ヶ所(中略)濁流滔々トシテ通学区域内全般ニ涨溢シ、為メニ本校モ床下一尺二寸ノ浸水ヲ被ムルニ至レリ」と尋常啓蒙小学校の日誌にあり、通学区域内111戸中浸水家屋109戸を数えた(『教育資料1』)。 相模川大洪水、泥土ヲ沖積スルコト夥シク農作物ノ被害甚シ、此秋ヨリ翌年ニ渉リテ堤防ノ大工事アリ。(萩原静夫『海老名村郷土年表』1984より作成) 21日からの暴風雨で河川が増水し堤防が決壊。 南海上の2つの台風の影響で県内の河川が増水し、各地で破堤・浸水。 8月22日から26日まで大雨降り続き、大洪水となる。死者233人。家屋全壊1267戸、半壊1728戸、流失4500戸、浸水1万5157戸、堤防決潰5万4910間。道路流失埋没15万4369間。	『横浜近代史総合年表』 『新編埼玉県史』通史5、『新編埼玉県 史』別編4自然 『埼玉県紫史』1 『埼玉県行政史』1 『山梨県水書史』
1907 8 1907 8 1907 8 1907 8 1907 8	24 24 24 24 24 24 25	明治40 明治40 明治40 明治40 明治40	神奈川 埼玉 埼玉	暴風雨 洪水 洪水 洪水	明治40年水害	利根川·荒川流域 利根川·荒川流域	一ヶ所(中略)濁流滔々トシラ通学区域内全般ニ涨溢シ、為メニ本校モ床下一尺ニ寸ノ浸水ヲ被ムルニ至レリ」と尋常啓蒙小学校の日誌にあり、通学区域内111戸中浸水家屋109戸を数えた(『教育資料1』)。 相模川大洪水、泥土ヲ沖積スルコト夥シク農作物ノ被害甚シ、此秋ヨリ翌年ニ渉リテ堤防ノ大工事アリ。(萩原静夫『海老名村郷土年表』1984より作成) 21日からの暴風雨で河川が増水し堤防が決壊。 南海上の2つの台風の影響で県内の河川が増水し、各地で破堤・浸水。 8月22日から26日まで大雨降り続き、大洪水となる。死者233人。家屋全壊1267戸、半壊1728戸、流失4500戸、浸水1万5157戸、堤防決済5万	『横浜近代史総合年表』 『新編埼玉県史』通史5、『新編埼玉県 史』別編4自然 『埼玉県警察史』1 『埼玉県警察史』1

#TVL 機能的に受し、大きの場合に対して、大きのかったが、多少の地質があった。										
1977 1978 1979	1907 8	8 26	明治40	東京	京	洪水	明治40年水害	多摩川流域	(1959)水害を上回り、全川わたって甚大な被害を受けた。調布村字友田の堤防1ヶ所・字下菅の堤防50間・他200間破壊。小宮村堤防40間	『多摩川誌』
1950 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1907 8	B 27	明治40	売り	成県	洪水		茨城 県	利根・小目面川の増水により生な沼への逆流が発生	『伊奈町近代・現代史在表』
1972 1972 1980 中央 東京 中東 property 中央 property 中央 property 中央 property 中央 pr	1907 8	R Z	明治40						8月下旬台風、利根川稀なる大水、湖北村野防決壊。	『手賀沼周辺の水害』
1907 19 19 19 19 19 19 19 1				主	ŧ.	洪水			9月2日香取郡八筋川地先堤防決潰し、十六島田圃悉く被害す。然れども早稲は概ね苅取りたるを以て多少の損害を免るを獲たり。	
### 1970	1907 9	9 13	明治40	神多	奈川	火災	東福寺			『横浜近代史総合年表』
野田の 野田	1907	9 17	明治40					横浜市・県東部	部でも,時間的に集中して降水があったため,多少の被害があった。 また、国府津附近では、高波が押し寄せ、浸水し道路破損の被害があった。 県の被害表では死者14,負傷者5,住家の全壊10戸,半壊4戸,流失2戸,床上浸水586戸,橋梁の流失112ヵ所,堤防の決壊111ヵ所,山くずれ140ヵ所など。	『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部
日本の		9 19	明治40 明治40					茨城県	県内の各河川氾濫、那珂川堤防決壊	『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、
特別の	1007	_	DB:640	±€-	-	2# ak				
1986 1987 1988 大変 大変 大変 大変 大変 大変 大変			明治40	栃之	<u></u> ★	火事	鹿沼町大火			『鹿沼市史』後編(鹿沼市役所, 1968
1956 1 1 市会社 十字 本芸 本芸 本芸 本芸 本芸 大芸 大芸 本芸 本			明治41						国分寺から出火、強風にあおられ150戸焼失	『石岡市史』下巻
1980 19 日から 1985 198	1908 3	3 7	明治41	一一手	差	暴風			3月7日、8日の両日台風により漁船船舶の遭難多し。	『千葉県気象災害史』
100 1 10 10 10 10 10 10				埼.	<u> </u>	蒙雪		- 埼玉県内 茶城県	家雪で家産団級が発生。 早月市に上山の日川崎東	新編埼玉県史 別編4日然
1909 1 9月24 9月24 9月25 9月25 9月24 9月25 9	1908 4	4 30	明治41			除雪				
1950 日 2 9時44									雷爾と雷で農作物に被害。	『騎西町史』
1990 1 日 1994		6 3	明治41	栃刀	†	火事				
1900 2 7 明治41 神奈川 泰田 春根 辞根 辞報 辞報 辞報 辞報 辞報 辞報 辞							ne			
技術の企業業化・名言葉から成熟(中の計画) 1992 1 1992 1 1993	1908	6 8	明治41				降雹		6月8日関東各地に降電あり、千葉県下950町に被害あり。	『千葉県気象災害史』 『始本川県災害は(白鮮災害)』年末9年
1988 8 第京会1 対象性 対象	1908 8	в /	明石41	神	宗川	恭風		相依	琉球から北東進し名古屋から佐渡にぬけた台風による。横浜の記録(P)985.7, (V)13.6, (D)S (気象要覧, 東京日々新聞)	神宗川県災苦誌(日然災苦川平衣2部
特会						暴風	台風	千葉県沿岸部	8月7日、8日の両日台風の通過により、房州沖にて汽船沈没。	
17日分割野馬県南部に発生川路、東京付近を経て改半すぎ横浜に達し、房総半島を掘りつて海上を去の企業部による。 (京楽奏祭) 「横浜近代東島合作型) 「横浜近代東島合作型) 「横浜近代東島合作型) 「横浜近代東島合作型) 「横浜近代東島合作型) 「横浜近代東島合作型) 「横浜近代東島合作型) 「横浜近代東島合作型) 「横浜近代東島合作型) 「横浜近代東島会生型) 「横浜近代東島会生図) 「横浜近光東島会生図) 「横浜近光東島会生図) 「横浜近代東島会生図) 「横浜近代東島会生図) 「横浜近代東島会生図) 「横浜近代東島会生図) 「横浜近代東島会生図) 「横浜近代東島会生図) 「横浜 原屋 「横浜近路」」 「大水町上、大山路」」 「横浜近路」」 「大水町上、大山路」」 「横浜近路」」 「大水町上、大山路」」 「大地路」」 「大地路」」 「大地路」」 「大地路」」 「大地路」」 「大地路」」 「大地路」」 「大								1000		『群馬県気象災害史』
1989 29 明治41 神疾川 水寒 鶴泉川 海馬近後発音を見 福馬近代発起合を表 福馬近代表 福馬近代表 福馬近代発起合を表 福馬近代表 福度近日表	1908	8 17	明治41	神	奈川	その他	落雷	横浜•神奈川	17日夕刻群馬県南部に発生川越,東京付近を経て夜半すぎ横浜に達し,房総半島を横切って海上を去った雷雲による。	『神奈川県災害誌(目然災害)』年表2部
1990 12 9 12 19 12 19 12 19 12 19 13 19 12 19 13 13	1908	9 18	明治41	神多	奈川	水害				『横浜近代史総合年表』
1909 3 13 明治42 神奈川 地震 横浜地方 横浜地方 横浜地方 横浜地方に健康の的橋 東京建樹の破損等移し負傷者数名。 神奈川県災害族(自然災害) 横浜地方に健康の制御人民建樹の砂積等移し負傷者数名。 神奈川県災害族(自然災害) 「神奈川県災害族(自然災害) 「東京県治産参判の 東京地高報報) 「東京県治産参判の 東京地高報報) 「東京県治産参判の 東京地高報報) 「東京県治産多り、東京海治産多り、東京海治産多り、東京海治産多り、東京海治産多り、東京海治産多り、東京海治産多り、東京海治産多り、東京海治産多り、東京海治産の 東京県治産・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・	1908	9 29	明治41	神多	奈川	水害		鶴見川		『横浜近代史総合年表』
1909 3 13 明治42 神奈川 地震 横浜地方 横浜地方 横浜地方に建築のの積積を設定と1412 度度と 1412 度度	1908 1	12 20	明治41	神	奈川			高島町	達磨船焼失	『横浜近代史総合年表』
1890 5 23 明治42 神奈川 火事 横須賀市 根須賀市 13時4の分類検測であら出た、火作市内の四方に広がった。若松田大田では、一次の音を発失。さらに出ま可に延伸、市内の四方に広がった。若松田大田では、「持奈川県災害誌(自然災害)」 1890 7 3 明治42 増集 地震 地震 地震 地震 地震 地震 地震 地	1909 3	3 13	明治42					横浜地方	横浜地方では煙突の倒壊,煉瓦壁の崩壊又は屋根の破損等夥しく負傷者数名。 震央は房総沖13日23時30分発震N35.2 E141.2 震度4	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部
1999 5 23 明治42 神奈川 火事 横須賀市 13時40分類模類 前来他可23番地付近から出火し、折からの強い精果無にあおわれ、火は市内の四方に広がった。若松東直管 前院業 船橋地に 17時4分別した。この際が上に、であまたは、火は下内の四方に広がった。若松東直管 前院業 船橋地に 17時4分別した。この際が上間で消 防険 船橋地に 17時4分別した。	1909 3	3 13	明治42	千美	葉	地震		千葉県全域	3月13日房総半島に強震2回あり。東京湾沿岸多少の被害あり。	『千葉県気象災害史』
1909 8 20 別治42 群馬 洪水 雷雨 山田郡 12日夜上り大雷雨、渡良瀬川山田川橋梁流失5(山田郡) 『群馬県気象災害史』 1909 8 20 別治42 群馬 洪水 県内各地 東西により、横張夫10 (象を撃116号) 第4年 日本 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東				神美					13時40分頃横須賀市若松町23番地付近から出火し、折からの強い南東風にあおられ、火は市内の四方に広がった。若松町をはじめとして 大滝町の全部を挟失、さらに山王町に延焼し、市内の目貫きの場所を焦土と化し、17時45分鎮火した。この際横須賀鎮守府では海兵団で消 防隊を組織して消火に努力した。 被害状況は焼失戸数589月、罹災者約4000人、焼失面積約2万坪、被害総額約400万円、負傷者約70人(軽傷者のみ主に消防夫)など。火 災の原因は若松町23番地、三次精米所の精米器械の石油発動機鉄管破損によって石油が漏出し、引火した。	『神奈川県災害誌(自然災害)』大火の部
1999 8 1994 1995 1	1909	7 3	明治42	埼.	£	地震		不明		『新編埼玉県史』別編4自然
1909 8 20 明治42 千葉 その他 落雷 我孫子 8月20日布佐町に落雷による影電死あり。 『千葉県気象災害史』 『千葉県気象災害史』 『千葉 表本 野治42 千葉 決水 野治42 千葉 決水 手質沼周辺 連続階画、手質次子。 横浜においては27日1時頃から雨が降り出し、2時頃には相模適付近に現われた小低気圧により雨勢は強まり、2時から時までの4時間の雨 「千葉川県災害誌(自然災害)」 1909 9 26 明治42 神奈川 東木で83万冊で大雨は乗中的に鎌倉部付近で降ったものであった。 一点であった。 このため相尾川は氾濫・要権は流失した。水の引いたのは29日になってからであった。 県の被害表では死者 負傷者15、住家の全壊1戸、半壊1戸、床上浸水89戸、橋梁流失20ヵ所、堤防決壊6ヵ所、山くずれ57ヵ所など。 「栃木県史通史編』第七巻、688 1910 3 12 明治43 茨城県 暴風書 太平洋沿岸地域 漁船大運輸(漂着51艘、軽破13艘、行方不明24艘、生死不明554名 「液域県史年表」 1910 3 12 明治43 千葉 暴風 鉄子沖 第月2日銚子沖に於て沿海漁船連載の三次あり。当時恰も鯖の漁期にして人々夜を侵して出漁し犬吠岬沖合20海里内外の洋上に作業中午前11時天候街に変し、颶風雪を巻きて襲来し漁船は激浪の翻弄する所となれり。福折れ槓挫け渺茫無涯の洋上に漂流するもの漁船3隻、「本菜川県災害誌(自然災害)」 「海奈川県災害誌(自然災害)」 「海奈川県災害誌(自然災害)」 「海奈川県災害誌(自然災害)」 「海奈川県災害誌(自然災害)」 「海奈川県災害誌(自然災害)」 「海奈川県災害誌(自然災害)」 1910 3 19 明治43 神奈川 火事 横浜市 全半焼戸数520 負傷者23 長板9520 負傷者23 長板953(大円1054人の多を)と、の時50分出火5時20分鏡火。当時南西風強し。19 「神奈川県災害誌(自然災害)」 日海次の気が(Meman)55 ((D)800 (RHmean)54 日本のより。 日本のより。 日本のより。 日本のより。 日本の大り。 日本のより。 日本の大り、 日本のより。	1909 7	7 13	明治42		馬		雷雨	山田郡		
1909 8 明治42 千葉 洪水 手質沼周辺 連続陸順、手質沼水害。 「神奈川県災害誌(自然災害)」 1909 9 26 明治42 神奈川県災事 横浜市野毛町3丁目94番地から出た。26 明治42 神奈川県災事 横浜市野毛町3丁目94番地から出火。野毛町3丁目94では195、10円のは195、10円のは195 1910	1909 8	8 20	明治42				***		豪雨により、橋梁流失10(気象変質116号)	『群馬県気象災害史』
1909 9 26 明治42 神奈川 泰雨 鎌倉郡 横浜においては27日1時頃から雨が降り出し、2時頃には相模湾付近に関われた小低気圧により雨勢は強まり、2時から時までの4時間の雨 『神奈川県災害誌(自然災害)』	1909 8	B 20	明治42	一 一 千美	¥		洛雷			『十条県気象災告史』
量はオ79smに達し、その後両は弱まり15時頃に両は止んだ。総降水量は、横浜で140mmであったが戸塚では300.9mm、横須賀では 67.4mm、厚木で83.5mmで大両は集中的に鎌倉郡付近で降ったものであった。 このため柏尾川は氾濫し豊橋は流失した。水の引いたのは29日になってからであった。 県の被害表では死者1、負傷者15、住家の全壊1戸、半壊1戸、床上浸水89戸、橋梁流失20ヵ所、堤防決壊6ヵ所、山くずれ57ヵ所など。 1908 明治42 栃木 その他 凶作 栃木県・通学経験は第一条 (別候所気象雑纂、気象月報、気象要覧) 「栃木県史通史経順第七巻、68: 1910 3 12 明治43 茨城県 暴風雪 太平洋沿岸地域 漁船大遭難(漂着51艘、難破13艘、行方不明24艘、生死不明554名 「茨城県史年表」 「坂太県史重表』 「坂太県史重表』 1910 3 12 明治43 千葉 暴風 銀子沖 3月12日銚子沖に於て沿海漁船遭難の三次あり。当時恰も鯖の漁期にして人々夜を侵して出漁し犬吠岬沖合20海里内外の洋上に作業中午 「千葉県気象災害史」 1910 3 19 明治43 神奈川 火事 横浜市 全半焼戸数20 負傷者23 横浜市野本町3丁目94番地から出火、野毛町3丁目 - 花咲町4丁目、5丁目福島町を焼失す。0時50分出火5時20分鏡火。当時南西風強し。19 「神奈川県災害誌(自然災害)」 「神奈川県・「北京」」 「神奈川県・「北京」」 「神奈川県・「北京」」 「神奈川県・「北京」」 「神奈川県・「北京」」 「北京」」 「北京」」 「北京」」 「北京」」 「北京」 「北京」 「北京」」 「北京」	1909 0	26	明治42			高雨			建筑座明、土具道小音。	丁貝沿向辺の小台。
1910 3 12 明治43 茨城県 暴風雪 太平洋沿岸地域 漁船大連難(漂着51艘、難破13艘、行方不明24艘、生死不明554名 『茨城県史年表』 1910 3 12 明治43 干菓 暴風 銀子沖 新月12日銘子中に於て沿海漁船連難の三次あり。当時恰も鯖の漁期にして人々夜を侵して出漁し犬吠岬沖合20海里内外の洋上に作業中午 千葉県気象災害史』 1910 3 19 明治43 神奈川 火事 横浜市 全半焼戸数520 負傷者23 長浜市野毛町3丁目94春地から出火、野毛町3丁目、花咲町4丁目、5丁目福島町を焼失す。0時50分出火5時20分鏡火。当時南西風強し。19 「神奈川県災害誌(自然災害)」 日積浜の気象(Vmean)9.5、(D)SW、(RHmean)54		. 20	21/1242	1142	ки	194 PM		with All 3 Self	量は77.9mmに達し、その後雨は弱まり15時頃に雨は止んだ。総降水量は、横浜で140mmであったが戸塚では300.9mm, 横須賀では 67.4mm, 厚木で83.5mmで大雨は集中的に鎌倉部付近で降ったものであった。 このため柱尾川は氾濫し豊橋は流失した。水の引いたのは29日になってからであった。 県の被害表では死者1, 負傷者15, 住家の全域1戸, 半壊1戸, 床上浸水89戸, 橋梁流失20ヵ所, 堤防決壊6ヵ所, 山くずれ57ヵ所など。	#
1910 3 12 明治43 茨城県 暴風雪 太平洋沿岸地域 漁船大連雑(売着51艘、難破13艘、行方不明24艘、生死不明554名 『茨城県生年表』 1910 3 12 明治43 干菜 暴風 鉱子沖 3月12日銚子沖に於て沿海漁船連難の三次あり。当時恰も鯖の漁期にして人々夜を侵して出漁し犬吹岬沖合20海里内外の洋上に作業中午『干菜県気象災害史』前11時天候根に変し、颶風雪を巻きて襲来し漁船は激浪の翻弄する所となれり。橋折れ楫挫け渺茫無涯の洋上に漂流するもの漁船83隻、漁夫1055人の多きに及べり。 1910 3 19 明治43 神奈川 火事 横浜市 全半焼戸敷520 負傷者23 日横浜市野毛町3丁目94番地から出火、野毛町3丁目 , 花咲町4丁目, 5丁目福島町を焼失す。0時50分出火5時20分鏡火。当時南西風強し。19 日横浜の気象(Vmean)9.5, (D)SW, (RHmean)54 『神奈川県災害誌(自然災害)』							凶作			『栃木県史通史編』第七巻、685-688頁
前11時天候俄に変じ、颶風雪を巻きて襲来し漁船は激浪の翻弄する所となれり。橋折れ楫挫け渺茫無涯の洋上に漂流するもの漁船83隻、 漁夫1055人の多きに及べり。 1910 3 19 明治43 神奈川 火事 横浜市 全半焼戸数520 負傷者23 横浜市野毛町3丁目94番地から出火、野毛町3丁目, 花咲町4丁目, 5丁目福島町を焼失す。0時50分出火5時20分鎮火。当時南西風強し。19 「神奈川県災害誌(自然災害)」 日横浜の気象(Vmean)9.5、(D)SW、(RHmean)54	1910 3	3 12	明治43	茨坝	成県	暴風雪		太平洋沿岸地域	漁船大遭難(漂着51艘、難破13艘、行方不明24艘、生死不明554名	
横浜市野毛町3丁目94番地から出火, 野毛町3丁目, 花咲町4丁目, 5丁目福島町を焼失す。0時50分出火5時20分鎮火。当時南西風強し。19 日横浜の気象(Vmean)9.5, (D)SW, (RHmean)54	1910	3 12	明治43	十五	#	暴風		銚子沖	前11時天候俄に変じ、颶風雪を巻きて襲来し漁船は激浪の翻弄する所となれり。檣折れ楫挫け渺茫無涯の洋上に漂流するもの漁船83隻、	『十葉県気象災害史』
	1910 3	3 19	明治43	神系	奈川	火事		横浜市	横浜市野毛町3丁目94番地から出火、野毛町3丁目, 花咲町4丁目, 5丁目福島町を焼失す。0時50分出火5時20分鎮火。当時南西風強し。19 日横浜の気象(Vmean)9.5、(D)SW、(RHmean)54	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部

1910 Is	110	明治43	神奈川	火事		横浜市	19日0時50分, 野毛3丁目(印刷業)より出火, 当時巡回中の都橋交番五味巡査が早速馳せつけ消火にあたったが折柄南西の激しい風に,	『神奈川県災害誌(自然災害)』大火の部
1910	, 18	7 191/043		ヘザ		11777 (1)	19日の時初の、野モも3 日日の明線末みの大・当時地画中の船橋を督工株地重が牛送地と3万月次にあたったのだったの間にかる開催の米屋結城屋及び村田方に燃え着り、更に次の手は風下へ風下へと延びて、野毛通りまでなめつくしていった。このころ警務部では戸部署及び伊勢佐木署管内の巡査の非常招集を行ない、また加賀 伊勢佐木、寿町、神奈川、山手の各蒸気ポンプと300余名の消防大が必至の消火作業に当たったが南西の風がますます吹き荒れ、火の勢いも以前に数倍の強さで付近に飛火し、ついに野毛町、花咲町、福島町などを次々に焼失し、重軽傷者23名を出してようやく5時20分鏡火した。全半焼戸数は520戸。火災の原因は火消つ	
							「ぼの不始末。	
		PD > 6 + 4	III de su				(日本火災中 東京日々新聞 横浜歴中年寿) 全焼494戸	
1910 3	19	明治43 明治43	<u>神奈川</u> 茨城県	火災 落雷·降雹	野毛町大火	野毛町 真壁郡・西茨城郡・水戸市・那珂郡・久慈郡	全统494户	『横浜近代史総合年表』 『茨城県史年表』
1910 5	, 2	明治43	埼玉	その他		吹上町域		『吹上町史』
1910 6	1 2/	1 明治43	茨城県	洪水		伊奈町	小貝川大洪水、県道水海道土浦線で1メートル冠水	『伊奈町近代・現代史年表』
1910	26	明治43	群馬	洪水		利根郡	河川増水する(国民新聞) 家屋流失、田畑決壌、橋流失あり(川田村)	『群馬県気象災害史』
1910 8	3 1	明治43	神奈川	洪水		県内全域	前線と二つの合風が8月1日~14日の連日大雨を降らせ水害をおこした。 横浜でははじめの台風が接近した9日20時頃から気圧は降下をはじめ、東風が強まった。 しいし副低気圧の発生によって風はそれほど強まらず10日21時に最大風速東北東13.9m/sを記録した。またあとの台風が接近した13日10時 頃から再び東風が強まり15時に12.5m/sとなった。14日未明一時東風が強まったが5時間位で弱まった。 この2つの台風と前線活動による記録的な大雨は県内のほとんどの河川を決壊させ流域地方は全般にわたって大洪水を起し未曾有の大被 害を出した。 県の被害表では死者37、負傷者19、行方不明2、住家の全域45戸、半壊94戸、流失75戸、床上浸水3557戸、橋梁の流失・埋没461ヵ所、堤防 の決壊4473所、山くずれ2258ヵ所など。	『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部
1910 8	3 6	明治43	群馬	洪水	明治43年水害	県全域	(測候所雑纂, 気象要覧, 気象月報) 死者284、負傷者142、行方不明22、家屋流失倒壊埋没1476、半壊627、床上浸水15579、床下浸水11575、田流失埋没2571町、田冠水6298 町、畑冠水10251町、道路決壊15817所、格楽流失2039、堤防護岸流失689(気象要覧128号) 雲雨のため18万町歩の耕地を侵し、2400万円の損害(群馬郡) 利根川筋5ヶ所破堤、渡良瀬川4ヶ所破堤、その他の支流十数か所破堤、西部の2、3か町村以外泥海となった、死者21、行方不明28、住家全壊254、半壊262、流失217、床上浸水6890、床下浸水940、土地の浸水12109町、農作物損害高百数十万円、浸水面積郡の8割弱、館林町は全部水中に没し、舟行する程、外判木方面も城沼の溢水のため内判木境迄道路を没する程であった(邑楽郡) 白川氾濫し、未曾有の災害、死者1、負傷者1、家屋の倒壊1、半壊2、床上浸水65、罹災者560人、田畑流失30町、農作物被害45町5反(長野	『群馬県気象災害史』
							日川に温し、末旬有の火音、先有1、貝勝有1、家屋の街場1、千場、床上浸水63、権火有300人、田畑派犬30川、展17物核音43叫3及(安野村) 利根川増水、総社橋が落ち、前橋との交通途絶、天狗岩堰水門を壊し、下流数百町にわたる灌漑の利を奪い、沿岸の田、林、稲田に被害 (総社町) 吾妻郡、烏川、白川等大氾濫、殊に烏川における被害もっとも甚だしく、沿岸の流失家屋115戸、浸水14余戸(中川村) 芳賀村、糸之瀬村、横野村、薄根村にも大洪水の記録あり 連日の降雨にて県下各川は作朝来非常に増水、沿岸各地に被害、邑楽郡は甚だしく、利根、渡良瀬の濁流は郡内2000戸を侵し、利根川筋 邑楽郡永楽村大学赤岩地先7尺5寸増水、渡良瀬川筋13尺5寸に増水、沿岸地方一面の泥海上化す(上毛新聞)	
1910 8	8	明治43	東京	洪水		東京府下	連続2回の台風により荒川、綾瀬川、江戸川などが決壊、死者・行方不明者52名、負傷者117名、浸水家屋194,889戸、8月8日~15日まで	『東京の消防百年の歩み』
1910 8	3	明治43	埼玉	洪水	水害) 明治43年大水害	埼玉県内		『新編埼玉県史』通史5、『新編埼玉県
		BB 36 + 4						史』別編4自然、『埼玉県行政史』1、
1910 8	3 9	明治43	千葉	洪水	関東大水害	千葉県北部(利根川·江戸川)	権両前線と台風の影響で8月6日夜以来、利根川と江戸川の増水が激しなり、9日午後6時印旛郡安食地先堤防で越水、氾濫、11日には東 義飾郡布佐町の堤防が決壊、日龍都布建村の堤防が決壊、表帯予町地先の堤防も氾濫、決壊、12日には中利根川流域で水害発生、13日 には下流部でも被害。13日香取郡滑川町で堤防決壊、浸水域拡大、さらに佐原地域に深刻な被害を発生させる。	『千葉県の歴史 通史編 近現代1』
910 8	9	明治43	千葉	洪水	関東大水害	千葉県北部(利根川・江戸川)	8月中旬連日の南東風は遂に一大暴風雨となり雨量250耗に及び利根川は未曾有の大洪水となり滑川堤及び十六島等各所の堤防決潰し濁流暴混し下総常陸の間は遂に一泥海に変し数郡の地悉く水底に没し浸水は屋瘡に達するに至れり。 8月12日間宿利根川18尺4寸、江戸川18尺7寸出水、未曾有の洪水で利根江戸両川が印旛沼方面に於いて堤防の決潰したもの66箇所に及び被害は甚大であった。 8月15日氾濫其極に達し堤防決潰す。本町[佐原町]岩ケ崎の堤防決潰し瞬時にして濁流滔々本町の南岸を浸す。 8月15日氾濫其極に達し堤防決潰す。本町[佐原町]岩ケ崎の堤防決潰し瞬時にして濁流滔々本町の南岸を浸す。 8月16日午後時より濁水巳に堤上に及び奔流風に激し波浪は堤身を揺り到る処に大亀裂を生じ、午後9時半[佐原町]笄島地先決潰す。稲田3000余町、民家1000戸、水底に没す。	『千葉県気象災害史』
1910 8	10	明治43	茨城県	洪水	関東水害	茨城県	利根川未曾有の大洪水、死者24、負傷26、流失家屋662、全壊361、半壊576、浸水3万4975(『水戸市水害誌』	『茨城県史年表』
910 8	3 10) 明治43	神奈川	洪水		海老名市	利根川未曾有の大洪水、死者24、負傷26、流失家屋662、全壤361、半壤576、浸水3万4975(『水戸市水害誌』 霖雨(りんう)。霖雨八月十日及十三日ノ洪水二ヨリテ相模橋墜落ス。(萩原静夫『海老名村郷土年表』1984より作成)	『海老名市史8 通史編 近代・現代』 『埼玉県警察史』1、統計数値は『埼玉県
910 8	10	明治43	埼玉	洪水	明治43年大水害	埼玉県内	台風の北上に伴う豪雨で河川の増水や山崩れが発生。	『埼玉県警察史』1、統計数値は『埼玉県 水害誌』から引用。
910 8	10	明治43	埼玉	洪水	明治43年大水害	埼玉県内		『(明治四十三年)埼玉県水害誌』
910 8	10) 明治43	埼玉	洪水	明治43年大水害 明治43年水害	元荒川・綾瀬川流域	堤防の溢水で流域が浸水。	『岩槻市史』通史編
910	10	明治43	東京	洪水	明治43年水害	浅川・多摩川流域ほか	梅雨につづく台風の影響で、8月10日浅川流域で洪水が起き、萩原橋と大和田橋が流出するなどして八王子町は孤立状態に陥った。東浅川 町では洪水の発生により近隣地域と協力して防災業務を行った。	『新八王子市史』通史編5
910 8	11	明治43	神奈川	水害				 『横浜近代史総合年表』
910 8	3 14	明治43	茨城県	洪水	関東水害	茨城県	利根川未曾有の大洪水、死者24、負傷26、流失家屋662、全壊361、半壊576、浸水3万4975(『水戸市水害誌』 上流部では、当時立川附近から上流がほとんど無堤状態であつたので、平野面は上・下面とも浸水し、沿岸各所で著しい砂礫の侵蝕堆積が	『茨城県史年表』、『利根町史』第7巻他
910 8	3 15	5 明治43	東京	洪水		東京府全域	上流部では、当時立川附近から上流がほとんど無堤状態であつたので、平野面は上・下面とも浸水し、沿岸各所で著しい砂礫の侵蝕堆積が あり、田畑の流失埋没か多発した。また福生・拝島附近では、河道が大幅に転移し行取界が日となった。支流の南浅川では南浅川橋上・ 水無瀬橋下でそれぞれ右岸堤が決潰し、平野面のほとんど全面と上流部における低い段丘、小扇状地の周総部とが浸水を豪った。平野面 での浸水深は1~1.5m、湛水期間は0.5~1日であつた『水害予防対策土地条件調査報告書』)。東京府郡部の被害として、流失45戸、浸水4 万3224戸、堤防決壊162ヶ所、河岸決壊53ヶ所、道路決壊135ヶ所、橋梁流失及墜落35ヶ所。	『多摩川誌』
1910 8	3 24	明治43	群馬	洪水		県中部、中部山沿い	人家倒壞死傷者10余名、農作物被害175町、16000円(群馬郡) 家屋流失1、半壞6、破損4、橋梁流失47、田畑流失埋没18町(富士見村) 前橋の浸水家屋50戸則上、小野上にて家屋流失6、埋没2、半壞19、浸水200、死者4、負傷者10名(国民新聞)	『群馬県気象災害史』
	3	明治43	千葉	洪水		手賀沼周辺	<u>即間の/スパネ産300円 メ、パチ上に、多産ル大の、生ダス、干壊19、スパス00、元19、</u> 良勝110円(国民制度) 利根川政修2期工事(取手一佐原間)着手、8月洪水後の51、8月、2度の台風により利根川未曾有の大洪水、各地に破堤相次ぐ。	『手賀沼周辺の水害』
1910 IE		明治43	栃木	洪水	関東大水害	関東一円	『いまいち市史』では山林伐採の影響を強調	『栃木県土木史』(栃木県土木部、2001年)、386-400頁、『足利市史』上巻、1088
1910 8 1910 8	'							頁、『佐野市史』(佐野市、1979年)、742- 750頁、『小山市史』通史編皿近現代(小 山市、1987年)、495-497頁、『いまいち 市史』通史編VI(今市市、2006年)、168

1910 12 15 18 18 18 18 18 18 18	1910	10 10	0 明治43		群馬	洪水	前線	邑楽郡	利根、渡良瀬川の氾濫により、浸水家屋2000戸、農作物被害多数(邑楽郡) 邑楽郡富永村の堤防約70間破る、渡良瀬川沿岸は一面の泥海と化す、死者50余名、浸水総戸数3065戸、新田郡渡島町二つ小屋にて利根 川増水、堤防破壊数か所、北甘楽郡下仁田町西牧川の八千代橋流失、多野郡神流川、鏑川も増水のため交通途絶(上毛新聞)	『群馬県気象災害史』
1900 1900	1910	11 24	4 明治43	1	栃木	火事				『いまいち市史』通史編 V (今市市、2005 年) 447-449頁
野から 野から 野から 野から 野から 田水 田水 田水 田水 田水 田水 田水 田	1910	12 15	5 明治43	- 1	油夳川	4/35		長者町	全性154戸 半時27戸	
1971 1 1 1 1 1 1 1 1 1		12 1					公園に トス	[文日平]	I MILOTI V T MILIT	
1911 4 19 日本の			227		100-1-		D MICO.			1987年)、495-497頁、499頁
1911 4 2 明治44										
1911 4 4 明治44 東京							旧神風楼火災			『横浜近代史総合年表』
1911 4 9 明治44	1911	4 2	明治44						気温の急激な低下に伴う凍害。	
1911 6 19 明治44 神奈川 暴風 神奈川 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東										
期による水害は健康であったが、類による後書が大きかった。 田田	1911	4 9	明治44		東京	火事		浅草区新吉原江戸町	焼し、西は下谷区竜泉寺町、東は隅田川沿いの浅草区橋場町、さらに千足から南千住に至り、32か町を焼く、死者5名、負傷者109名、全焼	
1911 7 14 明治44 千葉 基風 千葉県没座館 5月19日女中院に暴風底り波音の協称の難破態る多し、選及する者もあり。	1911	6 19	9 明治44	1	神奈川	暴風		横浜市・足柄下郡・他	雨による水害は軽微であったが、風による被害が大きかった。 県の被害表では死者15、負傷者52、行方不明6、住家の全壊126戸、半壊93戸など。	『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部
1911 7 14 明治44 千葉 基風 千葉県没座館 5月19日女中院に暴風底り波音の協称の難破態る多し、選及する者もあり。	1911	6 19	9 明治44	- 1	神奈川	展風雨		横浜港	死者30人、行方不明者多数	『横浜近代史総合年表』
1911 7 14 明治44 神奈川 その他 落雷 高産部・淬久井部 高産部・淬久井部 高産部・淬久井部 高産部・淬久井部 高産部・淬久井部 高産部・淬久井部 高産部・淬久井部 高産部・淬火井部 高産部・淬火井部 高産部・淬火井部 高産部・淬火井部 高産部・淬火井部 高産部・淬火井部 長藤泉北部から前ま葉して後辺に互り果北西部から相模川沿いと多摩川沿いに下流域を移動した言葉による。果内の雨量は30mm位の所が多かった。 (家食月報) 特奈川 高瀬 横浜市・三浦郡・久良岐郡・植樹郡・他 今回の台屋は同年6月に未製比と台屋による様まのの講師の高潮時之重なり、東京落沿岸で見割15m。相模質の異鏡岬の東面した海岸でも1mに近によったが皮皮の海が流灰し、相径川の厚木で水位3.5m。 (名号川上北海 松田3.0m。 (毎月川上流 松田3.0m。 (毎月川上流 松田3.0m。 (毎月川上流 松田3.0m。 (毎月川上流 松田3.0m。 (毎月川上流 大棚で3.5m。 (日本) 大海川と中海が出来ない。 (日本) 大海川と中海・大海・大海・大海・大海・大海・大海・大海・大海・大海・大海・大海・大海・大海										
台風による南東の強風は、高瀬を引き越し28日の3時頃の高瀬時と重なり、東京海沿岸で果瀬川が、相横満の真鷸岬の東面した海岸で北西に達した。のから水東、神奈川略社が大きかった。 横浜港の内部では上海、大平体128年、18年 18月 18日							落雷		高座郡、津久井郡で被害あり、落雷により死者2名、家屋1棟焼失。 長野県北部から南東進し午後2回に亘り県北西部から相模川沿いと多摩川沿いいに下流域を移動した雷雲による。県内の雨量は30mm位の所 が多かった。	『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部
1911 7 26 明治44 突城県 淡水 伊奈町 洪水により板橋村、三島村などで被害が発生 『伊奈町近代・現代史年表』 「伊奈町近代・現代史年表』 「伊奈町近代・現代史年表』 「伊奈町近代・現代史年表』 「伊奈町近代・現代史年表』 「伊奈町近代・現代史年表』 「伊奈町近代・現代史年表』 「伊奈町近代・現代史名音年表』 「伊奈町近代・現代史名音年表』 「伊奈町近代・現代史名音年表』 「伊奈町近代・現代史名音年表』 「伊奈町近代・現代史名音年表』 「伊奈町近代・現代史名音年表』 「伊奈町近代・現代史名音年表』 「伊奈町では日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日	1911	7 25	5 明治44	1	神奈川	高潮		横浜市・三浦郡・久良岐郡・橋樹郡・他	台風による南東の強風は、高潮を引き越し26日の3時頃の満潮時と重なり、東京湾沿岸で昇潮1.5m、相模湾の真鶴岬の東面した海岸でも1mに達止た。このため東京、神奈川を結ぶ六郷の橋が流失し、相模川の厚木で水位3.8m、酒匂川上流、松田3.0m、鶴見川の上流大棚で3.6mと、各河川とも増水した。 横浜港の内部では平均潮位面が3.0mも高くなったため流失船舶が7.80隻、破積船舶が970隻におよんだ。高潮の被害が大きかったのは三浦、久良岐、横浜、橘樹の1市3郡で、難破船は三浦郡が最も多かった。 県の被害表では死者29、負傷者57、行方不明15、住家の全壌367戸、半壌354戸、床上浸水2200戸、船舶の流失・沈没758隻など。	『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部
1911 7 26 明治44 茨城県 淡水 伊奈町 洪水により板橋村、三島村などで被害が発生 『伊奈町近代・現代史年表』 1911 7 1912 7 1914 7 7 7 7 7 7 7 7 7	1911	7 25	5 明治44		千葉	高潮	台風	千葉県全域	台風高潮を伴い家屋建物の倒壊人畜の死傷あり。海上は船舶の沈没遭難あり。千葉県では被害甚大。	『千葉県気象災害史』
1911 7 26 関治44 神奈川 黒風雨 「横浜近代史絵合年表』 1911 7 明治44 神奈川 景雨 1911 7 明治44 神奈川 景雨 1911 7 明治44 神奈川 景雨 1911 7 1911 8 10 明治44 神奈川 景雨 1911 8 10 明治45 1911 10 1911 10 10 10 10	1911	7 26	6 明治44		茨城県	洪水		伊奈町	洪水により板橋村、三島村などで被害が発生	『伊奈町近代・現代史年表』
1911 8 9 明治44 神奈川 豪雨 箱根丹沢山系周辺 雨は静岡県の東部から県の北東部にかけて降り、箱根石の水北東方へ25kmの間は大雨が続き、箱根丹沢山系周辺では、250~290mm 『神奈川県災害誌(自然災害)』前線の部の降水量があった。現の東水田では30日5時頃より、また中部より北部一帯は9日夕刻より10日明け方まで断続的におこった。 相模川の最高水位は厚木で13尺8寸、柏尾川は戸塚で8尺余、深谷川は7尺余に達した。 河川の増水氾濫による被害やがけ顛れによる被害やがけ顛れによる被害がけ顛れによる被害がけ顛れによる被害がけ前れによる被害がけ前れによる被害がけ前れによる被害がけ前れによる被害がけ前れによる被害がけ前れによる被害がが時れによるが表きがけ前れによる被害がけ前れによる被害が大きかった。 県の被害表では死者5、負傷者4、住家の全壊11戸、半壊12戸、流失1戸、橋梁流失133カ所、堤防決壊161カ所、道路破損647カ所、山くずれ 3795方所など。 (神奈川県測候所気象雑纂、気象月報) 「横浜近代史総合年表』 1911 8 10 明治44 神奈川 黒風雨 横浜近代史総合年表』 1月11 8 10 明治44 神奈川 黒風雨 横浜近代史総合年表』 1月12 3 19 明治45 柳木 火事 「宇都宮市、1981年3)、283-289頁	1911	7 26	6 明治44		神奈川	暴風雨				『横浜近代史総合年表』
1911 8 9 明治44 神奈川 豪雨 箱根丹沢山系周辺 精根丹沢山系周辺 雨は静岡県の東部から県の北東部にかけて降り、箱根丹沢山系周辺では、250~290mm 『神奈川県災害誌(自然災害)』前線の部の降水金があった。 雨に神の足鼻があった。 雨に中の上雪は県の南西部では9日15時頃より、また中部より北部一帯は9日夕刻より10日明け方まで断続的におこった。 福模川の最高水位は厚木で13尺8寸、柏尾川は戸塚で8尺余、深谷川は7尺余に達した。 河川の増水氾濫による被害やかけ前れによる被害がわけ前れによる被害がわけ前れによる被害がわけ前れによる被害がわかった。 県の被害表では死者5、負傷者4、仕家の全壊11戸、半壊12戸、流失1戸、橋梁流失133カ所、堤防決壊161カ所、道路破損647カ所、山くずれ 3791カ所など。 (神奈川県測候所気象雑纂、気象月報) 「横浜近代史総合年表』 「横浜近代史総合年表』 1911 8 10 明治44 神奈川 黒風雨 横浜近代史総合年表』 1月11 8 20 明治44 神奈川 黒風雨 横浜近代史総合年表』 1月12 3 19 明治45 柳奈川 黒風雨 横浜近代史総合年表』 1月12 1月15						洪水			7月に3度の台風、手賀沼3年連続の水害。	
1911 8 16 明治44 神奈川 暴風雨 1911 8 20 明治44 神奈川 暴風雨 横浜近代史総合年表』 1912 3 19 明治45 栃木 火事	1911	8 9		1	神奈川	豪雨			雨は静岡県の東部から県の北東部にかけて降り、箱根方面から北東方へ25kmの間は大雨が続き、箱根丹沢山系周辺では、250~290mm の降水量があった。県の東部では70~150mmで被害はなかった。 雨に伴った雷は県の南西部では9115時頃より、また中部より北部一帯は9日夕刻より10日明け方まで断続的におこった。 相模川の最高水位は厚木で13尺8寸、柏尾川は戸塚で8尺余、深谷川は7尺余に達した。 河川の増水氾濫による被害やがけ崩れによる被害が大きかった。 県の被害表では死者5、負傷者4、住家の全壊11戸、半壊12戸、流失1戸、橋梁流失133カ所、堤防決壊161カ所、道路破損647カ所、山くずれ 379カ所など。	『神奈川県災害誌(自然災害)』前線の部
1911 8 16 明治44 神奈川 暴風雨 1911 8 20 明治44 神奈川 暴風雨 横浜近代史総合年表』 1912 3 19 明治45 栃木 火事				1 1	神奈川	豪雨		鶴見川		
1911 8 20 明治44 神奈川 暴風雨 横浜近代史総合年表』 1912 3 19 明治45 栃木 火事 1918 年第宮市史記・現代曜町(宇都宮市、1981年)、283-26-89頁 1918年)、283-26-89頁										
1912 3 19 明治45 栃木 火事								横浜港		『横浜近代史総合年表』
										『宇都宮市史』近·現代編 I(宇都宮市、
	1012	4 1:	1 服治45		工在	その他	险 雹	千葉県全域	4月11日午後6時から50分までの間にあられ、ひょう降る。形状大豆大。	『千葉県気象災害史』